

6572 15-4-1

嶺丘

1970 No.75.76
45年度 第3.4号



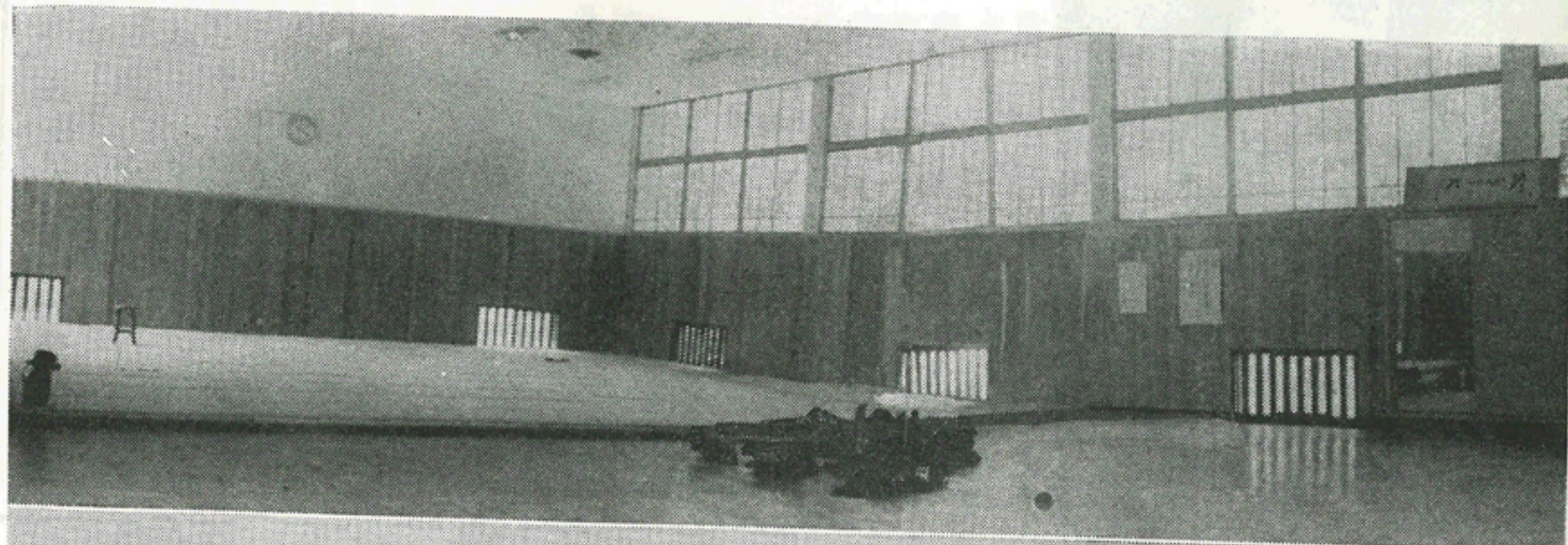
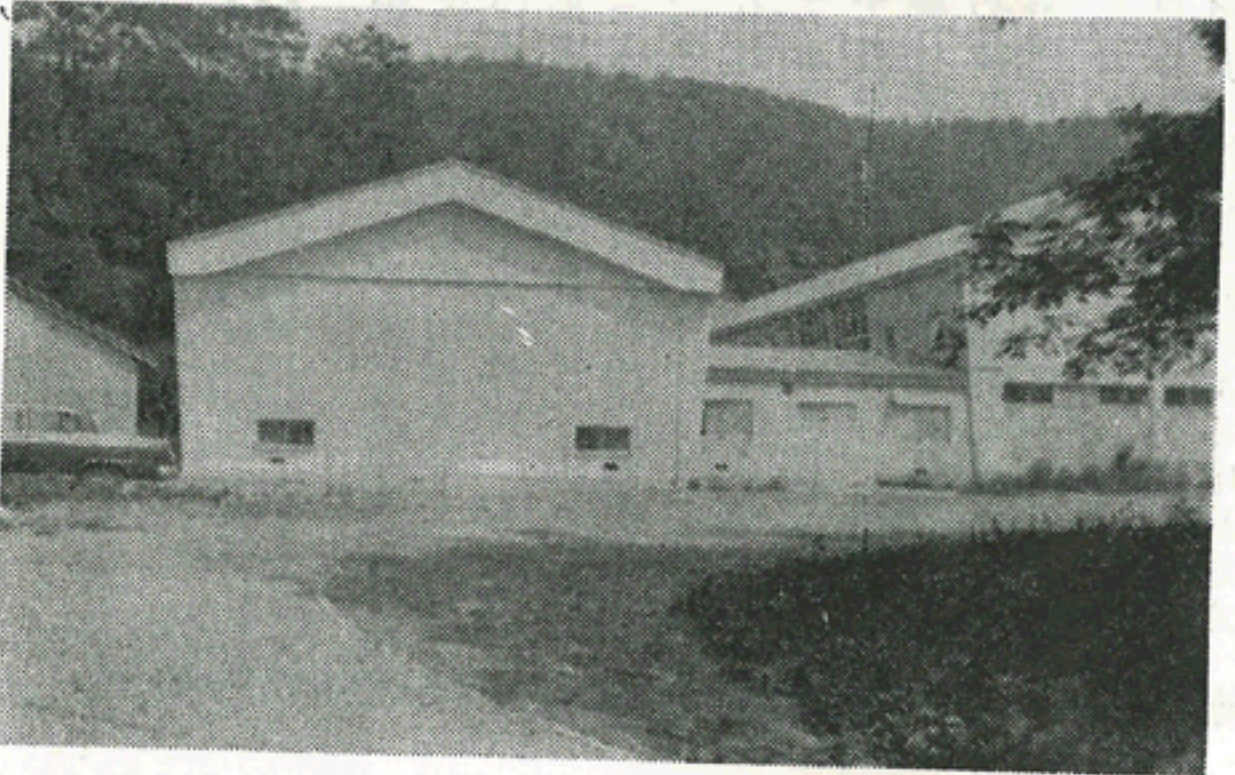
朝里のサクランボの樹と小供
S.M. Ito à Torii

朝里のサクランボ
那河 捷

小樽商大
同窓会誌



男は黙って ザッポロビール



昭和四十六年は母校小樽商科大学の創立六〇周年を迎えることになる。明治四十三年設立をさだめられ、

四十四年四月開校したもので、今や昔の旧校舎は次々に改築され、グラウンドも年内には完成するという。

創立六〇周年を来年に控え 変貌しつつある緑丘

緑丘

全 国 版

(通巻)No. 75.76号
(45年度 第3.4号)

(「緑丘」編集部)

〒662 兵庫県西宮市清水町

1の16 麓目英三内

(緑丘会大阪支部)

大阪市北区梅田八番地

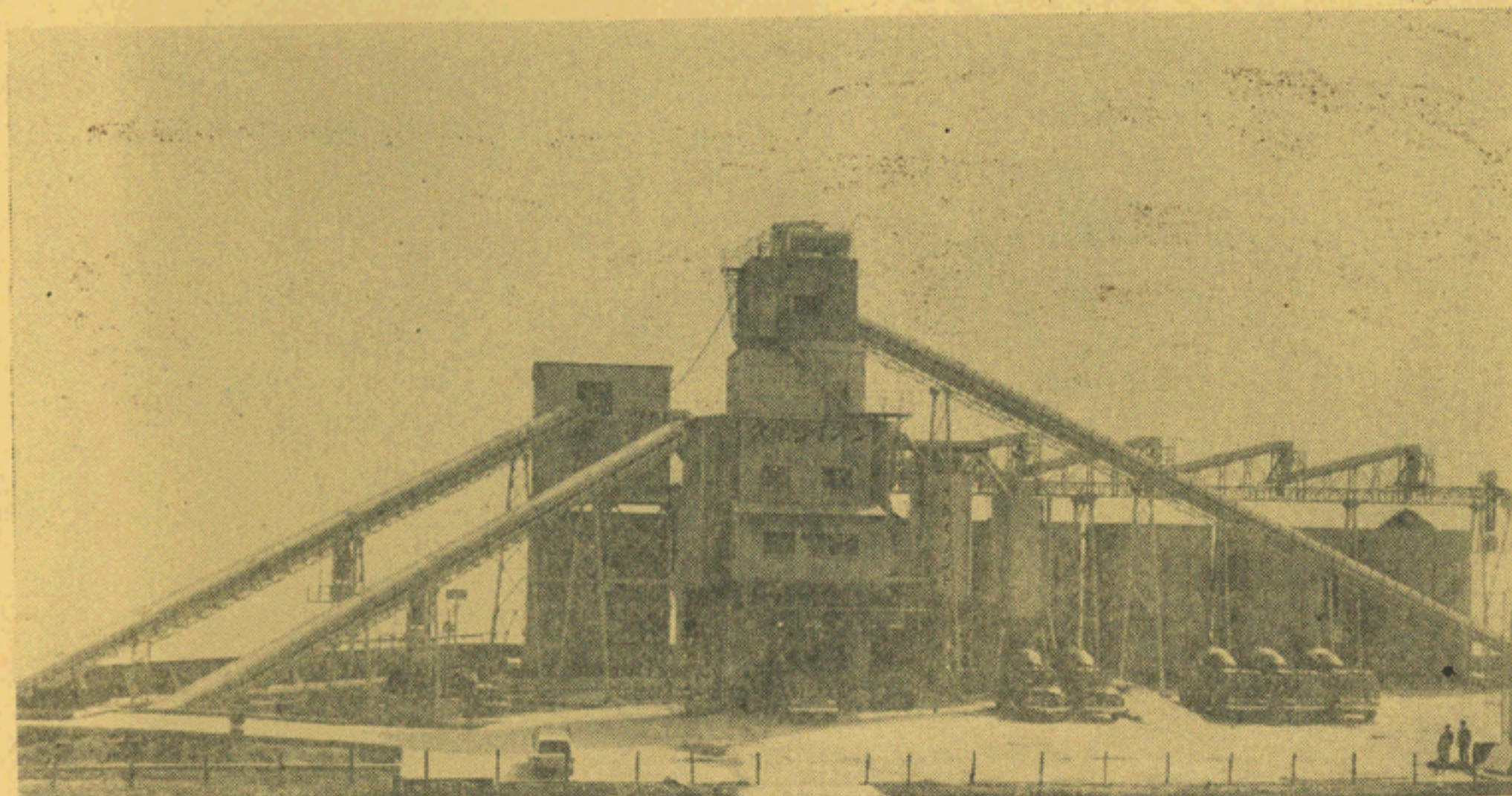
新阪急ビル8階

サッポロビル(株)内

国土総合開発に貢献する KYC

営業品目

ベルトコンベヤ・クラッシャー
コンクリートミキサー・砕石プラント
設備コンベヤ・バッチャープラント
バッチャースケール・トラックミキサー



KYC 建設機械の総合メーカー 光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村正美 (昭17卒業)

本社 大阪市北区南同心町1丁目31番地 TEL大阪358-3521 (大代表)

支店・営業所: 大阪・東京・仙台・福岡・名古屋・広島・札幌・鹿児島

工場: 大阪・京都

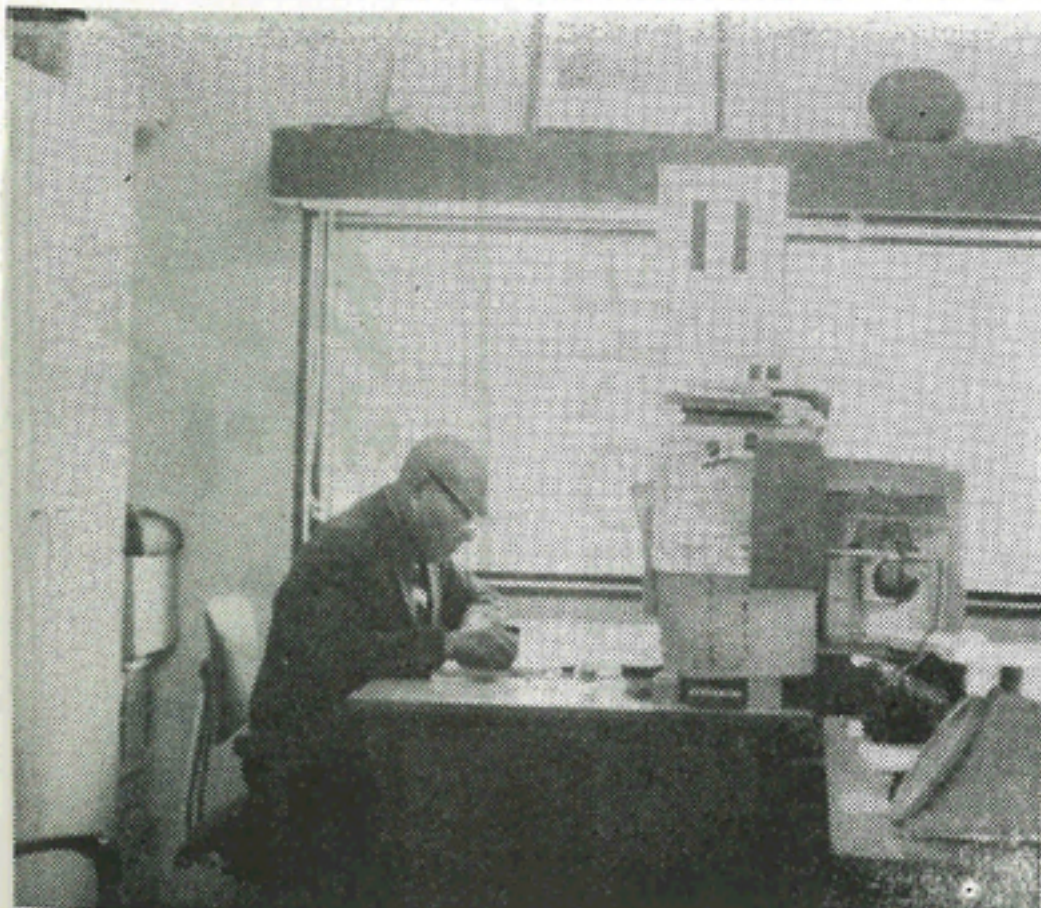
上から (1)新旧校舎 (2)(3)新武道館とその内部 (旧二寮三寮上手) (4)旧校舎裏山に造成中のグラウンド

中島与市さんの近況

緑丘会事務局は母校管理棟の二階にあつて、中島与市事務局長は助手に多留愛子さん、山内清次君(短大生)を駆使して寧日なき毎日をこの事務局に勤務されている。

中島さんは大正八年の卒業、大野初代学長、戸井正三氏らと同期、ゼネラル物産(非常勤職員)勤務の時、大野、戸井両氏に乞われて昭和三年三月事務局長におさまった。来年で満十年を迎える。そして、七月、八月の炎天下一日も休む事なく地獄坂を登っている。

八月十五日終戦記念日も迫る頃、緑丘戦没者記念塔の周囲を鎌を手に



腰に手拭をさげて、除草に汗を流し、そして記念塔の清掃を黙々とやっている一老人を見つけた。この人が中島さんであった。

「八月十五日 札幌の同窓生がこの記念塔にお詣りに来ます。八月二十五日は昭和五年の全国大会が、そして十月十日は昭和十年が三十五周年でここに見えます……。今年の北海道は特別暑い様です。新グラウンドや新武道館をご案内しましょう」と先に立って案内下さった。

「この坂、気をつけて下さいよ」と自ら先に立って降りられる。私とは親子の年齢のある中島さん、七〇代とは誰れが見るだろう。

(緑丘編集部)



緑丘戦没者記念塔の中で清掃にいそむ中島与市さん



母校旧校舎の雪景色

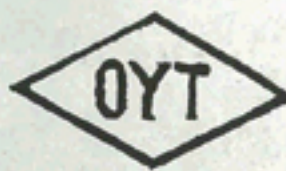
カラー写真「母校旧校舎の雪景色」(三〇cm×二五cm) 一、五〇〇円(送料含む)

希望者は左記へ定額小為替(一、五〇〇円)を入れて申込まれたし。(中島事務局長は手数料二〇〇円の便利な定額小為でと特に指定)

小樽市緑三丁目 小樽商大内
緑丘会 中島与市 宛

緑丘会 中島与市 宛

耐火煉瓦・不定型耐火物・クレー(製紙用)
各種工業窯炉の設計施工



大阪震業耐火煉瓦株式会社

専務取締役 松村義公(大正15年)

本社 大阪市北区梅ヶ枝町164(宇治電ビル) 電話(364)3524代
東京支社 東京都千代田区大手町2の8(日本ビル) 電話(270)8961代
九州出張所 北九州市八幡区山王町1丁目 電話八幡(67)3070
工場 岡山県 日生工場・三石工場・吉永工場・岡山クレー工場

九月



取り残された夏の空に、一刷毛の雲が流れていく。

季節がゆっくりと、風景のまわりを、めぐり始める。

へさらば夏の光よ

あまりにもあわただしか

った夏の光よV

言葉は言葉のまま、悔いのように、荒れた舌に残る。

そのもどかしさが、九月の歩みを緩めるのだ。

サルピヤの花が、両道の側に延々と続いている。

(三月月朗詩集 四季の手帳より)

緑丘通信

☆六月五日NHKテレビニュースは国立博物館が南極探検家白瀬中尉の資料を集める事となり、大正十二年卒神部健之助邸を訪問した事を報道した。同氏は、元白瀬邸に居住しており、博物館員は探検時の寝袋が完全に保存されている事に驚いていた。同氏は白瀬中尉の短冊をはじめ沢山の資料を保存しているが自ら白瀬山と号している事は度々この「緑丘」で報じている通りである。

「南極に心をやりて思い入る隊長の眼(まなざし)きびしかりけり」

☆北海道文化財保護協会副会長越崎宗一氏(大一一)は去る七月三十日の北海道新聞に「北海道とフェリ―」と題し「すずらん丸」が舞鶴、敦賀と小樽を結んだ壮挙を祝福して寄稿。それによると小浜、敦賀で巨船を建造して米増、日用品を松前へ送った寛永一正保にかけての建部家の事から筆を起し、北陸と蝦夷地、北陸と大阪との二つの航路に従事した北前船の事に及んでいる。

☆昭和十一年以降の卒業生なら母校緑丘に温水プールが設置された事を知っているであろう。苦米地英俊校長時代、大谷水泳部長を中心として資材値上りで一時実現を危ぶれたものを猛運動の結果、昭和十年の五月から着工、十一月三日に盛大なプール開きがオリンピック選手など根上博氏ほか代表選手三名と母校水泳部の創立者高桑市郎氏(大一一四)らが参加して初泳ぎを行なった。このプールが今尚水がはられて何時でも泳

<中央>の貸付信託

- 5年もの……年7分4厘7毛 (予想配当率)
- 2年もの……年6分4厘5毛
- 一口1万円●元金保証●一人100万円まで無税扱い可●便利な無記名式もあります●郵便局からも申し込みます

中央信託銀行

本店/千104東京都中央区京橋1の3 (567)1451

ける様になつてゐる。一方高桑氏は社団法人「タカクワクラブ」を作つて今年で四十三年。塩谷の海水浴場で六十七才とも思えぬ姿を見せ若手会員を指導していた。

ゆとりが
できます



永遠の戦後

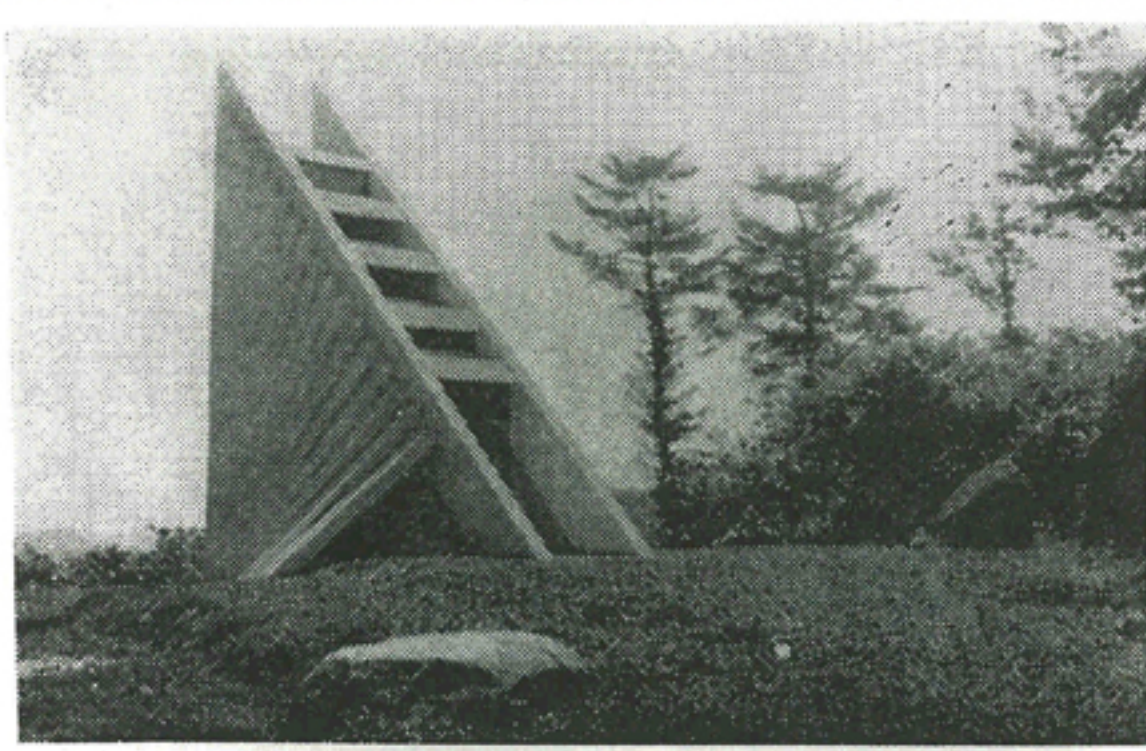
消えない戦没者記念碑の悲しみ

松尾正路

(小樽商大名誉教授)

▽▽対話の間泣く
▽▽き続けた母

昨年の終戦記念日に完成した小樽商科大学の戦没者記念碑は、戦没者の学友同窓生たちがあつたという間に、つくりあげてしまったもので、私はただの発案者にすぎない。事のおこりは、三十六年の夏、終



戦記念日のラジオ番組企画で北海道放送のT氏と戦没学徒の遺族をおたずねして歩いたことに始まる。しかしこの時、記念碑建立を思い立ったわけではない。救いも慰めもない、あの父母の絶望の嗚咽(おえつ)を、目のあたりにして、だれが記念碑のことなど考えられよう。そんな具象物や儀式はむしろ死者と死者を悲しむ者への冒瀆(ぼうとく)であると思つた。この時ほど政治家や評論家の平和論議がそらざらしくきこえたことはなかった。

年老いて、さみしくわび住まいしておられたY君のお母さんは、たいへんもの静かでおぼろげなく、まるで水中カメラに映っているような感じだった。いつも顔色の蒼(あお)い、長身の、おだやかなY君が教壇の机の上に答案用紙をおいて、静かに音もなく出ていった印象にそっくりだった。しかしお母さんにはなにか手のとどかないものがあった。こちらの質問にはほとんど無感動に要点だけ答え、おたずねすることはそれだけですか—というような様子だった。テープレコーダーなど持ちこんでぬけぬけとむすこの戦死のことなどたずねる突然の来訪者に腹

を立てておられるのだ、と気がついて、私は、はっとした。恥ずかしくなった。おわびとお別れのあいさつもして立ち上がるうとした時、お母さんはうつむいて泣いていた。私の推測はまったく見当違いだった。お母さんは私たちとの対話の間、ずつと泣いていたのだ。あとで録音で聞いてみると、かすかに聞きとれるお母さんの声が、こみあげる感動を力いっぱい押えふるえているのがはつきりとわかる。最良の書物は著者の声なきこえてくる書物である、と言った人がある。視覚をのがれる魂は私たちの目よりも耳を通して存在するのだろうか。

▽▽手紙にみるN
▽▽君の健全な死

N君のお母さんは戦地から届いたむすこのN君の手紙をいくつか読んでくださった。嗚咽と涙でいくたびも声が詰まり、手紙を持つ手がふるえていた。むりもない。N君はもう手紙の中ではつきりと死を覚悟していた。男子出産の知らせを受けると、自分は安心して死ぬことができると母あてに喜びのこぼれを述べ、弟の名前は「タテオ」がよからうと書いた後に、家族あての送金のことまで、だれそれにくらと、細々と書きそえてあった。N君は北海道の風土から飛び出した健康のシンボルのような学生で、いつも赤銅色に日焼けしたまろやかな顔は、どうしても悲惨な戦死の場面と結びつかない。健全な生と健全な死、それはありそうにもないことだが、疑う

余地もなくありえたのだ。

▽▽戦争をのろう
▽▽ことばはなし

I君の両親はお互いにいたわり合っている老夫妻という感じで、戦没したむすこさんのことなど話題にするのもお気のどくだった。ここではめずらしくお父さんが話者となったが、どこの家庭でも戦争を呪(のろ)い、その責任者を糾弾(きゅうだん)するようないふことは、ことばの端にもうかがえなかった。I君の御老父にしても、庭に出て山を見ると、毎朝むすこが汽車に乗ってあの山の向こうの小樽の学校へ通ったのかと思えばかりで、といって男泣きに涙をぬぐうだけであった。

▽▽深い悲しみに
▽▽洗われた人間

こんなふうにもむすこを失った親たちは、悲しみのあまり戦争を呪い戦争の罪禍を考える気力を失ってしまったのだと、反戦平和の闘士は言うだろう。だが、こんなふうには深い悲しみに洗われた人間の心は、もうどんな口実のもとにも、憎悪(ぞうお)や殺戮(さつりく)の実践には参加しない。これが平和の本質でなくてはならぬ。これが正義と愛国心で死者を呼びもどそうとする人たちはもちろん、人間の悲しみの深さにまでならんかの名称を与え定義づけようとする歴史家や社会科学者にも私は警戒している。小樽商科大学の戦没者記念碑にしても、資本家の飼犬(かいいぬ)ど



もが建てた戦争準備のシンボルだと定義すれば、あしたにでも破壊されるものである。

▽▽夏空に立つ
▽▽純白の記念碑

すべての芸術作品が物的素材や形

(八月十四日北海道新聞所載) 【写真説明】 戦没者記念塔の中には 戦の野に果つるとも 若き命 この丘にとままりて 消ゆることなし 友よ 安らかに眠れ の碑文の上に鈴に代わるこの金属のオーナメントが天井から下っている

体をそなえているように 私たちの愛も悲しみも何かの形象にたよっている。北海道の夏空と石狩湾の海を切つて立つあの純白の記念碑もその一つであろう。そこには平和や慰霊の文字さえ書いてない。純白の消えざる悲しみ、とでもいうべきか。永遠の戦後、と私は考えている。

税金百話(九)

北條恒一

(昭一五 税政評論家)



はつと見惚れる

私は東京府立九中を、きわめて劣

等な成績で卒業した。その原因は二年生と三年生と続けて私の学級を担当した石本道勝という先生の責任にある。実に神経質な先生であった。それは虚弱な体質からきていたもの

であろう。なにごとにあれその本質からじっくり取組んでみようという私は同級のものにおくれをとりいつもゆっくり殿りからついていった。それをこの先生はいつも満座の中で私に恥をかかした。ますます勉強きらいになる筈である。漢文と作文かなにかを受持っていたが私の作文はいつも日本語になっていないとやられたものである。毎日「トツカピン」とかい言葉を受用しているというので、ずばり「トツカピン」とあだ名されていた。こういう様な先生でも私の耳にまだまだ残っている言葉が、たったひとつある。

「秋の景色を描くときは、画用紙の上に一面に黄色を塗りなさい。」という言葉である。東京のどまんなかではもう駄目だが、ちょっと都心を離れた郊外の秋の景色は、たしかにそういう感じを受けとめられる。

都心はどうであろう。十月の声をきくととたんに女性が美しくなるのである。肌つやがさつとひきしまり色彩の華やかさは十月の悦びである。女性が美しさを主張するのは、自分だけのためでないことを自覚してもらいたい。私など老化現象が急速に進んできているが、美しさへの憧れはいまだに消えていない。

新聞の拾い乞 食が横行闊歩

電車に乗っていると、さかんに網棚を見上げながら歩いてくる人があつた。新聞が載っていると、さつとそれをとる。開いてみて、気に入った新聞だと、それを持っていく。気に入らないと、ふたたびもとの場所に放り投げていってしまう。東京駅のホームにも通路にも屑入箱が沢山置いてある。中央線のホームには、新聞紙専用の籠(かご)が置いてある。もっとも、これは朝のうただけらしい。

肩入箱に手を突っ込んで、気に入った新聞がないか探している人もいる。中央線の籠にもいる。これらの光景をみて、私は共通点があることを感じた。その一つは、決して女性を愛するということではないことである。全部男性である。網棚に手をのばす種族には若いから老人まで年令層の幅は非常に広い。箱や籠に手を突っ込むのは、中年以上の男性である。私はその眼つきや顔相に、なにか特異な様相はないかと、しげしげとみつめるのだが、泥棒や人殺しにありそうな独特の顔つきの男はいない。

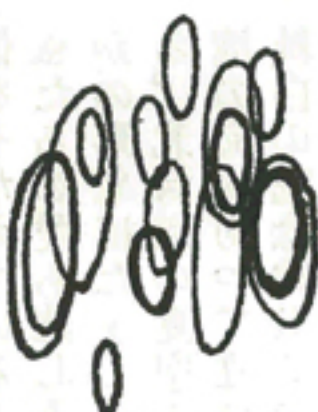
あたりまえの顔つきというものがあつたらば、それに属するものばかりである。共通の点の第二は、みんなちやんと洋服を着ていることである。着流しか和服をちゃんとしていない。着流しか和服をちゃんと着ている男は、自分の手を汚したくないのであろう。女性がやらないというのは、男性とちよつとちがつた潔癖さが、そうさせるのであろう。

読まれくたびれた新聞は、いろいろな汚れをもっているのじゃなかるうか。朝起きて便所にもつてはいり、第一面だけ読んで、あとは電車の中で読もうと思つて、小脇にかかえ込んで家を出てきて、読み捨てた人もあろう、電車のなかで読みながら鼻糞をほじり、それをこつてりなすりつけた人もあろう。大勢の人のなかには、肺結核の気がある人もいる、そういう病氣をもつた人が、電車のなかで、思わずむせ返えり、新聞で顔を覆つた人もあろう。情報情報とあらゆる職場が、情報

ノイローゼになつて居るのか、不潔を感じるより情報蒐集で頭が一杯でこういう世相ができたのか。新聞とは読んで知り考えるものだと教えられた私は、初めからピンと緊張した生きている新聞しか読む気にならな

拾い乞食が嵩じてくると、大変なのがでてくる。或る朝、東逗子駅で電車に乗り、荷物を網棚にあけているとき、私の脇を通りすぎた中年の小作りの男が、私の席より三つ四つ後の席の人から、「あ。それは私の新聞ですよ。」とやられた。その人がちよつと脇に置いた新しい新聞を、すたから頂戴しようとしたのであつた。その男にしてみると、新聞とは拾つて読むものだということになつて居るのかも知れない。なんとも、気になることが多い世の中である。

拾い集めて売つたらどうだろう。紙屑屋という商売があるが、業としてやり出したら事業所得について所得税などがかかる。サラリーマンが、あれで毎日一〇〇円も二〇〇円も稼げるわけではない。だから心配はいらないが、会社でもらう給料等以外に一年間に五万円以上の所得があると、確定申告の義務がある。いまのところ、新聞乞食に税金がかかつた例はない。とはいふものの気味が悪い連中だ。



追想

熱河で散つた

米沢四郎氏(昭八)

—遭難現場取材記録—

石母田 俊



昭和十七年か、十八年か記憶が薄れて、はなはだ故人には、申しわけない次第だが、季節はもう秋に近い頃だつた。

—というの、熱河承德県の山あいには、何処へ行つても、蕎麦の花がいつぱい咲いていた。

蕎麦の花は、遠くから眺めると、けつして真白ではない。なにかグルグルミミな白さを湛えていた。

縁起でもないものいいかたをすれば、それは白骨に似た白さだと表現したい一面の花の色であつた。

第二期生米沢四郎氏は北海道に生れ、旧小樽高商の出身者と記憶している。

たしか建国大学事務官から、熱河省承德県の副県長として、赴任した

ようであつた。

同氏の伝記として、私は米沢四郎伝といふかなり長いものを書き、文字通り拙いものではあつたが、戦後になって、表紙もすでに破損したもの、大事に保存されていた久子未亡人からなつかしいままに借りて、読ませて貰つたことがある。

○ 当時、熱河省は満洲国内でも、いちばん治安が悪かつた。北支と境を接するだけに、いわゆる辺境地区の特殊性として、いろいろ悪条件を胚胎しておつたことは、火を見るよりも明かなことである。

特に熱河省でも、承德県は、最悪ではなかつたらうか。ついにたまりかねた時の政府や関東軍は、国境地帯を無人境にした。十キロ米か十里か詳しいことは、私などの知るよしもないが、ともかく無人地帯をつくつて、北支から敵の侵入を防ぐという治安計画を樹てた。

政策を強行するために、不幸に

してその地域内に住んでいた農民の居宅はもちろん、いっさいがっさい焼き払われなければならなかつた。

その責任遂行の真正面に立たされたのが、副県長米沢四郎氏であつた。身体の大きい、色の白い、温かな眼付き、私の印象にのこる米沢氏の面影は、建国大学事務官時代、同大学教授の滝川政次郎博士を学院における講演依頼の用件でお目にかかつたのが、初めであり、それが終りでもあつた。

たまたま私も札幌生れだったので冬の北海道で、鬼灯のように真赤になつたストープのそばで食う柿のうまさ、あれだけは天下の絶品です。ね、などと遠い故郷の話に短かい時間ではあつたが、私たちは話しあつた。これが明日の命すら測り知ることの出来ない哀れな人間の淡々とした別離であつた。

建大の教授で、米沢氏のもつとも尊敬しておられた登張竹風先生をして、「雲の峰、きみのみたまにあくがる」という悲痛きわまりない老先生の哀悼の句を贈られる米沢氏になろうとは、当時、誰一人として夢想だにできなかった心温かい偉丈夫米沢四郎氏であつた。

○ 省都である承德で米沢副県長他殉職した数名の方々の告別式が執行されるので、大同学院から当時総務科長の宮沢次郎氏(第二期生)と、同窓会の事務を担当していた西村芳松氏(同氏は終戦後引揚途上、錦州で急逝したという)それに伝記執筆の資料取材のため私が列席することになつて、初秋の気配ようやく漂いは

じめた熱河へ急いだ。

車中、生死を共に誓ひあつた同期生宮沢科長の苦悶に充ちた硬ばつた表情、おし黙つたまま窓外に移り変わる風景を見るときも、悄然とした科長の顔、心中何を想ひ、何を考へておられたか。沈黙と哀痛に充ちた私達の長い旅であつた……。

○ 盛大な告別式が営まれた翌日は、空の芯まで見えるような晴れあがつた熱河の空であつた。

この日、米沢副県長の遭難現場を弔いに出かけることになつたのである。今、私は当時を考へて、よくあつたという辺鄙にして、不気味な現場へ行けたものだ、考へただけでも、慄然たる思いがする。

○ 羞ずかしい次第だが、現在の私には到底同行する勇氣も、決意も持ちあわせてはおらないこととはっきり断言できる。

いくら故人の伝記を書く資料収集のためといつても、遭難して幾日もたたない熱河の奥深い山岳地帯に、日系の私たちは、身に寸鉄も帯びずしかもトラック二台に分乗した満系の護衛警察官なる者は、前月満洲国側に帰順したばかりのほやほやだといふ。

無暴といへば、これ以上の無暴はない。よく私はいささかの疑問も、不安も、危惧の念も抱かなかつたものだ、そのことの方が現在の私にはむしろ疑問に思われて、しかたがないのである。

○ 官沢科長、西村氏、現地から一人か二人学院時代の同期生だつたか、後輩が一行に参加されたのではな

日本が生んだ世界のワイン

数かずの国際ワインコンクールで四〇個以上のメダルを受賞



ゆたかなコク、まろやかな舌ざわり合同酒精が、ワインの本場フランスポルドー地方の流れをくむ伝統ある日本でただひとつのワインづくりの殿堂「牛久シャトー」で丹念につくりあげた最高級の正統派ワインです。

ハチキャノンワイン

ゴールド赤・白 720ml 6000円
 シルバー赤・白 720ml 4000円
 スター赤・白 720ml 3000円

つたろうか。それにどうしても主人の遭難現場を、この眼でみたいと、久子未亡人がいいだした。「まだ危険です。命がけです。おやめなさい」誰も彼もが、やっきとなつて夫人の同行を断つたが、「主人の死場所死ぬんなら、私も仕合せです」毅然といひ放つた気丈夫な未亡人の決意を翻意させることは、誰にも出来なかつた。

○ 承德を早朝出発して、どれ位の距離を走ったか、私はおぼえていない。遙か遠くつらなる熱河の山々：打ちつづく山脈は、山肌ひとつ見せず、満山いまだ夏の緑衰えず、深い沈黙に、包まれた山々は、私たちを素っ気なく迎えてくれた。人家など一軒もない白い道を、トラックはひた走りに現場へ急いだ。ある時は、坂を登り、ある時は、河を渡り、谷を越え原っぱを横切り、現場へ着いたのは、午後もかなり過ぎていた頃であつた。肩から斜めにかけて弾帯のずしりという音を立てて、三十名近い警察官たちは、トラックから飛び降りて口々にわめき立てていた。

言葉などてんでわからない私は、その時はじめて、帰順直後という若い彼等に、いい知れぬ不気味さを、肌いっばい感じた。遭難現場は細い山道、ゆるい勾配の下りきつたところに、小川が流れていた。道の両側は透けて見えない南瓜の葉の繁み、副隊長の乗用車がこの坂で除行するだろことは、素

人眼にも想像がつく、待ち伏せする相手方にとっては、これとない屈強の銃撃場所である。

○ 相手はこの繁みのなかの石垣にかなり前から銃座を据えて一日か二日は待っていたらしい。それというのには繁みの後には食い散らした缶詰の空きかんが、沢山ころがっていたからである。そして一行が来るや一勢に襲撃したのである。あるいは九死に一生などという奇蹟の起り得るような生やさしい土地では決してなかつたのである。

副隊長は助手席に坐っていた。焼かれた自動車の残骸からは、フロント硝子を射抜かれた数発の弾痕が、読みとれた。幸い逃げ帰った同行者は報告している。

○ 応戦して殉職した満系警官数名、長途の出張に備えたトラックに積んでいたガソリンの発火が、敵方に大きく利したことも、悲惨さを倍加したといえよう。

私たちは焼跡の灰燼を、静かにかきまわして、何かしらの遺品らしいものを発見しようと努力したが、見いだしたものは、副隊長の所持品であつたという万年筆のキャップの焼けくすぶつた留金一つだけであつた。

○ 仰ぎみる初秋の抜けるような蒼い空、絞ればしたたり落ちそうな山々の緑、乾ききつた山間の白い路、熱血漢沢四郎副隊長は、かくして三十幾歳の若い生命を、熱河の人柱として、忽焉と逝ってしまったのである。余聞ではあるが、遭難当時、愛嬢照子ちゃん病気で入院していたの

で、夫人はしばらく留守だつた。米沢氏は独りで自炊生活をつづけていた。

○ 遭難後、自宅へ戻った夫人は、間に幾日分の新聞が読み捨てて重ねてあつたというから、用便中に、新聞を読むという寧日なき公務に東奔西走されておつたことが窺えるわけである。

○ 遭難現場から承德への帰途、かなり高い山の頂上で私たちは小休止をした。眼前は、まるで芝居の舞台背景の

大同学院に学んだ緑丘人(会報及びこの資料は(昭八)村岡英一、(昭九)紀野重仁両氏の提供)

期別(卒業年次)	氏名(小樽年次)	大同学院卒業後の勤務先	現在勤務先
二期(昭二)	米沢四郎(S8)	満州国熱河省承德県副隊長	昭一七、八、一八殉職
三期(昭三)	鳥井英雄(S9)	満州国地方公署	昭二一、一、二八死去
四期(昭四)	渡辺 勲(S10)	満州国通化省参事官	終戦後中国共産軍(八路軍)に拘留投獄され爆死の模様
五期(昭五)	村住正一(S9)	満州国ハルビン勤務中	
六期(昭六)	竹内良和(S11)	興安省北地区参事官、陳巴爾虎旗参事官兼盟地防務本隊長	大正市大正区千島町四一 竹内有限会社
七期(昭七)	紀野重仁(S9)	満州国実業部総務司、通化省参事官・長官房	大正市東区北浜五丁目新住友ビル、住友鋼管工事部
九期(昭九)	藤川精三(S11)	新京・専売総局	大阪市 松村組
	村岡英一(S8)	浜江省防水開発局総務課長	岡山市 日産プリンス岡山販売部
	森 稲造(S6)	ハルビン經濟部稅務司	北海道 伊達信用金庫専務理事

(一一頁から) と思うのです。ことにそうした資料が集められればその資料の調査閲覧のために明治村を訪れる人も出てくるでしょう。そんな人々はきつと泊りがけでやってくるに違いありません。もし明治時代のある特定の資料が明治村の博物館のなかに、蒐集された場合に、昼間はその資料に眼

ような熱河の山脈が、重畳と続き、空と一線を画した稜線が、果しなく続いていた。夫人は涙に溢れた眼で、突然警察署長から無理に拳銃を借りて、虚空に向けて轟然一発、また一発……。それが最愛の夫君への甲銃か、敵方への憎しみの発砲か、私には知るよしもない。残された未亡人のみが知る心境である……。同君の霊は京都市花園妙心寺慈雲院内大同地蔵尊内に合同慰霊さる。

移築のこまかい点を拝見させていただいたとき、その再建技術のすぐれていることは全く感歎の外ありません。



明治村参観記

加茂儀一

(前小樽商大学長)

(11) 先日明治村に品川の硝子工場移築の記念祭の行われましたとき、御招きをうけて明治村参観の機会をはじめ得ることができましたことは私にとりましては大きい喜びの一つでした。別に明治村を低く評価してはいたわけではありませんが、実際に見て実はその美事に一驚を喫したことを正直に申します。単に明治時代の建物がそこに再現されているというだけではなくて、建物が背景にマッチして生き生きとしている点は驚くのほかありません。しかも建築の

技術の傑作であるといつてもよいと思ひます。その意味では明治村の建物は世界における模範的な再建築のメッカといつてよいでしょう。しかもそれらの建物がすばらしい背景をもつて建てられていることに私は建物を羨やましいとさえ感じました。それだけに明治村の建物は再建

まいりました大正のはじめ頃に見ました隅外、漱石の寓居、昭和のはじめ頃見かけました乃木官邸、戦後長崎に遊んだときに立寄つたグラバー邸、札幌にいたときによく出入した札幌郵便局などみななつかしいものばかりで、それらの建物の前ではしばしば往時を偲ぶことができました。ことに神戸の大井牛肉店は私が生れた神戸の有名な牛肉店で、小学生の頃あの牛肉店のあつた相生橋を渡つて湊川の活動写真を見に通つたものです。今はあの辺の様子は全く変わって昔を偲ぶよすがはありませんが、明治村の大井牛肉店の建物を見たとき、はつきりと子供の頃のあのあたりの様子を眼に浮べることができました。東京へ留学して以来東京への土産物は必ず大井の牛肉店の肉だつたのですから、あの建物の入口は幾度かくぐつたことになりました。札幌もあの郵便局のあつた附近は今も全く変貌してしまつていますが、明治村ではつきりと子供の頃のあのあたりの建物を見ていると、吹雪の日に入らずに建物の前を両手をポケットに入れて通りすぎ、あの建物に入つて手でさらさらとした雪をおとしたときのことかまざまざと思ひ出されました。私はそうした建物を尽きぬ思いで立ち去りました。東京への帰りがけの車中では私はそれらの建物にからむその頃の私のことを思い出し、いろいろの追憶にふけていたお蔭で車中の無聊を慰めることができました。明治村の面積が余りに広いのでこれも驚きました。疲れていたいせいもあるが、全部見ることができなかったのは残念でしたが、私にゆかりのある建物を見ただけで

も明治村の有難味は十分でした。おそらく明治時代をなつかしく思っている人々の思いは私と同じであると思ひます。私はこの思い出をさらに新たにするために明治村を訪れる機会を今度もつとつくりたいと念願しております。ただ帰つてから思ひつたことですが、もし明治村の建物に縁がない人々や若い人々が明治村を訪れて一度は建物を参観しても、建物だけでは一度見るだけでそのあとでもひきつける魅力に欠けていると思ひます。明治村を観光する人々の数は年々増加していると聞いていますが、その中で二度以上もたずねて来る人が何人あるでしょうか。その統計をとつて欲しいと思ひます。なるほど建物にも十分魅力があります。建物だけで興味をひきつけるだけのものにしてよと思うと、単に建物を選んで再建築するばかりでなく、明治時代の生活が偲ばれる例えば町並みと家の内の生活などを再現する必要がありますかと思ひますが、それを実現するには大変な面積と費用が必要になります。建物の内にも明治の資料をおさめることができればよいと思ひます。もちろん明治時代全体に亘つての資料を集めることは大変ですから、明治時代における最も特色のある事件と対象になる事柄を選んでそれに關する資料を集めることにすれば出来ないことはないと思ひます。それも現物を集めることが困難であればコピーでも結構です。そうすればその資料を見ることによつて建物が生

商大グリーンクラブ小史 ①

戦後の復活から五〇周年まで

青木鎮夫 (昭三五)

一、はじめに

小樽高等商業学校に音楽を愛するものたちの小グループが生まれたのは大正九年であるという。俳壇の大御所高浜年尾先輩がリーダー格であられたことも御本人が書いておられる。(グリーンクラブ創立五〇周年記念誌「樹林に飴す」参照)

多感な青春の一時期を、ずば抜けて美しくかつロマンチックな環境で過ごす幸運を得た若者たちが溢れ出てくる情熱を音楽に傾注したとしても決して不自然ではないし、よしんば自ら歌つたり奏したりしないまでも、感激を内に秘めて静かに耳を傾けた者が常に多数あったことはむしろ当然でさえあつたろう。

こうした先輩たちのひたむきな姿勢とあくなき研鑽とは、いつしか小樽市民にも広く好感を以て迎えられ大正十一年の第一回演奏会以来、毎年一回若い歌声を小樽の街に響かせて来たのだ。だが……

あの冷酷無比な戦争が、この温かい歴史を断ち切った。昭和十六年、小樽の街は石川啄木の悲しい想いさながらに、「歌うことなき」明け暮

れを迎え、若い生命たちは余りにも無残にいけにえなつた。

昨年夏、母校の庭に戦没学生の碑が建立せられ、戦火に散った先輩の霊を慰める集いが催されたとき、グリーンクラブのメンバーはうち揃って霊前にぬかずいた。そして緑ヶ丘に歌声がよみがえったことを精一杯に霊たちに告げたのだ。この年が、グリーンクラブにとって創立五〇周年に当たったことも奇しき因縁というほかあるまい。

この小稿は、こうした長い歴史と数々のエピソードを持つ商大グリーンクラブが、永年の願いであつた東京での演奏会を本年十二月に決行しようとするのにもくろみがつまらぬとすめられている時にあつた、緑ヶ丘出身の各位にグリーンクラブの姿をよりよく理解していただき、おそろくなつかしい小樽の香りを一杯に持ち込んで来るであろう数十人の若者たちを、大きな拍手で迎えてやって頂けるようにとの願いをこめて綴るものである

二、戦いによぶれて

敗戦後の数年間に關する我々の記憶はいかにもの哀しい。というよ

求めての研鑽に身が入る一方で、より広い世界へ羽撃いてみたい欲求が頭をもたげてくるのは蓋し自然の成行でもある。

戦前には「小樽高商都市巡回演奏会」として、北海道各都市で歓迎されたという話は洩聞していたし、中央の有名大学グリーンが続々と道内へ演奏旅行に出かけてくるに至つては、我々も何とか……の気持も日増しに強まってきた。

昭和二十七年夏、前述の酒井マネジャヤーや土谷さん(昭三十年卒、小樽商業高校教官)、高橋さん(昭三十一年卒、安田火災勤務)等の努力で滝川、深川、名寄、北見の各地へ勇躍旅立つことができた。何せ戦後

はじめの事であり、迎えて下さった諸先輩や心ある方に、恐らく甚大なお骨折、御苦労をお掛けしたことを思われるが、とに角、中学校の講堂や公民館、映画館などの演奏会場は、いづれも沢山の人々で埋まったことは確かである。そして地元小樽でもそうだったように、男声合唱の美しさは初めて聴いた人々をも充分に魅きつけたし、まじめで精一杯の演奏態度は学生らしいものとして予想外の賞讃を浴びたものだ。快よい興奮は旅の疲れも忘れさせ、のどに悪い夜ふかしやアルコール類を厳禁する戒律も一向に氣にならぬままに四〜五日の強行スケジュールは消化されて行つた。

所が謹言実直なグリーンメンも所詮は人の子、感激、興奮がその極に達したときはやはりそれ相應に爆発もする。たしか北見市での演奏会(映画館が会場で、音楽映画のアトラク

りあまりの荒々しさ、とげとげしさがまず想起されて、いつそのとききれいさっぱり脳裏から払拭してしまいたい位のものだ。だから空襲や爆撃の直接的被害は殆んど無かつた小樽の街ではあつても、昭和二十一年という時に「みんな歌を歌おう」というグループ活動が逞ましく芽生え、しかもその翌年には十指に余る合唱団が合同演奏会を開いているという事実はまさに驚異である。

長い間待ちのぞんでいた平和を、両手いっぱい受けとめたという氣持、軍靴の響きに踏みじられた青春を、一刻も早く取り戻したいという氣持、そして食糧難、インフレなどの生活苦を暫くは忘れたらいい氣持、……それらが合唱の中に凝結したとも云えようが、それ以上に立派な指導者を得たことの力が大きい。

上元芳男氏(全日本合唱連盟理事事)、中川則夫氏(元小樽緑校高校教官)のお二方は、その意味で小樽市の音楽史に最大の功績者として讃えられるべき存在であらう。

同じ頃、地獄坂上の学舎からも、力強い男声合唱が流れてくるようになった。先に述べた昭和二十二年の小樽市合同音楽会には、小樽経専音楽部がワンステージ持つている。先輩のお話によると、どうにか聴いてもらえる程度に達するまでには、中川則夫先生の並々ならぬ御指導を頂いたとの事である。

三、逞ましき発展のとき

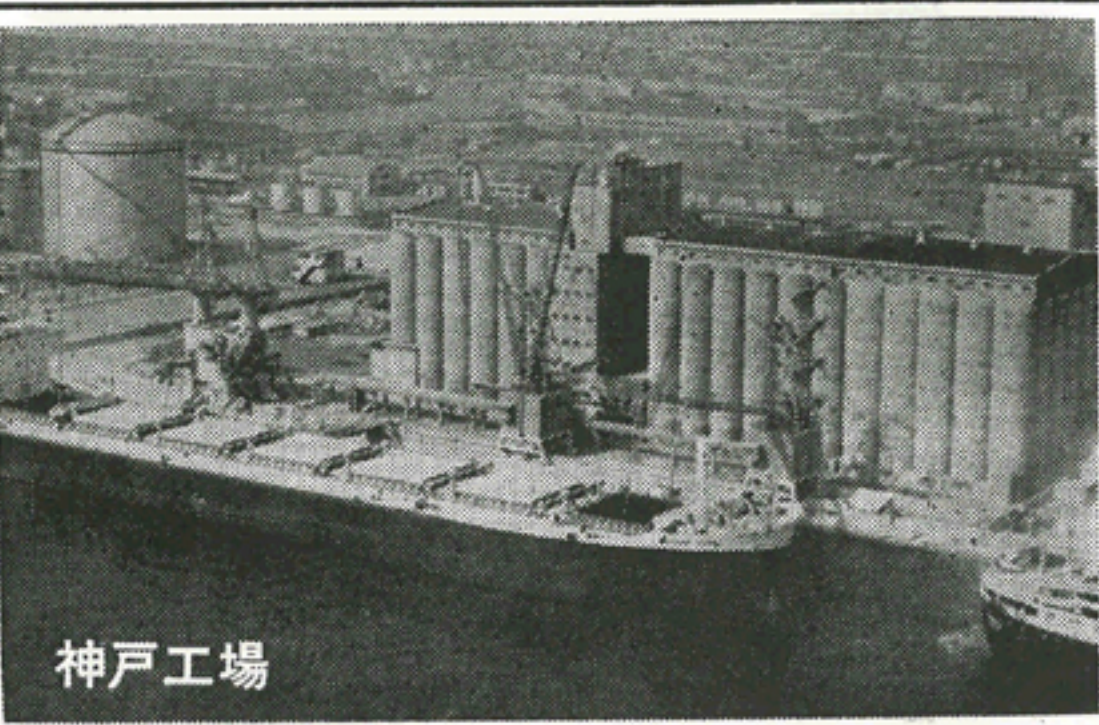
男声合唱の魅力は、聴く者の心にズッシリと響く重厚なハーモニーの

シヨンとして出演した。恐らく初めての終りという印象深い演奏会であろう)が終つたあと、先輩たちの御好意に甘えて会食ということになつた。勿論翌日も演奏があることとてアルコールは辞退した。然るに遅れて駆けつけて下さったT銀行支店長のN先輩は、既に若干召し上つておられたせいもあるが、「何事ぞ坊主の修業じやあるまいし、興じて杯を交わす欲びを断つのは生硬にすぎぬ。大いなる感動のない所に人間はなく、人間の無い所に芸術もない……」と嬉しいアジテーション。さればと持ち込まれたビールとウイスキーは、旅行前のハードトレーニング以来乾きに乾いていた若者たちの胃袋にまたたくうちに吸い込まれてしまった。「二階が落ちます」という声も聞かばこそ、腕を組み、肩を抱き合つてのストームを経て、グリーンメンが漸く眠りについたらのは弘暁の頃あいだったとか。

心配された翌日の演奏会は、どうやらボロを出さずに済ませ得たことは、グリーンの名譽のため敢えて記述するが、早々に体調を回復し得た若さと、緊張感だけは失なわなかつた。練磨の成果に助けられたといえるだろう。

それから毎年夏休みを利用しての演奏旅行は続けられている。各地の緑ヶ丘先輩に並々ならぬお骨折や御援助を賜わりながら、道内各都市は云うに及ばず、長野、岡谷など信州方面や、青森、弘前、秋田、盛岡など東北方面にも出向いている。そして数々のエピソードもまた……。

(つづく)



食品コンビナートのパイオニア

製粉・油脂・ぶどう糖・食品・飼料・倉庫

昭和産業株式会社

取締役社長 松本浩三

本社 東京都千代田区内神田2丁目2番1号
工場 鶴見・神戸・船橋・上尾・水戸・太田

神戸工場

緑 丘

の第一回卒業生として世に出られた昭和二十八年卒の諸先輩は、通算五年もの間地獄坂を登られた訳であり戦後のすさんだ世相も漸く落着いて来た時に当つたこともあつて、じつくりと腰を据えた同好会づくりをし

て下さつた。今も札幌で合唱界の重鎮であられる庄司さん(三田商会勤務)、東京グリーンOB会の会長をつとめられる秋岡さん(三井銀行勤務)のお二方は、高い音楽性を具えた有能な指揮者として、当時のグリーンクラブを著しく向上させ、一方ではクラブのマネジメントに關して、酒井さん(昭二九年卒、三井造船勤務)がその温厚な人柄と積極的な活動力とによつて全員を巧みにまとめられ、ほどなく学校の内外にグリーンの名は大きく

広がられるに至つた。大講堂ステージ脇の小部屋からは連日逞ましいハーモニーが流れ、レパートリーも西欧の古典からロシア民謡、黒人霊歌、宗教曲、学生歌等々、日を追つて拡げられた。

四、演奏旅行のあれこれ

演奏旅行のあれこれ毎年初冬の定期演奏会をはじめとして、全日本合唱コンクールへの参加、小樽市内の合唱団や高校音楽部との合同演奏会……と商大グリーの活動が活潑になり、そこへ関東、関西から本格的な演奏団体や一流の大学グリーン(大学の男声合唱団としては、関西学院、早稲田、慶応、同志社、横浜国大などが当時も今もうまい)が時折来演するようにもなつて、あれこれ刺激を受けてくると、より高度なものを

随想

僧俊寛の人格

森保 (昭一六後)

だれの心の中にも、幼いころ、母や祖母の肌から、直接感じとった愛情のぬくもりとともに、そのころに覚えこんだ童謡やおとぎばなしのいくつかが必ずあるに違いない。そして、ささいなこれらの歌や物語の言葉の中から、いつとはなしに人生の喜びや悲しみを知り、思いやりや愛情の意味を身につけて来たように思われるのである。

雑事に取り紛れたまま馬齢を重ね、忘恩のいく年を経たわが身にも体内のどこかで、これだけは忘れることなくうずくように生き続けて来ている物語の主人公が幾人かいる。一休和尚のとんちばなしや、良寛



が村の子どもたちとかくれんぼをしたはなしなどもその一つである。おもしろく、おかしきいていたこれらののはなしが、実は、それぞれ深く味わいのあるものであることに気がついたのはいつの年代のころであったろうか。「三つ子のたましい百まで」という言葉があるが、この二人の坊さんは、いつの間にか、私の身辺にいる親しい友達のような存在として、いつも私の心に慰めや支えを与えてくれていたようである。しかし、同じ坊さんのおはなしでも、鬼界が島の俊寛のはなしだけは子供ごろにも、全くやるせない気持ちになった記憶が、今でも強く心に残っているのである。

絶海の孤島に置き捨てられた俊寛が、海岸に面した絶壁のうえにひざまずきながら、声をかきりに、遠く沖の水平線の彼方に影を没し去ろうとする都帰りの船の影に向って叫び続けている雑話のさし絵は、いまでも忘れることができない。誰からも救いの手が差しのべられることなく、俊寛は、鬼界が島という名前をきいただけでもおそろしくなるような地で、その生涯を了えたであろう

ことを、子どもごころに、いろいろな想像しては、夜も寝つかれないようなこともあった。幼い心にきざみこまれた俊寛物語のこの強烈な刺戟は、年を経た今でも、大人の私の心に生き続けているようである。なぜならば、ふと行きずりの人影の中に、やつれた老人の姿を見つけると、鬼界が島の俊寛もこんな顔であったろうかななどと思うことも一再ならずあるからである。したがって、何かのきっかけがありさえすれば、僧俊寛は、一休・良寛という二人の僧とは別の意味で、いつでもどこでも、必ず私の心の中へうずき出し、想いを遠く鬼界が島に駆け立てるといふわけのものなのである。

このように、僧俊寛は、人身保護令状の恩典に浴することもなく、配流の身を、ついに救われることなく遠く鬼界が島で没したというのが多くの人の常識であり、私もまたそのように信じていたものの一人である。

ところが、さいきん人権擁護事務視察のため、九州地方を旅行した際、はかならずも佐賀市内に、僧俊寛の墓のあることを知り、一休、俊寛の生没は、どのような事情になっ

緑 丘

が寂しく俊寛の悲劇を物語るかのように残されているという。この島は名瀬からでも船で三時間はかかる。しかも、その名瀬には本土の鹿児島からは十五時間、ときには二十時間以上もかかる。俊寛の流されたという地は、このようにはるか彼方の海上に位置しているのである。

ところが、一方、佐賀市の佐賀観光協会編集にかかる観光案内書によれば、佐賀市内の有名な史跡の一つとして俊寛僧都の墓が写真入りで紹介され、次のような説明がそえ書きされているのである。

治承元年(一一七一年)、平家打倒の「鹿が谷の陰謀」が明るみに出て、島流しにされた俊寛僧都の悲しい物語は、平家物語や源平盛衰記にも記され、広く知られているが、その墓が佐賀の法勝寺にあることを知る人は少ない。島流しにあった俊寛は、のち、ゆるされてこの地にとどめられ、ここにその骨を埋めるに至ったと伝えられている。

所で寂しく没したことになっているのである。一体、佐賀市内の俊寛の墓石と平家物語とを対比するとき、俊寛の配流とその後のこととをどのように理解すべきであろうか。かつて、鹿児島地方法務局名瀬支局に支局長として勤務したことのある現佐賀地方法務局人権擁護課長中村武光氏のはなしによれば、「たしかに、俊寛の悲劇は、喜界が島でなければ、その実感を味わうことはできないが、当時の船の力では、荒海を超えて、鬼界が島までたどりつくことすらできなかったのではなからうか。むしろ、俊寛の流刑先は、鹿児島島の硫黄島ではなく、長崎港外の伊王島ではなかったかと考えられる」という。

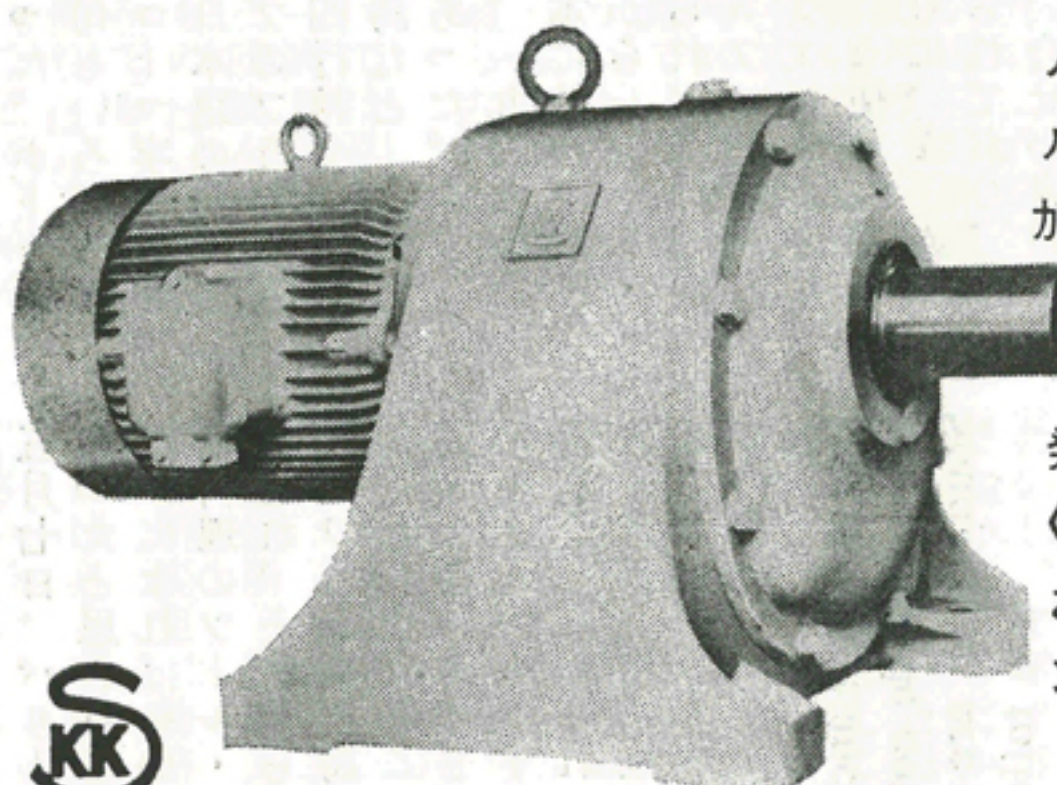
とすれば、俊寛は、長崎港から有明海を経て沿岸をつたわり、嘉瀬津港(現在、俊寛の墓のある佐賀市嘉瀬町)まで帰ることを黙許されたのではなかったとも思われるのである。

このようにして、もし俊寛が救われたものとすれば、平家物語の内容のいかんにかかわらず、私の心もまた救われるのである。(法務省 人権擁護局 総務課長・検事)



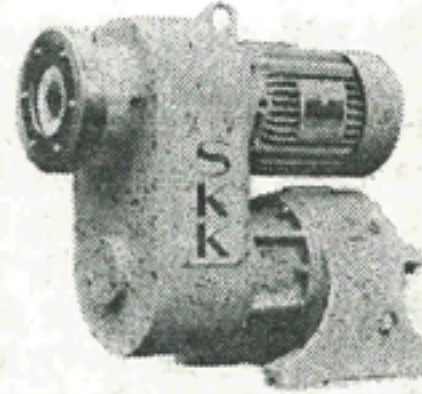
SKKAF形ギヤードモートル

あなたの工場にプラスする強力コンビ



バランスのよさで定評あるAF形ギヤードモートル。AF形に芸術的な感覚を加えたAIV形無段変速装置ギヤードモートル界のバイオニアSKKが開

SKKAIV ステップレス (無段変速装置)



発した自信作コンビ (より高能率、より高精度)をおのぞみなら、このSKKコンビをご採用ください。

株式会社 精機工業所 社長 逸山亨通雄 本社・工場 〒661 尼崎市上坂部467 電話大阪(06)429-5921(代) 支店営業所 東京・大阪・福岡・名古屋・札幌 大阪営業所長 河上鎮男(S16年前期卒)

コンラッド・メイリさんの死

鎌倉 啓三 (昭一五)

昭和四十四年の歳の瀬もおし迫ったある日、会社の私の机に通のクリスマスカードが返送されてきた。みるとそれはスイスの画家で俳人のコンラッド・メイリさんに送ったもので、封筒の表にはスイスの公用語である独仏伊の三国語で「死亡」と印刷された附箋がはってある。何かの間違ひではなからうか、何か確認の方法はないだろうかと思ひ思ひ悩む。メイリさんへは近年すつかり筆不精になって、年に一、二回のお便りさへ怠り勝ちであったが、クリスマスカードだけは欠かさずに消息をお伝へするきづなとしていた。

メイリさんの奥さんキクヤマタ女史の弟さんが鎌倉に住んでをり、丸の内事務所をもっておられた事を思ひ出し、お目にかかって事情をお聞きした。やはりメイリさんの御逝去は確かであった。しかも四月十二日になくなってをられたのである。静脈結石と心臓病が原因であったという。嗚呼！メイリさんにはとうとうお目にかかる事も出来ずに、終に永遠のお別れを告げざるを得なくなつた。

想ひ出は二十年前にさかのぼる。戦後ホトトギスを読み始めた私にとつて、毎月「フランス・コンラッド

メイリ」の名でのつてはいる句はまさに興味と敬服の対象であった。当時北海道の小樽に住んでいた私が、虚子先生にメイリさんの住所をお尋ねしたところすぐに葉書で住所を知らせて頂いた。——虚子先生が横文字で書かれた葉書も珍しいものではなからうか、これも私にとつて洵に貴い思い出の一つである。——それからメイリさんとの文通が始まった。学生時代から下手の横好きでフランス語に熱中していた私は、メイリさんのホトトギスにのつた句や自分の句を十七シラブルのフランス語に訳することを試み、拙い仏訳を次々に送つてあげた。

「貴君の訳によって自分のアイク——俳句——が日本人にこの様に理解されているのかを初めて識る事が出来ました。御礼を言います。——戦時中の日本でのつらい日々、私をなぐさめ力づけてくれたものは俳句であり、虚子先生の教えでした——」

此の初めてメイリさんから頂いたお便りのことを書いた「コンラッド・メイリさんの手紙」といふ拙文を虚子先生にお送りしたところ、先生はその一部をホトトギスにのせて下さつた。私にとつてこれ亦永久に忘れ得ぬ有難い思い出である。それから

せつせと便りを書いた。メイリさんも次々と手紙を下さつた。ホトトギスに投句する以外の句もいろいろと送つてくれた。勿論ローマ字ではあるが立派な本格的な日本語の句であった。又彼のグループのフランス人の「アイカイ」——四行詩や、十七音で季語をもつ三行詩など——を紹介してくれられたこともあった。

昭和二十五年には、一九三九年から一九四九年迄の日本に於ける活動によりフランス政府からレジオン・ド・ヌール勲章を贈られ、その祝賀の集いが、ラ・ロシュフコ公爵夫人邸で催され、ポールヴァレリー夫人も出席してくれたという便りも頂いた。殆どすべての便りに、虚子先生への思慕の情がこぼれられており、先生の健康を案ずる問合せが書いてあるのが常であった。或る年、私が小樽から上京して鎌倉の虚子庵を訪れ、先生にお目にかかった模様をお報せしたところ、非常に喜んで手紙を下さつたことがあった。「江の電」と小さな道にはさまれた原の台のあの簡素な先生のお宅をなつかしく思い出します。あの虚子庵で先生は私の送別会を開いて下さいました。立子さんも友次郎さんも御一緒に、その日先生は私に

冬椿咲きたる宿と忘るるな
といふ送別句を下さいました。そして数日後先生はわざわざ色紙を持って私の家迄来て下さいました。

またも来よ吾も亦行かな春を待つ
といふ句を書いた先生の色紙を私はいつも机の上の壁にかかけて先生を偲んでおります——と。

虚子先生との出合いは昭和十一年五月七日、パリーの牡丹屋に於てであったと思われる。先生の「渡仏日記」によればその日、先生は有名な鴨料理のツール・ダルジャンで食事をされ、それから友次郎さん達と一緒にフランスの詩人達の待つ牡丹屋に行かれた。そこに集つた約十人の詩人の中にメイリさんが居り、又後の奥さんのキクヤマ女史がその席の幹旋をしておられる。そして出席の詩人達が先生に贈つた一冊の寄せ書きの中にメイリさんの次の句がのつている。

Une palette blanche, —
Des tubes de couleurs, —
Soudain un arc-en-eiel recouvre
Une toile blanche,
Conrad Meili

白い一枚パレット
幾色かの絵具
たちまち白いカンパスは虹に蔽われる

原句は脚韻をふんだ四行詩でありシラブルは十七より少し多い。先生はその夜フランスの詩人達に次のような話をされ、キクヤマ女史がそれを通訳した。「俳句は十七シラブルの詩として此地に伝つていようであるがそれよりも寧ろ季の詩として伝へらるべきであつたらうと思ふ。俳句は季を諷詠する詩とも見るべく、又は季の連想を俟つて作者の感情を詠う詩とも解釈して差支えない。十七シラブルというような短い詩に於ては季の連想に俟つところのものゝ煩る多いのである。この季の連想といふものは日本人が多年養

緑 丘

い来たつた情懷であつて、俳句といふ詩を成り立たす根底のものである——」

その夜から数年後、メイリさん夫妻は日本に來たり、鎌倉に居を構へて虚子先生に親炙することになるのである。

一昨年、年尾先生がNHKの放送でフランスの俳句を紹介された折にも、メイリさんのことに詳しくふれてをられる。

メイリさんの句がホトトギスにのつた最後は昭和四十三年二月号ではなかつたろうか。

秋晴れや金をおびたる山の色

パリーの牡丹屋の夜から数へて三十二年、虚子先生によつて播かれた異国における「ハイカイ」の一粒の種が、こうして見事に花を咲かせ実を結んだのである。

メイリさんはパリーに於て、又スイスに於て、夫人共々幅広く日本文化の紹介にあたられ、講演に、著作に、俳句のこと、能のこと、或は生花、お茶と、日本への窓を大きく開くことに努められた。アニメールの自宅には四畳半のたたみをした部屋があり、どてら式のコスチュームで殆ど過しておられたとのこと。日本の俳句を愛し、日本のエスプリを愛して下さつたメイリさん。

初めてお便りを頂いてからはや二十年、一度は憧れのフランスの土をふみ、いつの日かメイリさんと相まみえる日のめぐりくることを楽しみに待望してゐた私ではあつたが、その望みも今や全く空しくなつてしまつた。

終に相見ぬ人ではあつたが、同じ俳句の道にたつた縁によつて、コンラッド・メイリさんの俳句がいつ

シェークスピアを読む

佐藤 信雄 (大一一)



昨年二回にわたつて「シェークスピア・カンツリ」といふ一文をのせていた。

「ヘンリ四世」を読み始めた時は、とも角もフォールスタッフと知り合ひになつて、あの世へ行つて浜林先生にお目にかかる時、恥をかきたくない位の氣持であつたが、段々慾が出てきて、二回目の一文を書いた十月下旬ころは、以前に読んだことのないのは全部読もうという氣持になつていた。

ところがその後もう少し慾が出て、序でのごとに以前に読んだものも新らしく読み直して、一体どの位の時間をかけたか、シェークスピアの全作品が読めるのか試してみたくなつた。そして一年余り、正確にいうと四〇六日を費やして、劇三七篇、詩六篇を全部読み通した。研究社から註の出ているものはそれを丁寧に参照し、研究社の註のないものは、シュミットのレクシコンを忠実に引いて読んだ。ただ「ジュリアス・シーザー」だけは、研究社の新しい註の到着がおくれたせいもある

までも私に語りかけ、私の心に明るい灯をともし続けてくれることを信じて疑はない。(完)

り、私が札幌の中学校で学んだ都築東作先生の註を頼りに読んだ。この註を見たのは今度が始めてであるが、実に立派な註で頭の下る思いがした。

読んだ作品の順は無方針だが、メモによつて読了に要した日数を書くこと、史劇に一二〇日(十篇)喜劇に一一三日(一四篇)悲劇に一三四日(一三篇)詩歌に三九日(六篇)かかった計算になつてゐる。時間数は八〇〇時間位になるだろう。

たしか小泉八雲の書いた文に、いやしくも文学に志すものは、シェークスピアの全作品を年に一度読まねばならぬとあるのを見て、それを実行する人があるだろうかと思つた記憶がある。私などは一生の思い出にしようやく一通り目を通したところである。

もっとも作品によつては私も何回か読んだものがあり「真夏の夜の夢」の五回を筆頭に、三回読んだものが四つ、二回読んだものは八つある。今度読み直してみても、始めて読むのと余り大して変りはなかつた。何よりありがたいことに、殆んどどの作品も面白かつた。哀れなも

の、鬼気迫るもの、ふき出したくなるもの、目をそむけたくなるようなものなど、応接にいとまなしという感じがした。

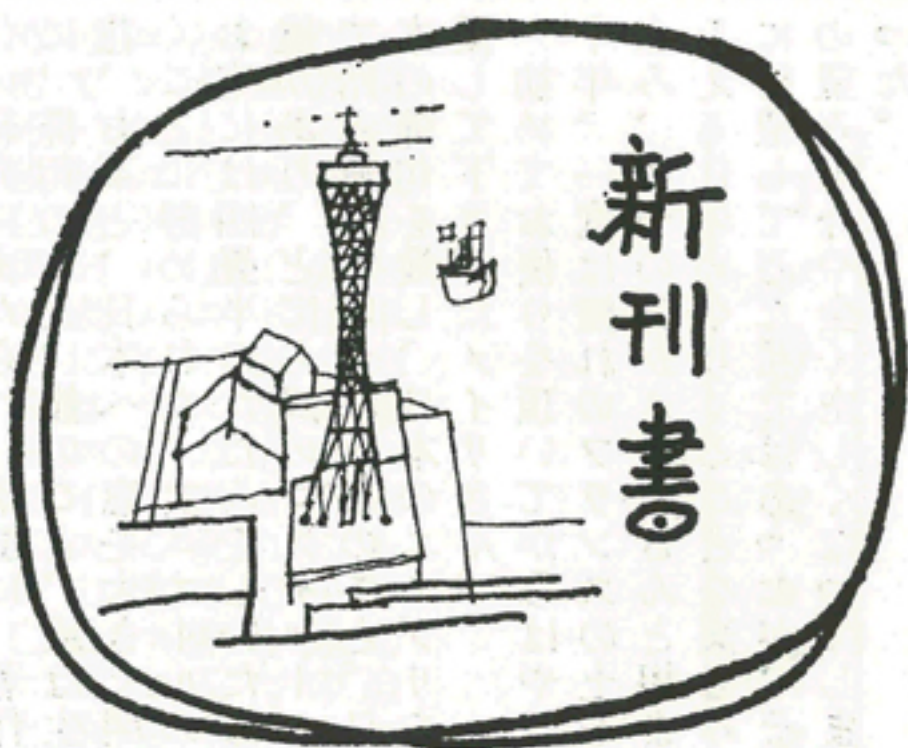
尚この前の拙文の中で「ウォーミング・パン」のことに触れたが、最近出た「アメリカン・ヘリテージ」の写真が出てゐるのに偶然気がついて一寸うれしかった。「ベッドパン」とも言うそう。

私にもう一つ念願がある。聖書を通読することである。今度新しい英訳が出版されたのを機会に一本を買い求め、その日から読み始めて今二〇〇頁位読んだところである。新約の方は一九六一年に出版になったのを六年ばかり前に読んだが、今度の新訳は六一年版と少し違ふところもあるというから、あらためて読みたいし、アポクリファは殆んど読んでないと同じだから、この際それも全部読みたいと思つてゐる。何とか無事に命永らえて読了したいものだ。

▲編集部からお願い▼

(原稿) 原稿は一行十六字でお願いします。

(住所・勤務先変更) 住所変更、勤務先変更のご案内には必ず卒業年次をご記入下さい。



新刊書

大正十一年卒 神沢重治著 樹影

宮地邦介

樹影 樹友神沢兄からその隨筆第四集「薫風や黄金造りの太刀佩いて」という句があるが、この本を読ませて貰っている、そういつた高雅にして多感な大官人を連想させられる。私は筆者宛読後感として折返し左記のように書き送っておいた。

「書中特に感銘を受けたのは中越弁慶号、河童隨筆、伊達姿、水引草、医王山であります。この他茶筵の各文には何れも居ながらにして幽境に遊ぶの思いをさせられました。御蔭様で公害の都大阪に住む老人にはこよない洗脳となりました」と

中越弁慶号にては記念の機関車にことよせては先人の偉業とその苦難の人生行路を偲ばれ、河童隨筆にては旭東吾氏の筆致をたたえ、その最も感動した一節として

「ある朝、ふとみると八十になる老母が式台に正座して一生懸命に私の靴をみがいていた。私が、まだ動めていたころは私の靴をみがくのが、母の日課であった。仏教信者である母はいつも口ぐせのように「正力さんのお力で、読売が、いまのように大きくなりそのおかげで一家の者が、人なみの暮らしをさせてもらえぬ」といつて感謝していた。せめてものことに息子の靴を一心不乱にみがくことが、母にとって毎日の生きがいであったのである。だが、いまは会社をやめてしまった息子の靴をどんな気持ちで、みがいているかと思つと私の心は暗く沈んでゆくのであった。」

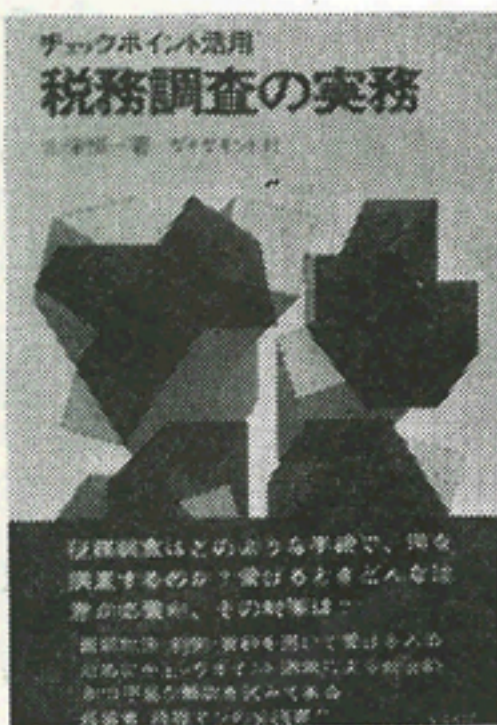
というくだりを移記されている。即ち河童隨筆を人生指針の示唆として受けとめておられるところに著者の謙虚な御人柄に頭がさがる。

伊達姿には私も共通の恩師達のことでもあり面白く読ませてもらったが、酒脱な筆に共感を覚えた。

水引草に至っては全く著者の独断場ともいへなく高雅の中にも哀歎を含み到底余人のたやすく達し得ぬ境地であり筆である。

地であり筆である。 医王山は紀行文の極致と申すべく末尾に、玄閑脇の巨大な益子焼の壺(カメ)に投げられた紫苑の花影が、とても印象的であった」と結んであるなど、心にくいまでの好妙な筆致である。

北條恒一著(昭一五) チェックポイント活用 税務調査の実務 (自費出版)



著者北條恒一氏は税務署勤務何年だろうと思つた位、税務署の裏を知っている。彼は一度も税務署などに勤務した経験がないのであるが、ものを見る慧眼が特にすぐれている。今までに発刊した単行本だけでも次のような多数にのぼっている。

- 「税金を軽くする経営法」(現代の生活社)
「不動産の税金対策」(実業之日本社)
「法人税務申告申請便覧」(実業之日本社)
「やさしい税務会計」(大蔵財務協会)

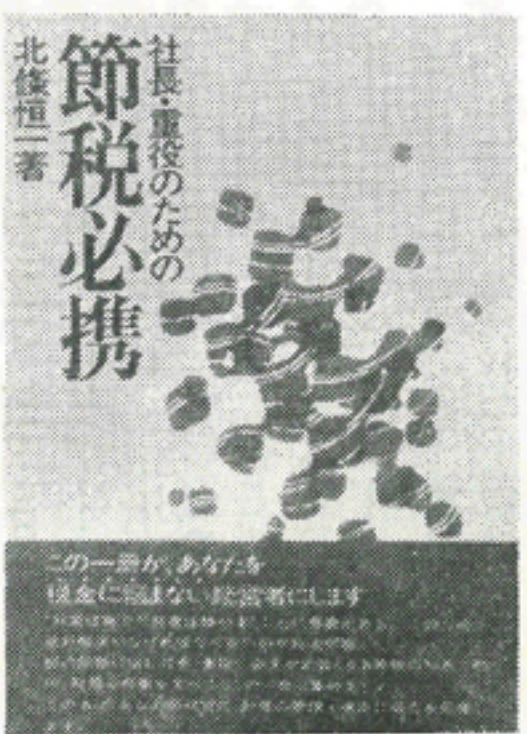
「減価償却入門」(実業之日本社)
「明解・税務簿記」(実業之日本社)
「やさしい管理会計」(大蔵財務協会)
「税金を軽くする事典」(ダイヤモンド社)

今回発刊された「税務調査の実務」は、冒頭に「すべての納税者について税務調査ができるか」という設問に対し「会社等法人の数は約一〇〇万である。これらの法人に関する税務行政上の事務を分掌する税務職員は約五万人で前年同期と比較してほとんど増加していない。昭和四十三年事業年度では全法人数に対して実際に調査を受けた会社数の割合は前年度より減り約一五万人の法人が調査を受けた」という。

「税務調査を受けることについて心理的に圧迫感を感じ」ることは著者はよく知っている。「税務調査を受けるとき、どんな注意をすればよいか」といつている。

「税務調査にかかわりあるすべての人にどのページを開いても役にたつものにする」ことを第一の願いとしたり、著者の配慮がいたる所に見られる。即ちチェック・ポイントを表にして各項目の末尾に詳細に掲載している。

Table with columns: 番号表, 書類名, 主な記載内容, 税務署の監査事項, 項目, 重要なチェック・ポイント



節税必携

北條恒一著(昭一五)

社長・重役のための

この表題に示すように人まかせにしがちな会社経営者に気らくに節税の方法を教えようというのである。第一章が会社を發展させる社長・

著者が心血をそそいだ部分であり「なかには作成するのに一週間もかかったものもある」といい、なお重要部分はゴシック体で表示し多忙な人々のために重要項目がすぐ見られるように配慮することを怠らない。判例には国税庁の編集による「直接国税課税関係判例要旨集(上・下)」(財団法人大蔵財務協会)から実務上役立つと思われるものを引用している。そして税務調査を受ける側に立って、こういうことを知っておいたほうが得であるということについてははもれなく記述している。「税金を軽くする事典」(ダイヤモンド社)であつたダイヤモンド社は再び「税務調査の実務」で当てようとしているが、チェックポイントの活用できるこの著書は我々の机上に設うべき一冊である。

重役の節税心得ではじまっている。「税務を忘れない経営こそ会社を發展させる」

心得7 もうけのうちに、税金分もぶち込んでおけ

心得8 毎日が決算だという気持ちをもて

心得9 社員にも勉強させよ、それが会社をふとらせる

これは一例であるが気軽に自家用車で会社へ通勤の途上で楽しく読めて不知不識のうちに税務知識を身につけさせようというねらいがある。

菅谷重平氏(大九)は書評を次のように書いています。

社長・重役ともなると、個人の所得税でも、会社の法人税でも、税金のことだけでも苦労する。しかし苦勞はするが、みずから税金と取り組んで解決を図らうとはしない。他人まかせである。

三日月朗詩集 四季の手帖

さきに「坂のある町にて」を自費出版した三日月朗氏(昭一八)は今回詩集「四季の手帖」を限定出版した。

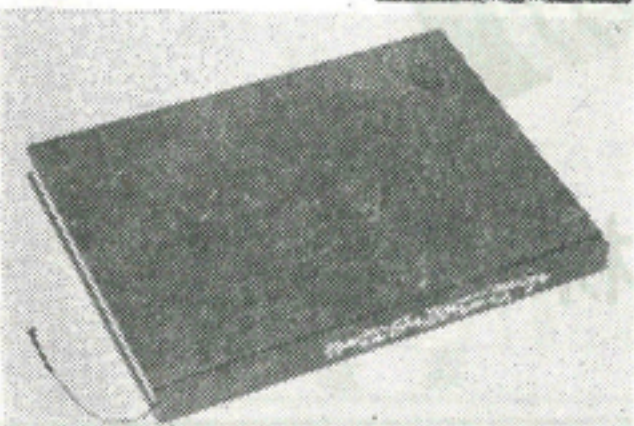
彼はいつか、私なりに「歳時記」のようなものを書いてみたい」と思っていた。ゆるやかな自然の運行の中で、時を刻み、日を数え、月を数える人間の知恵と

情感を私は改めて考えてみたからである。

日本の四季は美しい。花鳥風月に身をゆだねる境地にはまだほど遠いが、私の心の動きは、つねに大いなる自然の恵みの中にある。これらの詩篇になにか訴えるものがあるとすれば望外の喜びである。真赤な表紙に「四季の手帖」が白く抜かれ印象的な表装で、一月から十二月まで十二篇をおさめている。

(著者住所・栃木県宇都宮市清住三丁目二番二十一号)

木村清蔵遺稿集



昭九卒

一 ニューヨーク通信

彼木村清蔵氏は小樽高商を卒業してから二年間山形屋へ勤務して昭和十一年に神戸商大に入學した。卒業後大阪商船に入社、三十二年十二月ニューヨーク支店勤務となつた約二年間在米であつた。その間雑誌「海運」にニューヨーク通信として連載(昭和三十三年三月号から十六年八月号)したものをまとめた「遺稿集」とし四十五年七月一周忌を迎えるにあたり遺族木村夫人により発行されたものである。

文章がうまく、あまり旅行者には気のつかない所をよく見ている。「ニューヨークの地下鉄」では広告に関心を示し「電車の上段には一尺四方の間隔でいろいろな広告が行儀

よく並んでいる。業種は種々あるが類別すると、(一)煙草(二)ビール(三)薬品(四)銀行(五)飛行機等といった広告が多い。もともと必ずといって良い程:

When family life stops, delinquency starts.....

と書いてある下に、子供が馬乗りになつて喧嘩している写真や、よその門をコジあげようとしている写真が出てくる。日本でも『親爺ばかりゴルフに行つてると子供はこんな風になります...』という警告?が出て来るかも知れない」と面白い見方をしている。

中の広い人で映画や芝居の事には特に関心があつたようだ。

「ニューヨークの映画館」では「何処の映画館も座席が綺麗でユツタリしている。是はアメリカ人の大きな身体に合せて作つてある所へ小さい身体日本人が腰をかけるからさう感じるのかも知れない。大体入口のドアから観覧席へ行くまで三つ位扉を通るのが普通で、ロビーには噴水のある小さな池があつたり、花園を作つたりしている処もある」と映画館内部の観察にも詳しい。

「ニューヨーク生活と自動車」ではアメリカでの自動車免許の試験のことについてもテストの例など挙げ、役人と収賄は何処の国でもつきものと感した話やライセンスをとつてから見る交通事故の様相にもふれてい

る。四十三年大阪商船三井船舶の取締役になられたのであるが五十五才の若さで世を去つたことは惜しみても余りある。唯々冥福をお祈りするのみ。

「緑丘」45年度申込者氏名

(三)

(九月十五日到着迄)

- (あ) 相沢健一、赤木純三、阿部富次郎
- (い) 岩永周生、石田興平、猪俣二郎、井藤久也、岩井雅昭、岩崎鐘八
- (う) 宇佐美猪一郎、梅野卓男、上村甚四郎、梅田正二、植田英次
- (え) 江川裕一郎
- (お) 大滝直紀、大嶽英雄、老月雅彦、大木弘基、大沼恵五、大河内誠一、小宅元義、小川愛策、大流正八、尾崎哲平
- (か) 河合邦吉、金栄西吉、金岡達郎、金吉信吉、加藤敏、川村勉、勝海隆、柿本正三、川島道雄
- (き) 木村新、北村晋、菊池隆、北村良吉
- (く) 久米忠彦、蔵建蔵、栗生豊、栗林徳一、栗本周也
- (こ) 小林啓作、小堀真三郎、小猛、小宮康義、小沼武史、小池省三
- (さ) 佐藤良雄、佐藤清定、佐々木光雄、佐藤正人、桜重雄、桜井純一、坂本之三
- (し) 白勢慶吉、進藤孝二、島崎茂樹、塩田正典、進藤彰
- (す) 杉原一男、杉江猛、須永誠一
- (せ) 千野秀夫
- (た) 田沢貢、田所良穂、高橋巨、高橋政雄、高橋正彦、武光八郎、谷口輝時、高坂恒一、高田裕巳、竹村尉、田辺靖雄、谷本千代子、高橋義郎、谷英純、谷黒正二、只
- (ま) 野重太郎、高杉隆平、竹田吉郎、武岡達良、高野憲一郎
- (み) 津久井七雄
- (や) 寺尾八郎
- (と) 豊田正、土岐秀雄、苦米地正昭、東島常夫、富永義、豊島保郎
- (な) 中野祐良、中井義雄、中尾弘、中田正、那須国興
- (に) 西田忠男、西山克郎、西田英夫、西山正夫、西村保
- (ね) 根本北郎
- (は) 林源太郎、長谷川昌一、浜中学、馬場清義
- (ひ) 平岡貞雄、久松寛一、平元英雄、平塚達夫、平賀泰正
- (ふ) 藤井忠信、藤野栄吉、藤井幸男、深田省三、福田次助、藤田精一、藤城敏雄、福吉俊夫
- (ほ) 細川信四郎、本間誠一、本間慶輔
- (ま) 松村克巳、増田常次郎、牧野栄一、前田次啓
- (み) 右田熊市、三沢秀雄、宮地邦介、水島弘、三野六郎、三谷晃一
- (む) 村田久夫、向田辰雄、村形庸雄
- (も) 森田幸平、茂垣英夫
- (や) 山口保栄、山本陽治、山口恒四郎、山口公平、矢野正郎、山崎吉郎
- (よ) 横川義雄、吉沢正雄、吉田平太郎、吉田荘太郎、吉岡義二、横山為祐
- (り) 緑丘会東京支部

揺籃の人々

—青春の証人を読んで—

小野寺 佐

今朝届いた「緑丘」45年度第一号所載寺尾八郎氏の「青春の証人」程衝撃を受けた文章は昨今無い。「青春の証人」は、青春と云うには程遠いヤンチャ坊主時代の小樽正氣寮時代の回顧と寮母の近藤の小樽さんの写真入りの現況報告である。誰の想出にもある小樽時代、まして始めて親元を離れて寝食の世話をして頂いた正氣寮時代の想出は、後年の軍隊生活と共に人生既に五十五年を経て昨日今日の如く鮮明である。何の因果か蝦夷の国とも云う最涯の港町の学校に流れ着き心細い限りの少年時代、親代りに寝食の面倒を見てくれた寮母を忘れたと云う偉い人が居たらそれは嘘である。時の流れの遙けさに遠く霞んだか意識の底に淀んでいったかの何れかである。

寺尾さんの文章は、鮮やかに老年の霞んだ意識を揺り起し少年時代にもう一度若返りさせるに充分であつた。そして、忘れて居った通称爺公の尾身さん(掃除をしながら江差追分を唄う背の低い白髪の老人夏でも毛糸の腹巻を離さない)起床の鐘を振り鳴らしながら正氣寮中駆け廻る若い尾身さん、太ッチョの飯炊きの中村さん(その太った体を何時も持て余している)寮生に一番嬉しいおかずを作る頼みの近藤さん、此の近

藤さんが七十を越して未だ生きて居つたと云う事である。小生が、此れらの小父さん小母さんにお世話になつたのは、昭和八年と九年、十八才十九才の二年間であつた。その日のおかずに最も関心のあつた点は寺尾さん同様である。近藤さんの焼いた鯨が今迄一番美味しかった事も覚えている。何日だか出た牛の照焼の美味しかった事、もう一度食べて見た目がかかれぬのはどうした訳かともにも話した事がある。伊藤整さんが亡くなる前小樽の寮生活の事を話したら、「君の方が寮生活をしただけ僕より幸福だよ」僕は寮生活をしないのでどうしても「雪明りの街」に寮生活が書けなかつた」と云つて居たが小生等の如き文章に疎い者には北杜夫の如く「青春マンボー記」を書くのも気がひける。せめて、「おれが一番乗り」「残飯征伐」等伝統的戦術と「配給外特配」等の新戦術にて寮母さんを攻めた前科者一同は生き残りの近藤さんに最近の自分のプロフィールと共に近況の便りを出さうではありませんか。

同号「まんびつ五人集」の金巻賢字教授に依れば、実方学長は詩人と云う事である。学園を慕う詩情無くして煩雑多岐な俗世間的学長事務等良

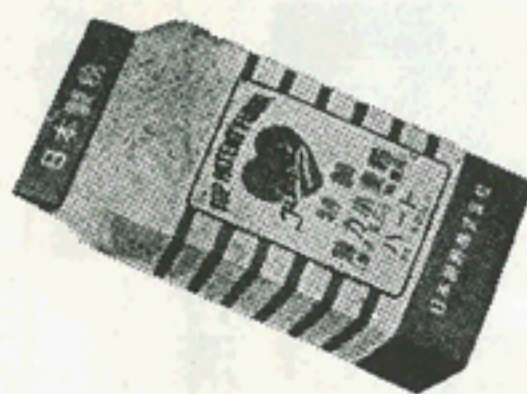
(JIS)規格表示工場



中部段ボール株式会社

取締役社長 野村 藤吉
取締役専務 齋藤 利一 (昭11年)

春日井市御幸町2丁目9ノ1
電話 春日井(0568)局 代表 3166番



東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目27番5号

日本製粉株式会社

副社長 伴 素彦

みんな健康
粉食で...
小麦粉なら
ハートED
(ビタミンE)

緑丘 余話

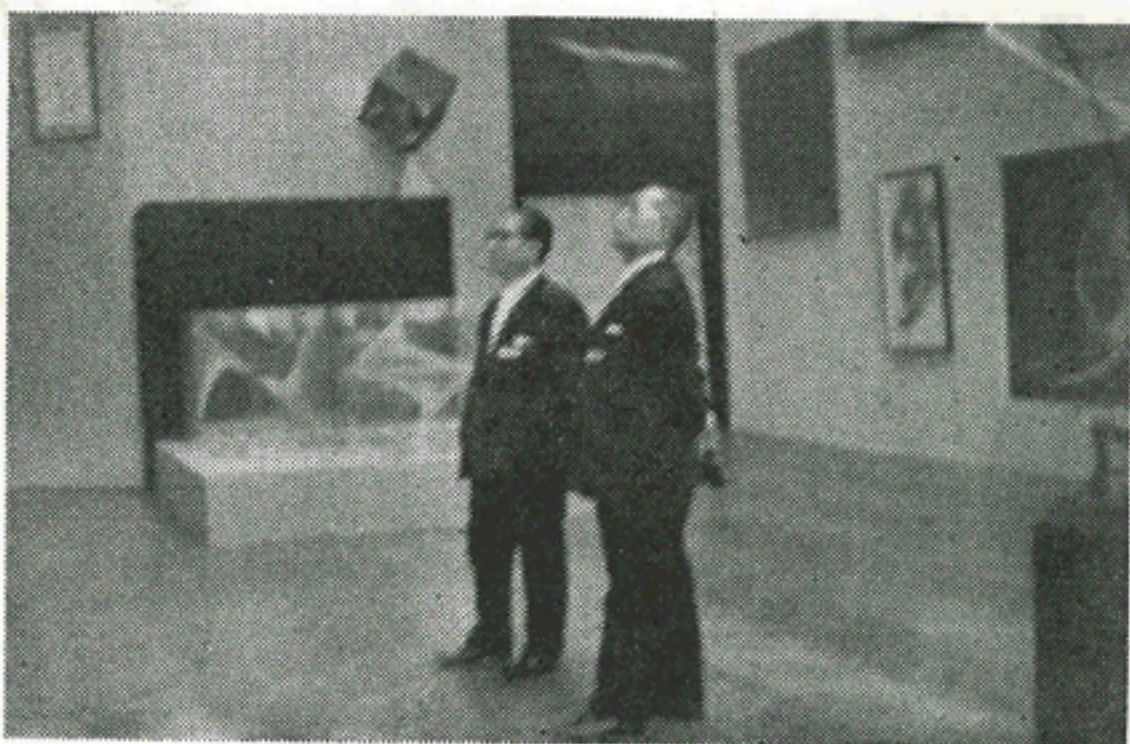
毎日新聞、毎日書道展協賛

パリ市のジャパン・アート・フェステバルに
長谷川遅牛氏(昭九)参加
(正治)



フランス文化大臣臨席 儀仗兵に先導され会場に入る長谷川遅牛氏(右)

やかな会場に色を添えたことは印象深かったという。
六日以後三日間席上揮毫が行なわれ、連日多くの観客でにぎわいその中であって彼長谷川氏は得意の英語で質疑に答えてくれたので日本代表書家訪欧団の一行も大助りであったとは「毎日書道展」(毎日新聞事業部発行)の中で「パリ展に寄せて」の金子陽亭氏が声を大にして讃えていた。



日本画と書の展示会場にて
長谷川遅牛氏(右)

ふるさとの旅

渡辺 牀羊

北国夏野機影と共に歩を印す

《千歳》

《盲兄に会う二句》

盲しひしを悲しまぬ目は銀河見

ず 盲しひし顔アカシヤに寄せ花さ

ぐる 虎杖の茎折れば少年の日の匂ひ

《昭二会》

夏の夜を酌み合ひ旧き顔さがす

《八十五才の姉二句》

アカシヤのもと姉と会ふ最後か

も知れず 余生幸あれさくらんば分ち食

ふ

《学園》

クローバに坐し学園讃歌口を出

る クローバや故里の野は牛乳くさ

し

《オロフレ峠》

ガス消えて眼にいたきまで新樹

照る



爽かな剃り心地

緑丘人のおヒゲ剃りには

資生堂スーパー・ポアン

ステンレス替刃

FINANCIAL POST 紙に

「K」ライン山本一氏(昭三三年)のプロフィール

「緑丘」七三号で「海外で活躍する緑丘人」(若山永太郎執筆)が紹介されたが、はからずも八月十三日のFINANCIAL POST 紙に「シッパビジネス三二年」として山本一氏のプロフィールが紹介された。

ライバル船会社は彼の築いた牙城に切り込みを開始しているとも聞くが、彼の頭脳と人柄が確固たる地盤を築いて寄せつけぬという。

「K」ラインバンコック・マネジイングディレクター山本一氏(53歳)は海運業三十二年の経験をもって、南東アフリカモザンビーク赴任後、イギリス、アメリカへと移り、タイ国には一九六一年赴任した。

非常にアクティブなディレクティヴなマネージャーである山本氏は現在「K」ライン(バンコック)株式会社の社長と同時に日本「K」ライ

ンのディレクター、タイ国在住日本人協会会長、タイ国日本人協会副会長、タイ日本協会副会長、タイ南部ロータリクラブ会員、その他いくつかの子会社のディレクターといった要職につかれています。

タイ人の友人として、山本氏は、タイ国の発展を賞賛し、タイ国のプロジェクトが成功することに大きな望みをかけておられる。

「タイ国は、外国為替の主なる源として農産物に頼っている」といわれ、さらにタイ国政府は、規定のペーパースで産業化への努力を続けていかなければならないとおっしゃっている。

「私の今までの経験からして」と彼は続ける「発展への道程は、もしその途中で一つ二つのステップに手をぬくことがあれば、もっと困難なものとなるだろう」

歴史的に日本の発展のモデルは——ある程度の援助を受けはしたが

題 国力発展

天野雅司

刻山埋河幾千里
大厦梯比車疾走
舳艫積載航七洋
國富民榮冠亞

昭和四十五年五月五日



天野雅司氏(六一五)

元緑丘会大阪支部長

天野雅司氏は日本電気機器株式会社で創立者である。今般創業三五周年を迎えた。

同氏作「題国力発展」を紹介しよう。

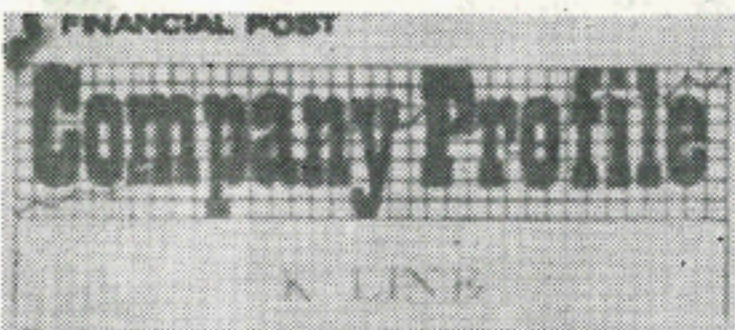
題 国力発展

刻山埋河幾千里
大厦梯比車疾走
舳艫積載航七洋
國富民榮冠亞

昭和四十五年五月五日

しかしそれと同時にわれわれ自身の手で「日本はゆっくりとしかも着実に発展をとげていった」と山本氏は説明した。

ことなるだろうと彼はいう。山本氏は、タイ国の発展に深い関係と興味をもっておられ、彼の最大の心配は、「インフレーション」だったという。しかし、彼はタイ国政府が物価騰貴に対して重大な配慮を払ってくれるだろうと確信している。』(FINANCIAL POST 訳文)



Mr. YAMAMOTO

THE MANAGING DIRECTOR OF THE "K" Line in Bangkok, Mr. Hajime Yamamoto, 53, has had 32 years of shipping experience.

After serving in Mozambique, South Africa, the Republic of South Africa, England and the United States, Mr. Yamamoto came to Thailand in 1961. The very active managing director presently holds positions as a director of the "K" Line in Japan as well as president of the "K" Line (Bangkok) Co Ltd, President of the Japanese Association in Thailand, vice President of the Japanese Association in Thailand, vice President of the Thai-Japan Association, a member of the Rotary Club of Bangkok. South in addition to being the director of several other affiliated companies. Mr. Yamamoto, who lives with his wife in Bangkok, has three children in Tokyo, the eldest being a grandfather who made him a grandfather last year. As a sports enthusiast, Mr. Yamamoto classifies himself as a "poor" golfer—a hobby which he has dabbled in for more than 20 years. As a friend of Thailand he applauds its development and is very hopeful about the country's prospects for success. "Thailand depends on agricultural products as its chief sources of foreign exchange," he said, and that the Government must continue to try and industrialise—at a normal pace. "So far as my experience goes," he said, "the road to development becomes harder if one tries to skip a step or two on the way." Mr. Yamamoto explained that the Japanese model of development historically shows that with considerable help—but at the same time by our own hands—"Japan made slow but steady progress." An unnatural rise in industry would result in lower farm incomes than industry, he said, with the result that Thailand would encounter a very serious social problem if that occurred. Mr. Yamamoto, deeply concerned and interested in the development of the country, said that his greatest anxiety was "inflation," but was confident that the Government would continue to pay serious attention to rising commodity prices.

第四回 仙台寮歌祭に参加して

室 谷 賢治郎



「春爛漫の花の色」や「都ぞ弥生の雲業に」などで代表され、全国津々浦々の青年士女に愛誦される旧制高等学校・専門学校寮歌が、時世の激変した今日でも、会合談話の際には必ずといっていいほど、その場の雰囲気をもたらし、これ等の高専校の寮歌を、それぞれの卒業生・alumni が一堂の下に相集まって、半日の斉唱を楽しむことは、わが国で東京だけでなく、大阪・仙台・札幌・旭川等の大都市でも、近年、年中行事となった。いわゆる寮歌祭がこれである。私は昭和40年の10月に、東京の日比谷公会堂で第5回日本寮歌祭を見て、少なからず感動を受けた。

一代前に高専校を卒業し、今や官界や実業界の大幹部になっている先輩の人達が、昔ながらの袴衣破帽を何処からか借り出してきて舞台の上で幟旗太鼓よろしく持ち時間一杯、蛮声を張りあげ狂踊乱舞する。返らぬ昔を一挙に取戻したかのような情勢である。それ自体は児童に類するナンセンスと見られるかも知れないが、そこに放出されるエネルギー、もしくはバイタリテイが善きにつけ悪しきにつけ、今日の日本の力を培養したと考えると、寮歌祭のもつ意味は深甚であるといわなければならぬ。学友が肩を組み手を繋いで整然と校歌や応援歌を歌うのは、ヘルメット覆面ゲバ棒の姿でシニプレッヒコールを繰返すのと、同日の談では決してないと断じなければならぬ。

日本寮歌祭は、第7回の昭和42年度から会場を武道館に移した。これは参加校の数が増加し、一般の観客も膨脹したため、従来の日比谷公会堂では狭溢を感じるようになったからで、この時、私は東京商大予科の旗印の下に、揃いのマーキユリーを染め抜いた鉢巻姿で、広い武道館の舞台から「長煙遠く棚引きて」に始まる一橋会々歌を合唱する機会に恵まれた。

さて第四回仙台寮歌祭であるが、これは去る八月八日、恰も仙台七夕まつりの第三日と時を同じうして、宮城県民会館で催された。緑丘会宮城支部の菅井長平支部長（昭和8年卒）からの案内状で、矢も楯も耐らず私は馳せ参じた次第である。今回始めて参加する同窓生諸君のための詳しい注意書きの印刷物を見ると、劈頭次のように記されている。「あゝ吾が母校緑丘健児の意気示す仙台寮歌祭再びめぐり来る。このとき室谷賢治郎先生はるるる札幌より激励に馳けつけられる。吾等が意気まことに天を衝かんとす。電あり。「リョウカサイノウウシヨウウメザシガンバレ オオサカ ヒキメ」リョウウカサイノゴセイコウヲイノル コウベシブ」私は参加してよかったと沁々思った。

当日は申し分のない晴天で、参加校二十一校の面々は、それぞれのスタイル——といっても、概ね羽織袴に袴掛け、朴葉の高下駄、校章定本の破れ制帽——に応援旗、幟旗を靡かせ、東二番丁小学校校庭に午後一時までに勢揃いした。一時半、先頭にパトングール鼓笛隊を立て、七夕飾りの最も豪華な東一番丁の盛り場から国分町の会場まで、延々長蛇の陣を行進した。西側には蟻の這い出る余地もない程に、市民や観光客が歓呼の声を送り、カメラの放列を向けた。白地に墨痕鮮やかな「小樽高等商業学校」の幟の後に踵を踏んでくる私の目頭から熱いものが滲んでくるのを私はどうしようもなかった。

会場の県民会館は、去る六月のライオンズクラブ全国大会の時に私は来たことがあるので、旧知と再会する心安さを覚え、しかも今日は舞台の主役に加わると思えば、一段の親しみをさへ感じた。参加校の演技開始は午後三時。出演順で参加校名を記すと、北大予科、小樽高専、秋田高専、陸士、一高、二高、三高、四高、宮城女専、海兵、仙台高工、盛岡高農、盛岡高工、米沢高工、八高、弘前高、山形高、新潟高、水戸高、広島高、福島高専の二十一校で

宮城女専は今年万緑叢中の紅一点として初参加したということであった。演技に入る前に、司会者から各校の短い紹介が語られ、小樽高専は北方経済発展のための拠点として、明治四十四年四月全国の官立高専のうち第五番目に開校され、爾来今日に至るまでその良き環境と優秀な教官の努力により、その卒業生は北海道はもろろんのこと、広く日本の内外に活躍し幾多著名な人材を輩出しているといいたことが述べられた。舞台の上で、われわれの歌ったのは道遙の歌、「栄光今や」の行進歌、校歌の三つで、終りに「今は早やコッパ微塵」を大陣から分散小陣と仕上げのスマート振りを示した。同窓の最年長は大正八年の今野氏、大正十三年の早坂氏等、総員三十三名。会場のコーナーで総員緑丘会大阪支部長石田平八氏からの陣中見舞サッポロビールを痛飲して、早くもいまの反省と次回の策戦を語ったことである。

この一文を結ぶに当り、私はいかねの希望を記す。日本寮歌祭に小樽高専も参加してほしい。全国第3番目に設立された長崎高専は、第7回から出場を許された。第4番目の山口高専は第8回から参加した。第5番目の小樽高専は今年の第10回にも吾等せず焉で済ますのであろうか。札幌寮歌祭は今秋第3回の実行委員会に、いまだに小樽からの申込の無いことを怪しまない。敢て緑丘会幹部諸君の御意見を聴きたいものである。

(八月末日、札幌商大長室において記す)

五色の吹流しも爽かに

室谷先生も参加して

—全国にテレビ放送—

緑丘会宮城支部



開催される 8月8日 “仙台寮歌祭”

年々豪華になって二百三十万もの観客を集める仙台名物七夕祭は、今年も八月六日から始まった。七夕に雨はつきものというジンクスがあるが、眼玉。きらびやかな五色の吹流しとは誠に妙な対照。陣太鼓の響、そして蛮声が一番丁の街にこだまして進む。

すっきり仙台七夕の名物アトラクションとして定着した仙台寮歌祭に参加する元健児達一千名の堂々の行進である。

本年の参加校二十校。昨年より少いが、本年は寮歌祭に全国でも初めて聞く宮城女専の元令嬢今婆チャン達も参加とあって老兵連順に張切る。会場県民会館に着くや、各校ののぼりが林立。気合の入った掛声の応酬等早くも熱気のもった霧囲気。見物衆大勢つめかけ、さしもの大会場も木戸止の盛況。特に前半はテレビで全国に生放送されるとあって、リハースアルにも異状な熱意。

いよいよ三時定刻開始のベル。「七夕と同じく年に一度の寮歌祭。古き良き時代を偲び、若き日の感激を新に、過ぎ去りし夢多き青春を、声を限りに謳歌せん」

「うおーッ」

遂に幕は切って落された。

今年のトップはお馴染、北大予科。去年の倍も出場。追分節等入れ、所定時間の三倍も使って司会者をハラハラさせたがナカナカの好演。

次いで二番手は今年も小樽高専。万障繰り合せて集う元緑丘健児無慮三十二名。暗転の中に若い連中の「道遙の歌」が終って、花道から静々と、そして堂々と、万雷の拍手の中に行進歌と共に登場。舞台中央で校歌。次いで陣をつくり「感激の歌」。終わったと見るやストーム「残念かッ」。こっぴどみに舞台も踏抜かん許り。大向から激励やら賞讃の声やら。満堂の拍手歓声の中に静々と、ヤレヤレと退場。

その間七分。しかし緊張の敷時間でもあった。

一高、二高、三高、四高、陸士、海兵、仙台高工、盛岡農、米高工、弘高、山高、新高、水高等と続きラスト福島高専。

地元校は出場者も多く、応援団も多いが、緑丘健児の意気高く、本年もなかなかチームワークのとれた熱演振りに満堂の聴衆を全く魅了させた。(地元紙評)

特に本年は、わざわざ北海道札幌から二〇〇里の遠路はるるる室谷先生が激励に駆けつけられ、紋付鉢巻で市中行進に参加、相当のご年配(失礼)にも拘らず最後のストームにまで参加された。正にこれ百万の援軍。これでは菅井支部長(昭八)以下張り切らざるを得なかったわけ。六時半に終って、一番丁ビヤホールでジョッキの満を引く。飲む程に酔う程に交々起って、今日よき一日を反芻し、謳歌し果はまだ七夕の昂奮さめやらぬ一番丁へ、或は何か横町へと繰出したのであった。

☆

「寮歌祭については、一部にアナクロとの冷評もある。しかしわれわれは寮歌と共に過したあの青春時代に培われた尊い友情を次の世代に伝えるためにも最後の一人となるまで寮歌を歌い続けよう」これは寮歌祭実行委員長のことば。

緑丘会宮城支部六十七名中本年の参加者三十二名。

年代別に見ると

大正組 一一名中五名
昭和前期—十年迄 一四名中二名
“ 中期—二十年迄 二四名中一三名



後期一以降一八名 中一二名
仙台の寮歌祭は昭和四十二年、有志相集い仙台もやって見ようということ、おそろおそろ始めたが、十七校の参加、予期以上の大盛況。またこんな各々から感謝された催はないと頗るご満悦。
緑丘支部も昨年初参加。笹原(昭一五)野村(昭一六)といった連中のアジもあって、清水の舞台からの気持でやって見るとナカナカの評。地元その他多数よりもすっきりしている。歌よし、声よし、ストームよしで正にトップクラス。
本年は更にと張切ったものの、昨年の团长さん上野寛(昭一九)君が昨年急逝され、後任がきまらず心配したが、やっと佐藤光昭(昭四〇)君と陣太鼓掛大石(昭二二)君に決定。狩出掛には菅井支部長、今野先輩(大八)等が陣頭指揮で大奮闘。

そのうち室谷先生がオトリ刀で参加。七夕でゴツタ返す列車で来られたご熱意には全く感謝感激の極みであった。
「アナでもよい、クロでもよい。年に一度昔に返って、若き感激にひたろうではないか。これこそ若さを保持する特効薬である」
これは大正期のA先輩。
「寮歌祭に参加するのが楽しみだ。寮歌祭が近づくともうワクワク。体調をととのへ、今年も一つ元気でやろうという気持になるんだ」
これも大正期のB先輩。
「昭和前期の先輩はまだ若さに自信があるので出席率が低いのかナ」

仙台寮歌祭に緑丘人の協力を感謝する

緑丘会宮城支部長

菅井長平

昨年も大変お世話になりましたが本年はほんとうに助りました。
貴殿から拝借のテープで忘れかけた歌を思い出しましたし、貴殿が指示されました小樽の長谷川昌一氏よりは適切なカラースライドをたくさん送っていただきありがとうございました。その他大勢の緑丘人より物心両面のご後援を賜り、感謝しております。
大阪支部長石田平八先輩よりはたたくさんのビールご寄贈にあずかりました厚く御礼申し上げます。(緑丘編集部宛)

これは昭和後期のC先輩。

今年も七夕が終った。そして寮歌祭も終った。みちのくに秋の訪れも近い。

- ☆ (一九七〇・八・二〇 杵淵記)
- (参加者氏名) 室谷先生、今野(大八)中島、佐藤虎、山田、早坂(大八)大内(昭三)菅井(昭八)曳地(昭一)渡辺、高野(昭一三)菊地(昭一四)伊藤三、山田(昭一五)田中(昭一六前)杵淵(同後)
- 伊東、男沢(昭一七)高田、菅野(昭一八)武田、重巢(昭一九)大石(昭二二)丹野、佐藤昭(昭二三)渡辺、佐竹(昭三六)佐藤光(昭四〇)尾田(昭四三)桜井剛、佐藤直、桜井秀、小野寺(在学中)

朝日新聞から

奈良女高師保存

「奈良女子大学本館の全面改築が決り、鉄筋ビルに生れかわることになったが、とりこわしを惜しみ、保存の声が高まってきた。
建物は前身奈良女子高等師範学校の開校に先だって、明治四十一年二月二十九日に竣工、翌年一月に完成した木造二階建て、明治の学校建築の特徴を伝えている。
保存して郷土資料館とするか、民俗博物館とするか、いずれ大学独自の保存案が作られるだろうが、七月二十八日に出された総理府の観光政策審議会の答申も、保存の必要性を認めている」という。
果して小樽商大の場合どうなるのであろう。

輿動

栄 転

- 沢登源治(昭一四) 三井物産ロスアンゼルス支店長、米田三井物産副社長
- 武智鉄郎(昭一三) 北海道拓殖銀行取締役北海道地区担当(小樽支店長)
- 広海一四郎(昭三六) 北海道銀行審査部(北海道銀行大阪支店)
- 阿部富次郎(昭三〇) 東海銀行大阪事務所次長(東海銀行神戸支店)
- 平元英雄(昭二九) 日本新業KK札幌営業所(日本新業KK福岡営業所)
- 川久保恒雄(昭三七) 郵政省電気通信業務課(大阪郵政局集配課)
- 吉米地和夫(昭二九) 日本興業銀行本店企画室参事役(同銀行仙台支店)
- 藤井幸男(昭九) 藤井社会保険労務相談事務所開設
- 吹田市泉町一丁目八一五 TEL)三八五〇八九四
- 森 保(昭一六後) 法務省人権擁護局総務課長
- 須藤一郎(昭七) 札建工業佛総務部長(日本鉄道建設公団)
- 斎藤雄治(昭一〇) 北海安田倉庫株式会社常務取締役
- 札幌市琴似一条一丁目三十五番 加藤 敏(昭一五)

大成建設株式会社営業本部営業部長(同社名古屋支店営業部長) 松沢 実(昭三八)

- 北海道拓殖銀行秋田支店内武蔵境開設準備事務所(滝川支店) 若山永太郎(昭一三) マルカキカイ株式会社副社長(専務取締役) 飯坂久男(昭一一) 保坂高校教頭(若松商業高校) 佐藤一男(昭二〇) 日本銀行北九州支店(名古屋支店) 高原一雄(昭二〇) 北陸銀行苗穂支店(同行小松支店) 札幌市北二条東七丁目 山崎吉郎(大一一) 岩多屋産業大阪営業所長 木田橋喜代(元職員)(昭六〇) 北海学園大学附属図書館(札幌医科大学附属図書館) 札幌市旭町八丁目 笹川州也(昭一八) (昭一〇四) 三井造船(船内線営業部(玉野造船所) 東京都中央区築地五六一四 石津洋三(昭三〇) (昭二七五) 北海道拓殖銀行東京支店(丸ノ内支店) 今井徳弥(大一一) 中央商事株式会社 北海道小樽市色内一丁目八番六号 北海道中央バス株式会社内 中村統一(昭一一) (昭一〇五) 三井物産機械販売サービス株式会社 総務部(三井物産札幌支店次長) 東京都港区西新橋二丁目二三番一 号 第三東洋海事ビル 岩崎鐘八(昭三四)

住所変更

- 安田火災海上保険大阪支店営業部 第一部代理店第二課副長
- 小島和夫(昭一一) (昭二四一) 横浜市旭区金ヶ谷七九一五〇 野沢正一(昭一一) (昭五三三) 新潟市坂井一七二六番地七 武山謙二(昭一一) 東京都小平市津田町一五二六番地 一一九号 吉米地和夫(昭二九) (昭一七〇) 東京都豊島区北大塚一丁目二三番 興銀大塚寮二〇四号 川久保恒雄(昭三七) (昭一五〇) 東京都渋谷区神宮前五一四一一 一〇五 郵政二号宿舍A一一一 福原省吾(昭二二) (昭二一一) 神奈川県川崎市上小田中七十七番 地若竹荘六号 吉米地千代子 (昭一六七) (昭一六七) 東京都杉並区荻窪一丁目七番十一 号 (表示変更) 白倉幸男(昭二二) 名古屋千種区猪高町高針字大針 九四一五 広海一四郎(昭三六) (昭〇六〇) 札幌市北九条西八丁目北海道銀行 行桑園アパート 越崎清二(昭一一) (昭三〇二) 茨城県取手町取手井野団地一一一 四一三〇一 岡部良造(昭三三) (昭五七六) 大阪府北河内郡交野町松塚七九八 番地四一 岡本元次(昭一一) 東京都練馬区石神井台二丁目二九 番四九号

- 堂城不二人(昭二二) (昭〇六〇) 札幌市南四条西二丁目一番地 札 樽ビル六〇五 大竹正雄(大一一) (昭六五八) 神戸市東灘区魚崎北町三丁目一〇 番二号 飯坂久男(昭一一) 福島県伊達郡保原町宮下六八 功刀素重(大一一) (昭四六七) 名古屋瑞穂区汐路町五ノ二五 (新日本紡績株式会社社長退任に よる) 中沢勝平(昭二二) (昭一四五) 東京都大田区田園調布一丁目四二 一六 (表示変更) 大田英治(昭二二) (昭一四五) 東京都大田区田園調布二丁目一四 番一〇号 (表示変更) 中村統一(昭一一) (昭一六四) 東京都中野区中央一丁目一五番一 号 三井物産中野小淀寮二〇三号 石津洋三(昭三〇) 船橋市西船六丁目九番地 拓銀ア パート一一三〇一 笹川州也(昭一八) (昭二七五) 千葉県千葉市長作町一六八二一四 六〇 佐藤一男(昭二〇) (昭八〇二) 北九州市小倉区妙見町七一―一三 四 家族寮 竹内宏(昭一六後) (昭六六一) 尼崎市守部権田一五一五 恩村政登(昭二〇) (昭六八〇) 名張市清水沢住の江町 (表示・ビル名変更) 緑丘会東京支部 (昭一〇四) 東京都中央区銀座七丁目一二番六 号(トキワビル六階) TEL東京(54)〇〇三二

広告マツタと美術印刷・紙工品



株式会社

三優社

京都市下京区寺町通松原下ル TEL (361) 8171 (代表) 取締役社長 山村太兵衛 (昭12)

是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕

ども、空前の存在ではなからうか。彼とは、昭九卒同期の、わが友、竹内英三君その人である。彼は緑丘人としては、ほとんど類を聞かない医師であり、しかも、世間的な医師とは異なり、現在福井県の或る町営の診療所に勤める、僻地の医師として日夜、ヒューマンな活動をしていて、特異な人物なのである。

二、彼との出会い、昭和六年、私たちが小樽に入学し、二寮で生活を始めたときである。その後、寮を出て、下宿生活へと二人は、小樽の在学三年間を一緒に暮らした。二人だけの下宿先で、終始隣り合っていて、ともによく遊び、また、よく学んだ。どちらかといえば、おろかか、飄々としていて、上方育ちの坊ちゃん、の彼と、神経質で、理窟っぽい、東北の田舎育ちの、野暮な私とは、思えば、不思議なとり合せである。が、だからこそ、お互いに気がよく合ったのかも知れない。

三、昭和九年、卒業とともに、彼は家業が京都の四条で米穀問屋を手広く営んでいた関係から、米穀の清算、卸、仲買取引を、東京兜町で修業することになった。米穀取引が、その後、統制されなかつたなら、彼の人生行路に大きな変化が訪れることもなかつたであろう。が、その後彼の住んでいた世界が、急激に変貌してしまつた一方、彼も結核にかかされることになった。そのため、彼は、療養中一八〇度の転換を決意し、病癒えるとともに、昭和十三年大阪高等医専に入学した。彼は、南亮三

まんびつ五人集

郎先生卒の京都一商の後輩で、商業出身であるだけに、医学校の入試には、かなりの苦勞があつたに違いない。

医学校を昭和十七年卒業と同時に彼は、舞鶴病院小児科に勤務した。が、戦後の食糧事情等窮迫のなかで昭和二十一年秋、福井県三方郡十村に、暫定的な、疎開的な開業をした。その後、漸く社会情勢も平穩化したので、都会への転身を考え、昭和二十六年春、大阪府枚方市の国民保険病院に移つた。ところが、幾何もへずして、彼を慕う前開業地の三方郡三方町の町長や、住民代表達から、度重なる懇願をうけるに至り、遂に、もだし難く現三方診療所入りをする。もとより、彼は、偏頗な都会嫌いでもなく、また、現代にすねたへソ曲りでもない。ただ、彼の底抜けの人のよさが、結局、村人達の懇願をこぼみえなかつたのである。

四、私はかねて、彼から来遊を勧誘されていたが、老年、漸くその機会をえて、夫婦で彼を現地に訪れた。敦賀まで車の出迎えをうけ、彼の診療所に附属した家と京都の自宅に二泊三日間過ごさせて貰つた。緑丘思いの彼と両家族を交えての、久々の欲談の楽しさに、時のたつのを聊ちあつた。

その間、僻地における彼の医師としての活動振と、村人達にとけこんで、誰とも快よくつき合っている、彼の真の姿をまの辺りにすることができた。親切で、仕事に情熱を打込

んでいる彼に、村人達の尊敬と感謝が集っているのは当然である。人の世を明るく住みよくするうえに、欠かせない存在となつていて、彼を見て今更のように人間の有用性を思い知らされた。しかし、彼とても、長い僻地医としての生活の中では、奥さんの立場や、子女の教育などの点で時に、内面的な相剋を深刻に経験したに違いない。それにも拘らず、彼には、自分の選んだ道に、気負いもてらいたくない。物質的にも恵まれることの薄く、不自由な生活に耐え、その職に甘んじていることは、彼の純粋素朴な天性によるもので、頭の下がる思いがする。

彼の子達は、高校も僻地で送らざるをえなかつた。が、皆んな出来がよく、長男は現役で北大の医科に進み、現在インターンとして修業中で親父さんとは異なつた、正統な医師の道を、一路歩んでいる。

五、今日も彼は、自ら車を運転し、医療カバンをかかえ、農家の患者先を、まめにとび回っていることであらう。ふりかえつて思うに、人生はさまざまである。しかし、彼の生き方には、一種のすがすがしさを覚える。彼に幸あれと祈つてやまない。

次は、この話の主人公である竹内英三君にご登場を煩らわしたい。(昭九 株式会社山一)

私の夢

伊勢田 美三郎

(札幌支部)



昭和二年に学校を卒業して、当時の鉄道省札幌鉄道局に就職した。一緒に入つたのが現在札幌で大いに活躍して居られる福原省吾君と、今は物故された高橋三郎君と三人であつた。両氏はその後勇躍渡満される事になり、函館橋でお別れの際「男なら狭い日本になんかグズグズして居るな」とハッタられた事が記憶に残っている。両氏の御忠告にも従はず「ホンの腰かけ」が遂々三十二年の鉄道生活を送つてしまつた。住めば都とやら、憶へば又楽しくそして又意義深くもあつたと思う。

昔の人は年令の称え方を不惑とか古稀とか云つた。平均寿命の延びた今の実体とは程遠い感じがするが、ソロソロ古稀に手の届きそうな処まで生き延びた。それこそ痛にもかからず交通事故にも遭はずにである。近頃「彼奴もヨイ男だつたが死んで了つたか」との嘆きを聞く事が多くなつた。いづれは自分もそう云はれるだろうが本人は少し位ワルい男であっても、まだまだ長生きするつもりで居る。

昭和五年に結婚して三人の娘が生れた、今は夫々縁付いて二人宛の孫をつくつて呉れた。当時皆に、他人の子供ばかりつくるとからかわれたが此の頃の戸籍法から言つたら男も

絶えず考えること

五十嵐 良一

(札幌支部)



リレーのバトンがどこかで蒸発してしまつていて、「緑丘」をみる度に、一体どうなつているのかと心配していたが、今日からはからず私の手に忽然と降つて来たのでペンを走らせるところ。

自分の年を改めてみつめてみると経てきた年の数よりも、後何年たてば六〇だナと思う方が先に立つが、世の中がひどく騒がしく忙しく解らぬことが多くて、年令の実感を噛みしめる暇がないのが、幸いといえは幸い。孫が出来ても何ヶ月に一度しか会えないわゆるサッチョン暮しも、足かけ八年ともなれば、未だ独身の青年のような気もするし、一方青春いや壮春に悔ありの感もする。

忍耐強くとか、大いに努力してとかの気負いなしに、天職として、慣習となつてしまつたそのものとして仕事に没頭できる境地は、大正生れの良いところかなと思つてみたりする。

しかし年令の自覚はやはりあるので、頭脳の訓練にと二年程前、通信講座で統計学を勉強してみた時は、毎月のテストが面白く、学生時代にたち帰つた感じがして楽しかつたし、修了時には大きな免状を貰つて、一躍若返つた気分であつた。仕事の面では、同窓同期の方とつながりを

まんびつ執筆者 ベスト5

第一位に迫る昭二

同期生全員ががちりバトンタッチ願ひます。

執筆拒否のないように次回の方へ連絡してあげてください。

- 第一位 三十名(昭一二)
- 第二位 二十九名(昭一一)
- 第三位 二十七名(昭一一)
- 第四位 二十三名(昭一四)
- 第五位 十四名(大一一)

女も変りない事になつた。昔から恐ろしいモノの例に「地震雷火事親父」と言われて来たが、此の頃は耐震耐電耐火等よく研究されて居るのだが、たとえば東京都の高層建築の耐震と例の関東大震災程度がマキシマムであつてそれより強い相手が来た場合は恐らくお手あげとの事、だから矢張り地震雷火事迄は今でも変らない恐ろしいものの代表と云つてよいだらう、只親父丈は時世の移りかはりの果にさつぱり威れないものになつたように思う。地震雷火事息子と取つて変つた感さもある。解つたような解らないような題目を掲げて鉢巻覆面姿やゲバスタイルの若者の動きを見て居ると、とても親父が四大恐怖の一角を守り通せるとは思えない、少なくとも私等には手に負えそうもない、女の子にも中には勇敢なも居るようだが、私の娘共は幸にして皆親思いで私を嘆かせた事がなかつた。私は女の子ばかりで全くしあわせだつたと思つて居る。

昭和三十四年に一応国鉄を退きそのアトはささやかな土建会社に入社したが今はその方も後進にゆづり今は名ばかりの役名に先づは悠々と云つた処。ヒマを見ては老妻を伴つて旅に出るのを楽しみにして居る。去年の今頃はハワイから帰つた頃である。恐らく私の生涯初めてで終りかも知れない旅を、カナダから北米の西海岸(ラスベガス、グランドキャニオンを含めて)とハワイに求めた訳である。ブラリと行ってブラリと

まんびつ五人集

帰つた丈ではあるが矢張り行って来てよかつたと思う。此の頃旅をする楽しい旅を「キャッチフレーズ」に仲々ウルサイ、然し私はウルサイ乍らもその事は大好きだ、昔列車の中をモウモウとゴミをタテ乍ら弁当ガラや紙屑を掃き歩かれた清掃手には泣かされた記憶がある。処が所変ればとか、アメリカをバスで旅行中その乗務員が「皆さんこの車はみなさんの車です、掃除は私共の給料に入つて居る仕事の一つですからどうぞ御遠慮なく車内を汚して下さい」と云われて誠に驚いた。勿論色々なケイスがあつて、何時、何処でもそうとは言へないでしょう。現に公園や道路等のキレイな事はとても日本とは段ちがいに行き届いた掃除をして居た。只余り正反對の行き方が面白かつたので記憶に残つたので書いて見た訳です。

これから老後のスケジュールは出来ればもう一度位海外の旅にでも出て見たい。さし当り二年足らずに迫つた札幌冬季オリンピックの開会式でも見、それから青函トンネルを新幹線で渡つて見たい。その頃は金婚式も一族郎党を集めてやりたいと云つた処が今の私の夢であり希望である。

バトンは長友、杯友、牌友の宮崎勝次郎氏にお願いします。(昭二 インド棉貿易幹)

社団法人緑丘会札幌支部

昭和44年度定時総会並びに新入会員歓迎懇親会

〔日時〕6月16日(火)午後6時 〔場所〕ニューサッポロ 経済センター内



札幌支部の定時総会は右のように行われ、実方学長、室谷、松尾元教授、石川教授、本部の中島事務局長などの来賓を初め、会員、新会員計百十名(内新入会員十九名)の出席があり盛会であった。

①会務報告―野添幹事長の新任の挨拶と会務報告の説明があり
②収支報告及び財産目録承認の件―瀬尾副幹事の監査報告があり、右両議案異議なく可決。これで審議終了。総会を終り、ついで叙勲者へ記念品贈呈―勲四等瑞宝章の栄に輝いた木下彰氏(昭2卒)元根室支庁長・北海道開発局開発計画課長(工

業の振興、開発の推進に努めた功績により叙勲)に対し、額入り母校のカラー写真が贈られ、欠席の同氏の代理・同期の佐藤一郎氏に穴釜支部長より手渡された。

ついでHBC製作の緑丘戦没者記念塔映画「緑丘に戦没者慰霊塔建つ」(映写時間8分)が上映され、昨年の厳粛なシーンを再現、出席の会員一同を感激させた。

新入会員歓迎懇親会

先づ穴釜支部長、新入会員歓迎の言葉を述べ、特に今度決定した第三期北海道総合開発案に言及し「北海道の開発は緑丘人の肩にかかっている」と全緑丘会員の奮起を要望された。

次いで実方学長立ち先ず「新入会員をよろしく願いたい」旨を述べられ、母校の近況について「昨年一年間続いた紛争も全面的に解決した。然し文部省は、学生会館一部占拠のため紛争校と認定したが、最近はこの問題も解決して、文部省も認めたので安心願いたい」「本年は卒業延期はなく、予定通り卒業生を世に送り出した。入学試験も予定通り行われた。二六四名の新入生を迎えて、現在順調に講義も行われている。建物関係の予算を要求していないので、昔の本校舎は今後二年間はそのまま残る。昭和四十六年度まではある」最後に学長に再選されたことについて「去年一年間は四年の任期に等しいぐらいで、可成り疲労した。家庭の事情もあり、辞任したいと申し述べたが、再選させられた。二十日近く考えさせてもらったが、強い懇請もあって、とうとう無能なものであ

監査法人 池田昇一事務所

代表社員 池田昇一 (昭4)

札幌事務所 札幌市北4条西20丁目3番地 電話(61)4201(代表)
東京事務所 東京都千代田区内神田2丁目5番19号 電話(252)2741(代表)
共同ビル(神田橋)7階
大阪事務所 大阪市北区高垣町1番地 電話(372)5887(代表)

(まんびつ執筆者)

- (客員) 松尾元教授、椎名元教授
- (大三) 高橋徹男、下吹越栄吉
- (大六) 八木康之助
- (大七) 伊東小四郎
- (大八) 白瀬治三郎、金栄西吉、草野義一、松浦文太郎、岡田栄吉
- (大九) 戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本朋次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一、大山謙吉、広岡一男、福田誠、藤居元三
- (大九) 菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直
- (大一一〇) 大谷敏治
- (大一一一) 宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重、越崎宗一、大泉行雄、中田新平、中瀬秀一、松岡俊一、大田省三、井上巖、四谷宗義
- (大一一二) 田中弥三郎、塩谷精一郎、大久保鹿次、大井義郎、渡辺一夫
- 小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎
- (大一一三) 古関周蔵、大木弘基、香川清夫
- (大一一四) 畑信太郎、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
- (大一一五) 増田常次郎、中野清一、白木小一郎、近藤徳弥、津久井七雄、大平善梧、西野嘉一郎、竹内隆、吉田荘太郎、祐村脩平、松村義公、川上貞光
- (昭二) 黒羽秀夫、牧野吉男、岡田政治郎、堂城不二人、友沢和一郎、小貫武、手島恒二郎、山中晴雄、

- 太田英治、広瀬久一、石田平八、中沢勝平、加藤正善、古川敬止、清水文男、茂垣英夫、岩岡秀三、小西征夫、矢野健太郎、陸田清、実方正雄、渡辺祥吉、近藤巴芳、鳴滝仁雄、武内武一、坂井直人、福原省吾、全巻賢字、伊勢田美三郎
- (昭三) 佐竹繁寿、樋山三郎
- (昭四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三
- (昭五) 池田啓助、井藤久也、吉田友記、北村太治郎、横井七之助、森松定男、水垣敏正
- (昭七) 八家要、鹿島博策
- (昭八) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄、鈴木三七、遠藤周寿、小林正雄、菅井長平、鈴木賢吉、水島弘
- (昭九) 梅野弥太郎、塚越誠、本田正一、藤井幸男、工藤久吉、安田正義、金吉信吉、吉田平太郎、渡会丑春、藤田利雄、渡辺文郎
- (昭一〇) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
- (昭一一) 浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、紫竹亜津視、秋葉隆一郎、藤目英三、本間誠一、鎌田正三、木村頼雄、小林啓作、角谷栄作、上野茂、村山重三郎、国安猛、小島典春、砂子沢正、小池輝男
- (昭一二) 内藤好生、皆川荘一、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一、浅田厚、岡田保司、山

- 村太兵衛、佐々木成彰、岡本元次、立石市郎、佐藤清治、山下政道、高橋景則、金三郎、須永誠一、白濁良造、曾根重四郎、大井健一、梅原音次、森川正明、岡田春夫、加藤勇、福田政治、浜中学五十嵐良一
- (昭一三) 江川裕一郎、若山永太郎、木村章三、山本俊雄、松ヶ野寿夫、丸山弥、平木勇三、金垣英雄、柳川憲夫、西谷作太郎
- (昭一四) 井原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝、老岐雄雄、河西辰男、沢村重一、石黒政夫、三浦正、飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇、八木安、野村鉄太郎、福地貞雄、櫻村久好、尾崎哲平、沢井道成、隈田鐵三、市橋宏一郎、内藤義信
- (昭一五) 柿本恒一、北條恒一
- (昭一六) 相原正美、相田正、河上鎮男、狹田喜義、中川和行
- (昭一六後) 中村平之助、小林芳美、松村克己、山内孝、杉原貢、久保宗司、若林幹一、阿部英一
- (昭一七) 初谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
- (昭一八) 亀井尚一、湊誠、島田恵治、田森誠一郎、七戸真次、松沢久隆、一柳悦蔵、大橋啓男、野中雅夫、今栄蔵、大津博士、竹山涼一、坂井貫一、島谷喜明、錦戸利春、江口彰
- (昭一九) 高山博男、荻村茂雄、赤津俊樹
- (昭二二) 牧口富伍、福田和、服部奎吾、北野巧
- (昭二五) 我満博仁

(昭二九) 古内一成
(昭三〇) 石津洋三、早川治男、阿部富次郎
(昭三一) 小田島和夫
(昭三四) 角响
(昭三五) 佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
(昭三六) 神田隆志

終戦記念日に集る
「十五日の終戦記念日には記念塔の前に札幌地区の卒業生が三十余名集り正午に花輪を捧げた後、本部大会議室で懇談会を催しました」
(実方学長)

《まんびつ執筆者へお願い》
毎号ご多用のところへ同期の方、或は友人(先輩、後輩)に彼の其の後はどうしているだろう、彼に一筆近況なり、ビジョンなり、懐旧談なりを是非書かせて見たいという気持ちからご指名になっておられますので必ずご執筆下さいませようお願いします。また毎回執筆の方からは次の方へバトンタッチした旨を一筆ハガキでも出してあげていただきませすれば幸いに存じます。

ご投稿が遅れますとこの「緑丘」が発刊されず、従ってさきに投稿された方に迷惑をかけることとなりますのでよろしくお願いいたします。

役に立つなら」と再任することにした。引受けた以上は息のつく限り全力を尽したい。母校のことはおまかせ願いたい」と決意の程を披露し更に今後の緑丘会員のご支援を願って、お礼とご挨拶の言葉を述べられた。

ついで新入会員十九名(内女子四名)が壇上に並び、代表の畑谷秀樹君(三井物産)が挨拶。

池田副支部長の乾杯で開宴。テーブルの処々方々では、サッポロビール、サッポロライト、サッポロ系のサイダー、ジュース、日本酒を差して、差されたの歓談が始まる。

やがて金吉信吉氏(昭九)立って来年七月の参議院選挙に立候補予定の小林備信氏(昭一五)を紹介すれば、同氏は「佐々木緑丘会理事長、



穴釜札幌支部長、池田札幌副支部長の三氏より強い支持を頂いて、北海道地区立候補を決意した」旨を述べ、一同のご支援をお願いした。

ついで母校のグリークラブの面々三十数名が入場。学園讃歌「ホエン・アイ・ケイム」「遙かなる友に」「進軍歌」「若人逍遙の歌」がピアノの伴奏で美しく唄われる。

ここでオリンピッククリュージュ連盟会長の錦戸大先輩が司会に促されて登壇。ただいま唄われた進軍歌は大正十二年同期の乙村君が二年生の時に作ったものであることを表明。ついで「オリンピックまで六百日なし、日の丸の旗を上げたいと懸命にやっているが、残念ながら今のところ旗の上る見込みはない。しかしリユージュは、殊に女子が実力をつけ

てきており、旗に近づいている」とヨーロッパでの成績を示し、選手強化の資金に苦労している旨を述べ、そのご支援方を懇請された。

このあと、グリークラブ員の来年の卒業予定者中就職の決定している四名と新入会員十九名が「名前と就職先」の簡単な自己紹介をし「ガンバレよー」の掛け声を浴びる。「遙かなる友に」「北斗寮寮歌」「惜別の歌」アンコールで「進軍歌」を皆と合唱する。

会も終りに近づいた頃、来賓の次の三先生、司会に促されて順次立ち先ず、室谷先生は音吐朗々と、自己紹介をなし「明年は小樽商大は開学六十周年に当たる。緑丘関係の諸君！今から如何なる用意ありや」と注意を喚起する。次いで松尾先生「女

子の学校でミニ学生を見て楽しんでいきます」と皆を笑わせ、最後に現職の石川先生立って、学生との大衆団交に当たった体験による感想について「大衆団交で学長は一度も逃げ回ったことはなかった。学校側に泣き処があり、それは、学生に不満をぶちまけられた時それを踏みにじることが出来ないことがある。踏みについたら、それはもう教育ではない。機動隊を入れないですんだことは教授たちの理解と生徒たちの理解があったからでしょう。また教授側は全部歩調を一にし、学園教授が割れなかった」とその特性を述べた。

近くの時計台の針が八時半を指す頃、室谷先生の「緑丘会万才」の音頭で全員万才を三唱して閉会した。

なお席上、司会者より、最近松尾先生の著書「地球の春」が刊行、発売されている旨紹介があった。

緑丘通信

(戸谷記)

☆文部省は九月一日、来年度の国立大学拡充整備計画を発表した。その計画によれば小樽商大に大学院商業研究科(修士課程)の新設がある。入学定員二十人。

☆元四寮の舎監、原岡先生は今年で米寿を迎えられた。昭和六年入学の四寮入寮同期生(昭九卒)は紀野重仁氏ら十五名で先生に夏用羽根布団二枚、長谷川暹牛揮毫「龜鶴寿」扁額に母校カラー写真五葉も副えて贈呈された。原岡先生の益々ご健康でお過しあらん事をお祈り申し上げます。

関西地区(大阪・京都・神戸)

緑丘会大阪支部定時総会

ハプニング・女子会員参加で盛上る

六月九日・於今橋クラブ

定刻五時三〇分には緑丘会員の出席予定の九〇名が控室につめかけ学長の出席を待つ許りであった。

昭和四十五年度定時総会開会の辞を若山幹事長からそして支部長が立って今年度総会の挨拶の時学長が会場に到着。石田大阪支部長は大野前学長を大阪支部十日会に迎えた事、実方学長は本年を以て任期終了後再

任され、家庭的悪条件にもかかわらず母校のため就任されている事を告げ今後引き続き学園のため一層の御努力をお願いし度いと結ぶ。

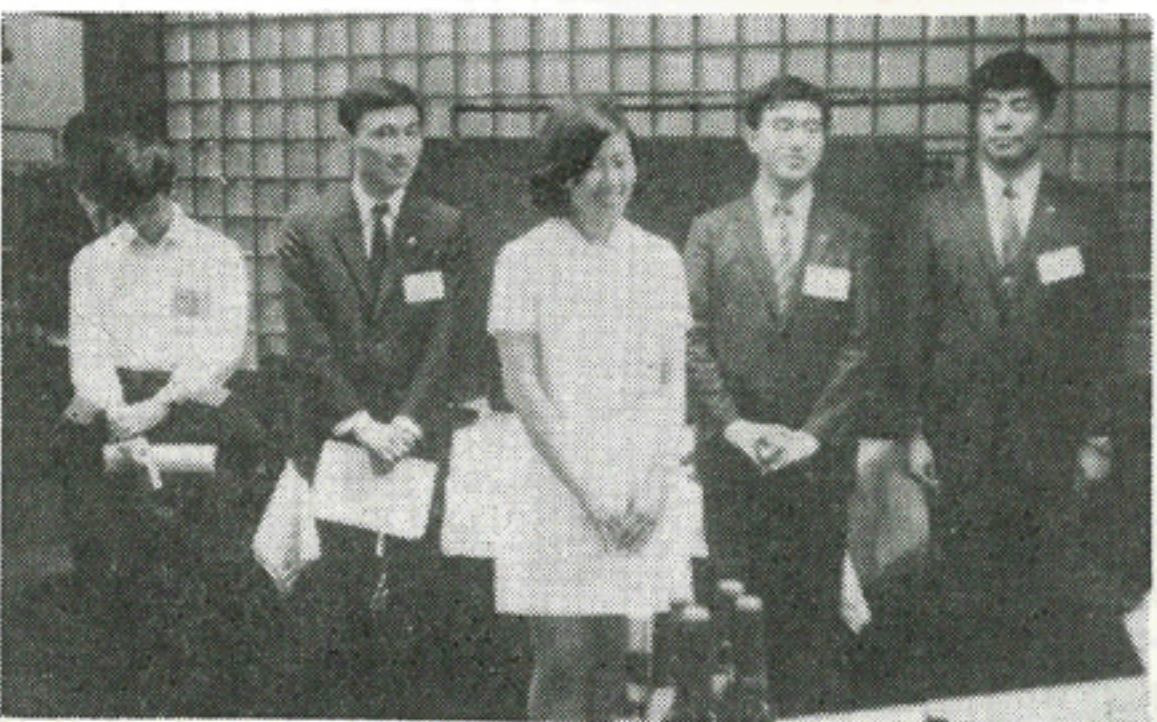
墓目副支部長より事業報告あり次の十日会には昭和九年卒が幹事でゲストを用意願ひ度いと願ひした。会計報告のあと役員改選あり、前役員再任に決定す。



乾杯ではじまる



石田支部長より学長へお見舞贈呈



紅一点・富盛さんの挨拶



新入会員に代って学長より一言挨拶

- △緑丘会大阪支部45年度役員▽
- 支部長 石田 平八 (S・2)
 - 副支部長 樋山 三郎 (S・3)
 - 幹事長 墓目 英三 (S・11)
 - 副幹事長 若山 永太郎 (S・13)
 - 河上 鎮男 (S・19前)
 - 清水 撰三 (S・16後)
 - 山内 孝 (S・16後)
 - 宮地 邦介 (T・11)
 - 大久保 鹿式 (T・12)
 - 香川 清夫 (T・13)
 - 天野 雅司 (T・15)
 - 渡辺 祥吉 (S・2)
 - 玉井 英雄 (S・4)
 - 三浦 儀三郎 (S・5)
 - 門田 彦士 (S・7)
 - 田代 耕三 (S・8)
 - 紀野 重仁 (S・9)
 - 北村 匡弘 (S・10)
- 相談役

続いて実方学長から学園の近況について学園紛争の経過、武道館など建造物をはじめ新グラウンドの進行状況、開学六〇年が来年に当ること、学長再任の所信について挨拶をかねて発表された。

石田平八支部長は一同を代表して学長夫人に対してお見舞をお贈りして、学長の単独赴任を激励された。

若山幹事長の決算報告中二万五千円の赤字あり、この赤字は有志により埋め合せをした旨を上げる。今年度中に大阪支部名簿作成に着手し度いので応分の広告御協力をお願いし度いと今年度の計画を発表する。新入会員の紹介ありこれを以て総会を終りパーティに入る。

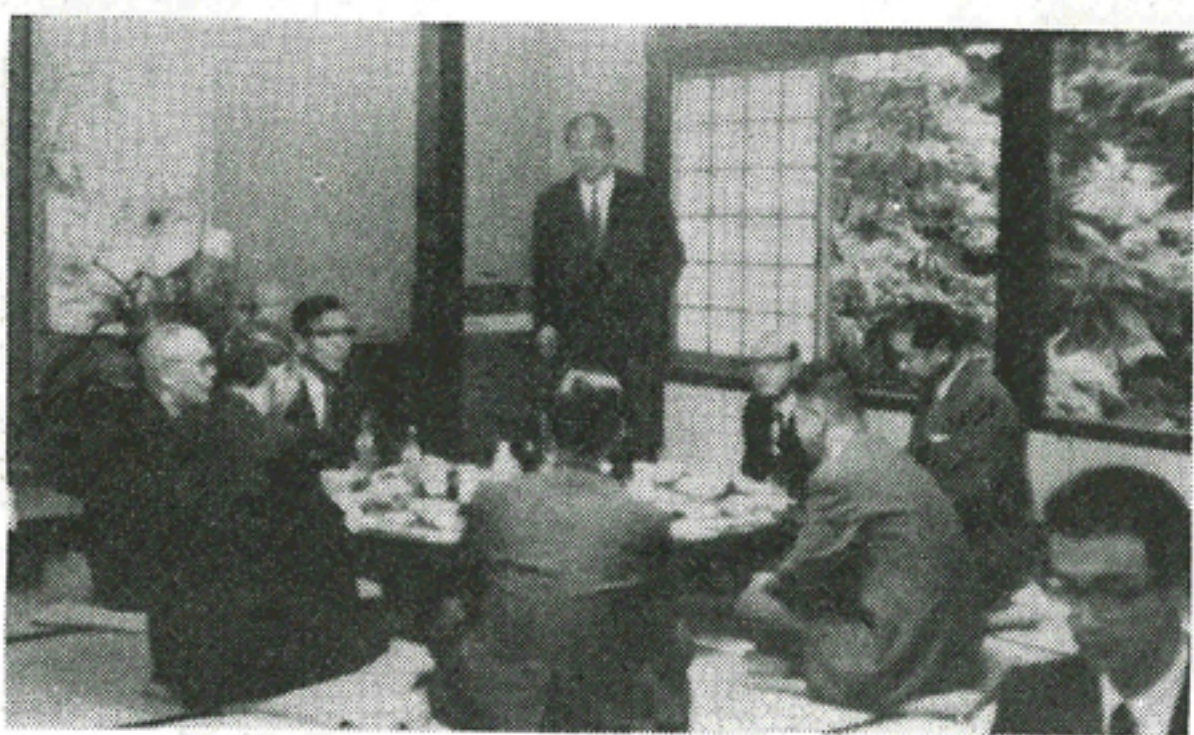
新入会員名簿 三菱商事 山田純一郎



山本 俊彦 伊藤忠商事(株)
 宮本 孝 伊藤忠商事(株)
 高木 哲也 三井物産(株)
 吉田 憲史 マルカキカイ(株)
 山本 理 大和銀行(株)
 岩根 徹 大阪大学学院
 泉谷 民夫 吉田工業(株)
 古畑 雅男 兼松江商
 富盛美智枝 万博勤務
 懇親パーティの司会は恒例により
 交替し、副幹事長河上鎮男、清水撰
 三、山内孝の三人が交互にマイクを
 もって楽しい空気をかもし出してい
 った。

緑丘会京都支部定時総会

六月二十日(土) 於午後六時ハママラ本店



京都支部長森下弘氏の挨拶

その名は富盛美智枝さん万国博覧会場
 電気通信館勤務中という。
 大阪緑丘会には自己紹介の審査が
 あってはじめて会員にするといじの
 悪い先輩達、何れにしろ女性一名の
 参加で俄然賑やかな盛り上りである。
 昭和十七年卒山田鳳蔵氏(名古屋
 支部)の長男が、新人山田純一郎君
 (三菱商事)であると石田支部長が
 紹介すると会場一せいに拍手が湧く

そして山田君のリードで新人紹介に
 入った新人は若人らしく小樽の唄を
 歌う。
 時間の経過も早い。小樽商大校歌
 行進歌の合唱が大正から昭和の新人
 まで肩を組み輪になって朗かに歌
 う、大九卒十二町恒次氏が緑丘会大
 阪支部を祝福して万才三唱。樋山三
 郎副支部長の閉会の辞でパーティを
 閉じた。

部の定時総会が開催された。
 会場ハママラ本店(蛸薬師室町西
 入ル)では庭に打水をして緑丘会員
 を待つばかりであった。
 小林象三先生は定刻六時前にお見
 えになり、続いて実方先生も見えた
 京都支部長森下弘氏は京都商工会
 議所会頭に就任された許りで多忙な
 毎日を過ごされている。しかも日本
 新薬(株)の社長業務の他に沢山の公職
 をお持ちでようやくこの六月二十日
 を支部総会のために空けていただい
 たような次第。
 山村太兵衛幹事長(昭一二)は名
 司会者として定評があり、緑丘会京
 都支部では山村幹事長と小田島和夫
 幹事(昭和三一)にお世話を願って
 いる。

この名司会者山村氏の開会の辞に
 続いて森下支部長が簡単ではあるが
 心のこもった学長歓迎のことばと
 今日この会合は旧交を温め、緑丘

緑丘会京阪神
支部に於ける

実方学長挨拶

学園紛争経過

『小樽の場合、学園紛争は全て話し
 合いで解決された。この話し合いの結
 果、昨年十一月学園封鎖の意味のな
 い事を認め、学生自らの手で半年に
 わたる封鎖を解除。教室廊下の清掃
 までして、十二月から授業を再開、
 冬休みを返上して、授業の遅れをと
 り戻した。』

卒業式は例年の三月十六日から二
 日遅れただけで十八日には無事終え
 た。また、入学試験や入学式も支障
 なく行なわれた。

話し合い方式を堅持したので、他校

で見られる教官同志或は教官対学生
 間の意見の対立が尾を引くという様
 な対立問題はない。長期にわたる教
 官諸氏の一致した協力に心から感謝
 している。

紛争校に小樽商大が名を連ねら
 れていたが、これは文部省の一方的
 認定であった。紛争校といわれたの
 は、学生会館内の事務室を使用する
 ことが困難で、学生会館運営事務を
 事務棟内で取ってたという事情に基
 づく。しかし、現在はこの問題も完全
 に解決され、紛争校から除外されて

いる。安保問題を控えて十人程の学
 生がデモを行っているが学内は正常
 かつ平穏である。

建物・その他

一、元柔剣道場は老朽のためこ
 れを取壊し新しくモダンな武道
 館を建設した。

二、山上グラウンドは土砂がくづ
 れ、亀裂が生じているので元商品実
 験室裏側の山を削って約五、〇〇〇
 坪のグラウンドを造成中で年内には
 竣工を見る予定である。

三、正面本館の改築は四十六年度
 概算要求に計上しなかったため、四
 十七年の夏頃まではそのままの姿を
 残すことになる。

開学六〇周年

来年七一年は丁度開学六〇周年を
 迎える事になる。いわゆる人生の還

歴に当るものでこの機会に緑丘会員
 の多数の御協力と御援助とをお願い
 し度い。

学長の再任

本年二月をもって四年の任期を終
 えた。学長としては不適任であると
 の自覚が強くなり、未だ余生を学問
 研究に捧げ度いと心境も深まり、
 加えて、一年半にわたる愚妻の入院
 生活という家庭事情のため、再任は
 不可能に近い事情であった。しかし
 諸般の情勢と周囲の強い要請に負け
 て、再任の受諾を決定することとな
 った。再任した以上どこまで続くか
 判らないけれども息の続く限り、全
 力を投入して母校発展のために尽す
 覚悟を新たにしている。』と述べら
 れた。

をしのんでいただき度いと挨拶をさ
 れた。

学長には昨夜の大阪支部に続く本
 日の京都支部総会にお疲れの様子も
 なく、学園近況を報告され、学長再
 任の事についても遠慮深く、自分は
 行政官ではないので就任を辞退した
 が全く止むなく引受けられた経過を
 話され、就任の上は全力投球につと
 めると決意のほどを洩らされた。

小林象三先生は何時もニコニ
 コと若々しい笑顔で京都産業大学教
 授現職までの簡単な経歴を紹介され
 るとともに実方さんは学生時代大変
 英語が出来ましたと若き日の学長を
 ほめたたえられた。

次に大阪支部から出席された藁目
 氏は伊藤整文学碑の除幕式が塩谷で
 行なわれた事。碑文の「海の捨子」
 の載っている詩集(初版)を入手し
 たが伊藤整の著書初版ものが最近高
 値を呼んでいる事も紹介する。とし
 て『緑丘』は伴先生書簡集を発刊し
 ているが単行本出版の計画もあると
 いう。

美味しい支那料理の卓子を囲んで
 歓談が続く。司会者から自己紹介の
 すすめがあり今井一雄氏(昭一二)
 川浦広氏(昭一七) 桐田鉄郎氏(大

小樽高商 伴房次郎先生書簡集申込

一〇〇冊限定出版(番号入)

申込残数二十三部であと二十三人の申込みで品切れとなりますので至急
 御申込み下さい。(一部一、〇〇〇円 但し「緑丘」購読者以外は二、
 〇〇〇円) 元教授で申込みいただいたのは小林象三先生唯一人でござい
 ました。たとえ(上)(中)(下)を合本しましても七〇〇円の費用を要
 します。あなたの書架に記念すべきこの一冊をお備え下さい。

- (一四) ……と続く。やがてテーブル
 が茶木博治氏(昭二五)の番に来る
 と日本新薬一同起立、懐しの小樽の
 唄が彼の音頭によって手拍子合わせ
 て高らかに唄いはじめる。
- 今日の集りにも女性に人気集中
 した。珍らしくこの京都のハママラ
 に稲穂女子校を卒業したホステスが
 いたことである。小樽高商と聞いた
 だけで懐しうに外語劇で緑丘へ
 登った事も話していたが大休の年令
 が想像出来る。小樽出身らしく美人
 であった。
- ノンプロ野球界の雄、日本新薬野
 球部の応援団長をつとめる今俊明氏
 (昭三八)の発声で母校校歌を唄っ
 て京都支部総会の幕を閉じた。
- (出席者)
- (来賓) 実方学長、小林象三先生、
 藁目緑丘編集長
- (支部) 森下弘支部長(大一一) 桐
 田鉄郎(大一一) 山村太兵衛(昭一
 二) 今井一雄(昭一二) 川浦広(昭
 一七) 茶木博治(昭二五) 小田島和
 夫(昭三一) 曲淵正(昭三二) 飯竹
 健三(昭三四) 木嶋正(昭三五) 今
 俊明(昭三八) 古水祥進(昭三九) 今
 中井靖夫(昭四〇) 渡辺捷弘(昭四
 二) 鳥山陽一(昭四四)



挨拶する実方学長



お元気な小林象三先生の近影

緑丘会神戸支部定時総会

六月二十二日(月) 午後六時 於 神戸花隅・もりもと

神戸支部総会は関西緑丘会支部の最終日であった。本間幹事長は、大阪、京都に続く神戸支部として実方学長ご出席の労をねぎらい度いと会場の選定も日本料理花隅の「もりもと」に定めた。

実方学長、推名元教授を迎えて、まず本間幹事長司会で開会の挨拶に入り、学長より母校の近況(前頁)をつぶさに語っていただいた。続いて本間幹事長は役員改選についていかがり計るべきかの動議を出した。湊支部長不在の事でもあ



会場風景

り、一応現在のままの留任という事とし、湊支部長、副支部長(水垣敏正、八家要)間で協議の上決定願いたいとして役員改選の件は保留となった。

この時大阪支部の場合を挙げて、目大阪副支部長は「神戸支部は本間幹事長に全てを委かしておられるが他所から見ても誠に御気の毒である。大阪のように副幹事長を設けて援助して上げてはどうか」との動議に神戸支部一同も納得され、堀尾氏(昭一六後)の協力を得る事となった。



会場風景

これから懇親会に入り、推名先生に漫談をお願いした。推名先生は神戸支部が私を呼んで下さった事に感謝すると冒頭に前置きし、国際保険学会でフランスへ旅行され、学界では推されて議長に選ばれた事や、かつてフランスへ遊学した下宿訪問談など元気に満ちた声で相変らず楽しい放談をして下さった。料理が次々運ばれ、くつろいだ歓談が続く。

やがて司会者より自己紹介をお願いし度いと発言。短かい中にも要領よく次々と自己紹介がはじまった。神戸支部での自己紹介は久々の事であり、殊に古くから神戸支部で育った香川清夫氏(大一一)、大塚武雄氏(大一一)それに西宮に永住の居を定めた松岡俊一氏(大一一)、三重県から神戸に居を定めた井上保氏(大一一)など緑丘会に協力的な重鎮が顔を揃えた事は神戸支部の将来に明るさをとりもどした感があった。

会もすでに二時間半を経過して終りに近付いた頃、大塚氏より緑丘誌に腐心している墓目君に何らかの応援を願う度いと緊急動議が出され、水垣副支部長もかねて神戸支部としても考えていた事であり、単に声だけに終らさず具体的に検討を加え神戸支部から全国支部に対する動議として対策を構じ度いと、これについては、墓目君の希望も聞き、よき「緑丘」が永久に続く方策を考えたいと答えた。学長の一層の母校に対するご努力をお願いし度いと乾杯して関西緑丘会支部総会の最終会にふさわしい神戸支部会も幕を閉じた。

NEWS

▲緑丘会ニューヨーク支部へ届けられる「緑丘」▼

こないだ「緑丘」は全国の大学でも珍らしい。ニューヨークの緑丘会へ毎号「緑丘」を一〇冊宛送り届けておりますが今回私がアメリカへ行く時は伴房次郎先生書簡集(中)を携えて皆様へお渡ししまして大変喜ばれました。

この「緑丘」が何時までも続けられていくようこの安価な広告代に協力してあげようではありませんか。
(緑丘会大阪 若山永太郎 支部幹事長)

広告掲載料

- 全頁 (二二cm×一六、五cm) 一回 一、〇〇〇円
- 年一回 六〇、〇〇〇円
- 半頁 (一一、五cm×一六、五cm) 一回 六、〇〇〇円
- 年一回 三〇、〇〇〇円
- 1/4頁 (五、五cm×一六、五cm) 一回 三、〇〇〇円
- 年間 一五、〇〇〇円

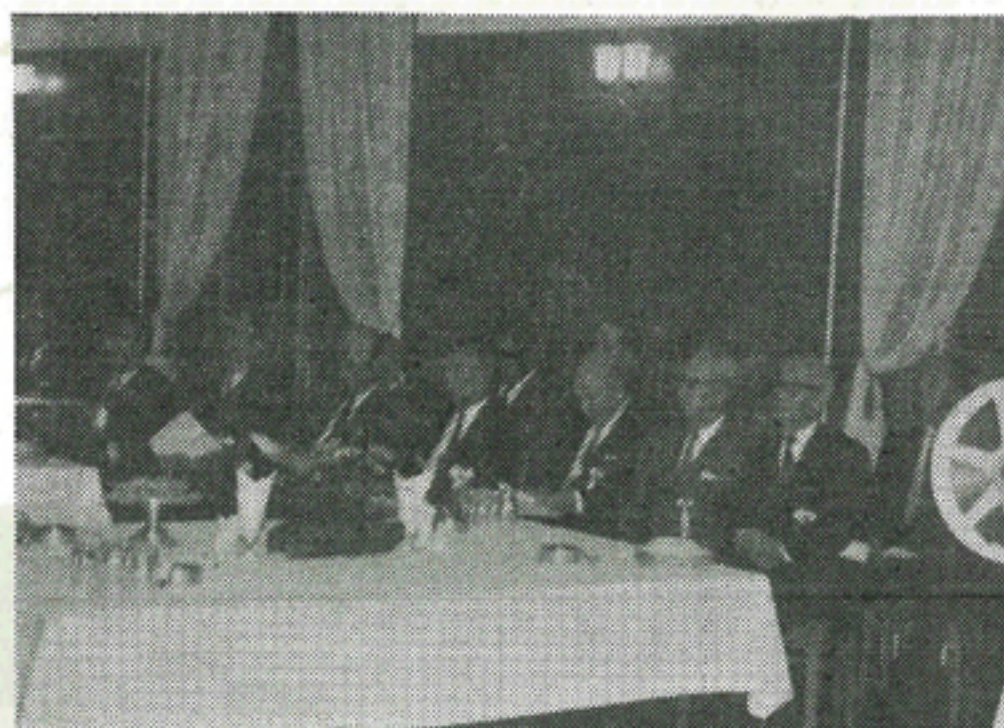
緑丘会東京支部

昭和四十五年度定時総会

(とき) 六月十八日 午後六時
(ところ) 東京ステーションホテル

- (出席者) 実方学長、推名幾三郎先生、墓目緑丘編集長
 ▲神戸支部 竹村野、松岡俊(大一一) 塩谷精一郎(大一一) 井上巖、香川清夫(大一一) 吉田忠正、大塚武雄(大一一) 水垣敏正(昭五) 八家要(昭七) 本間広松、水島弘(昭八) 江口武雄、栗山秀雄(昭一一)

- 市橋宏郎(昭一四) 堀尾茂(昭一六後) 奥井淑郎(昭二五) (堀尾記) 神戸支部事務所移転 (九月一五日から)
 神戸市兵庫区船大工町五八番地 神戸海陸産物貿易同業組合 本間広松気付付 TEL神戸(65)三三四〇、〇一三一



恒例の緑丘会東京支部定時総会は去る六月十八日午後六時より、お馴

染みの東京ステーションホテルで行われた。同日は緑丘会第三十回通常総会も同処において引き続き開催された。両総会とも提出議案はすべて万場異議なく可決され、清新の気溢れる新入会員二十二名を含め、総員二十九名出席という盛大な懇親会が総会に引続いて行われた。

総会において佐々木理事長は「運営にややマンネリを感じる、ヤングパワーを交えての脱皮と新たな活動を切に望む」と力強く訴えられた。懇親会に入る前、緑丘戦没者慰霊碑除幕式の「フィルム」が映写され、万場感激のシーンがあった。懇親会席上では御出席の歴代三学長が夫々御元気に近況を伝えられた。母校も学園紛争が治まり又静かな緑丘に還っているとの実方学長の御報告があ

自動化システムを創造開発する



マルカキカイ株式会社

大阪市東区豊後町41 電話(941)0721(代)

- 取締役副社長 若山永太郎(昭13)
- 常務取締役 高野憲一郎(昭13)

雇用、信用調査は日本調査へ

日本調査株式会社

専務取締役 三浦儀三郎(昭5)

- 本社 大阪市西区京町堀5丁目124 電話(448)4121
- 支社 東京・名古屋
- 事務所 札幌・仙台・金沢・広島・高松・福岡・鹿児島

小樽幻想

小野寺 佐 (昭二)

最涯の港の町に聳え立つポプラ脈に見ゆ三十五とせ経し今日
 北の町の緑校舎の図書館の赤きレンガ舎見えぬ時なし
 海の見ゆ公園通りの坂道のかのエルムの樹今年も咲けるや
 裏山の白樺の木に鳴く郭公鳥きこえて鮮けし今のうつつに
 秋の来る港の町にそよぐらし二本のポプラ日毎眼に頭つ
 海の見ゆ港の町の丘に立ち嘆く慨きの若かりしかな
 癒えがてぬ病を得ては今日もかも夢は丘の辺駆け廻る秋

函館支部の本年度定時総会は、さ
 らる七月七日午後五時半から、松風町
 「入川」において、会員四十名が参
 加して開かれた。実方学長は折あし
 く緊急の校務のためご出席になられ
 なかったが、代理として石河教授、
 本部から中島事務局長、札幌から室
 谷賢治郎名誉教授、在函の品川元教
 授のご出席があった。

中津幹事長の司会ではじまり、冒
 頭昨年物故された井上保氏(大正十
 三年)のご冥福を祈って黙祷をなさ
 げた。林支部長あいさつのおと議事
 にはいり、四十四年度会務及び収支
 決算報告と四十五年度事業計画、収
 支予算を審議し、いずれも満場一致
 承認された。ついで、支部規約第十
 三条の「会費一カ年一、七〇〇円と

た。
 なお、南亮三郎元教授(現在駒沢
 大学大学院教授)が、函館大学で開
 かれた第二十二回日本人口学会に
 出席のため来函されたのを機会に、
 七月二日夜拓銀ビルの五島軒支店に
 おいて、支部役員及び有志による歓
 迎会を催した。南先生は翌三日夜函
 館市民会館における記念公開講演会
 において「日本百年の人口と経済発
 展」と題した講演をされた。緑丘に
 おけるかっつての名講義を彷彿させる
 講演をおききし、七〇才を超えてな
 お学問精進を怠らない先生のお姿に
 接したことは近來にない感激であつ
 た。

- | | |
|------|--------------|
| 幹事長 | 木立 哲夫 (昭七) |
| 副幹事長 | 中津 正之 (昭八) |
| 会計幹事 | 菊田小太郎 (昭九) |
| 会計監査 | 加藤 昌市 (昭十六前) |
| 常任幹事 | 高橋 五郎 (昭十九) |
| | 寺坂 康一 (昭十九) |
| | 野又 貞夫 (大十二) |
| | 酒井 唯八 (昭二) |
| | 伊賀喜三 (昭和七年) |
| | 永田孝一 (昭十三年) |
| | 本沢 栄蔵 (昭十四) |
| | 外山 平治 (昭十六後) |
| | 前多 信雄 (昭十七) |
| | 村瀬順一郎 (昭十九) |
| | 斎藤 寿一 (昭二九) |
| | 佐藤 禎男 (昭三十) |
| | 磯波 仁 (昭三二) |
| | 三井 広見 (昭三二) |

函館支部総会開く

日時 7月7日 午後5.30 場所 松風町「入川」



昭和45年緑丘会函館支部総会

する。(但し、本部会費五〇〇円也
 を含む)を「三、〇〇〇円とする
 (但し本部会費一、〇〇〇円也を
 含む)」に変更する案を審議し、これ
 また異議なく可決した。任期満了に
 ともなう役員改選は、支部長に満場
 一致再び林源太郎氏を推し、林支部
 長から副支部長以下の各役員の名
 があった。最後に来年政界立起を予
 定している小林備信氏(昭和十五年
)からごあいさつがあった、総会を
 終了した。

記念撮影のあと懇親会にうつり、
 席上石河教授から母校の現況につ
 て詳細な報告があった。教授は、
 「紛争は解決したわけではないが、
 機動隊を入れたことなどで教官と
 学生との精神的絆の荒廃を免れた。
 今後は気長に解決ととりくんでい
 たい」と結ばれた。続いて室谷名誉
 教授が明和学園債募集のお礼と、札
 幌商科大学における六月二十三日
 夜のバリストの模様について生々
 いお話があったが、その中で「バカ
 モン」の大喝一声はムロケン健在を
 強く印象づけた。

乾盃のあと、林支部長の簡潔な模
 範例にしたがって自己紹介が進んだ
 が、途中ややもすれば商売の宣伝文
 句が加わるのは「商科」のしからし
 むるところか。指名権づきの余興が
 次々とくりひろげられる一方、飲む
 ほどに酔うほどに、あちこちに談笑
 のグループができ、夏の夜がふけて
 いった。やがておのずから、肩を組
 み蜜声をはりあげての「進軍歌」
 「コッパミジン」の円舞となり、名
 残りはつきなかつたが、校歌の斉
 唱、万才三唱で九時近く宴を閉じ

1日・2日の旅に出ましょう



洞爺登別



ホテル(政府登録) 万世閣

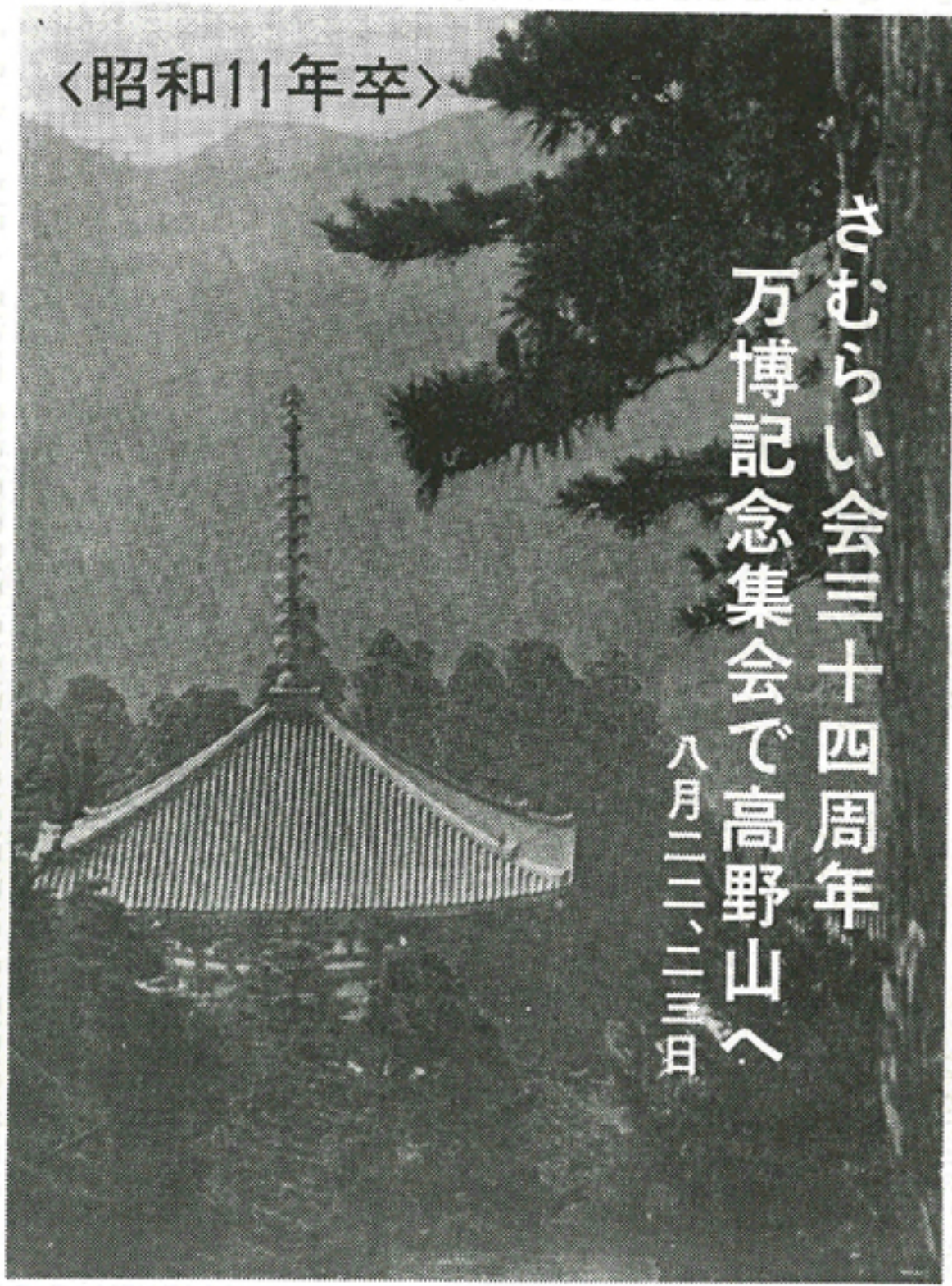
洞爺万世閣 5-2171 登別万世閣 4-2266

札幌案内所25-8570・チェーンホテル=定山溪グランドホテル

学校法人 野又学園 理事長 野又貞夫 (大正十二年卒)

函館大学

函館短期大学・函館有斗高等学校
 同附属幼稚園・函館女子商業高等学校
 同付設調理師学校・函館保有専門学校



さむらい会三十四周年
万博記念集会で高野山へ
八月二二、二三日

三十周年記念集会在盛大に東京幹事の努力で箱根で開催された時、解散を前にして朝食時に東京幹事は次回は大坂、京都での声も高く、大阪から参加した連中は止むを得ず引受ける事になった。

万博が大坂で開催されており、これを機会に三十五周年繰上げ集会を持つ事になり、有力メンバーの多い東京も之を諒として多数参加を期待しつつ大阪方の準備もすすめられた。

委員長 三崎嘉郎
設営・進行係 小池、進藤
会 計 浅野
広 報 墓目

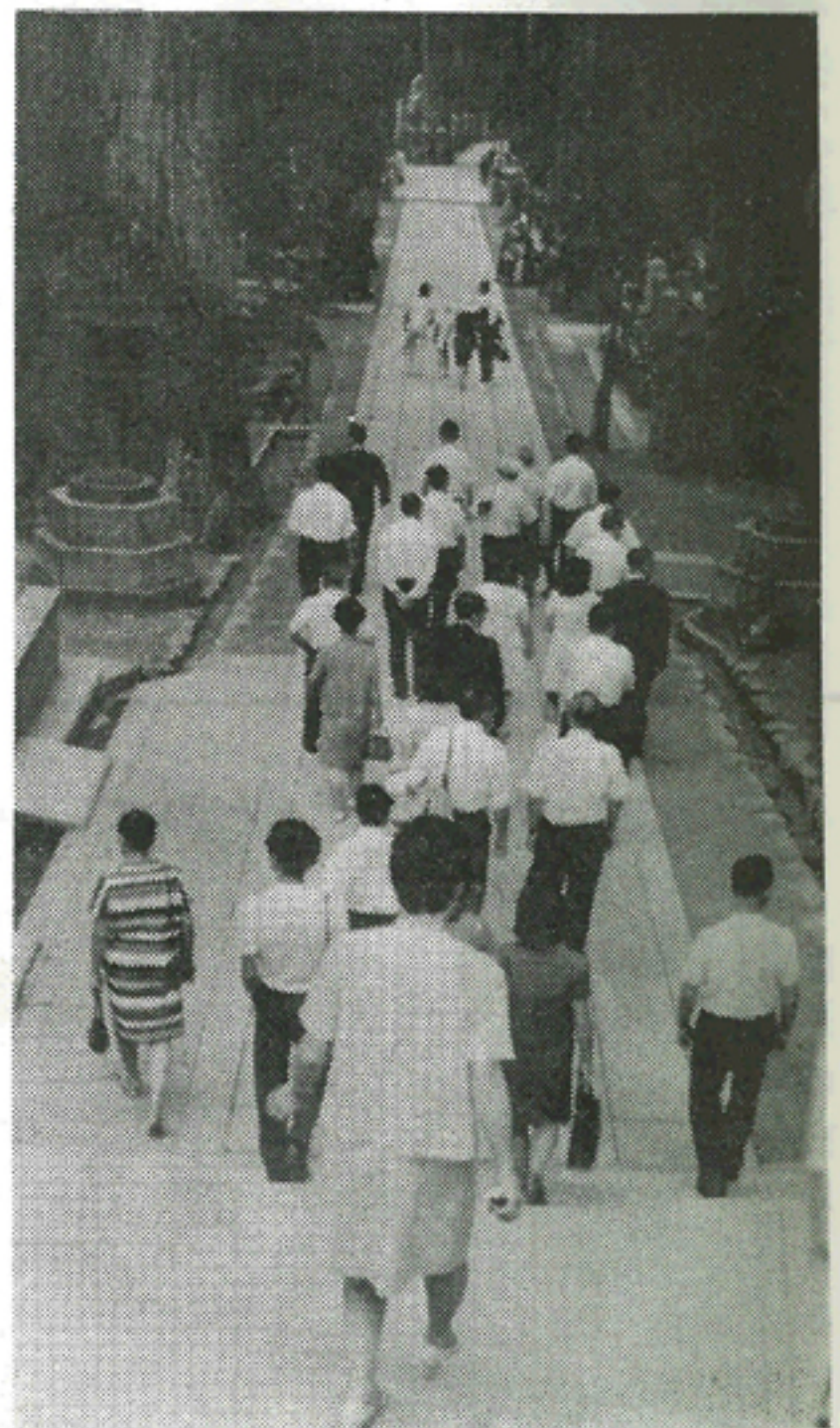
期日は四十五年八月二十二日、三日の二日間、宿泊は高野山で万博見

物であった。申込みを付けて見ると案外少い。然し高野山へは申込み(概数)はしてあるし、今変更は困難としてスケジュールを進めた。テレビは万博一日入場者六十万人を越える事を報じ、炎熱焼くが如き毎日。そこへ持って来て台風十号の近畿襲来を告げた。幹事は夜のラジオから耳を放さず、進藤君は朝四時まで聞いて万一の場合の対策を考えていた。それはそれで二十日頃から東京参加者の電話によると不参加、申込み取り消しが目立って多くなった。申込みを電話でして置いて取消しの挨拶をせぬ者もいる。すでにバスは六〇人乗りを用意し、高野山は五十名の申込みであった。幹事諸君の心中や察して余りあり。幹事をや

らないものには判らない苦痛であった。いよいよ二十二日、台風は近畿に上陸を避け、高知から山陽、山陰に上って日本海にぬけた。大阪の空はカラリと晴れ渡り初秋を思わす冷気さえただよかった。大阪駅西口には土屋、小池の両君新大阪には藤川、浅野、墓目の三人が三方に別れて出迎え方々案内をとめ、先発隊進藤、山口両君は高野山宿坊で諸準備に当った。午後二時、予定の人数がほぼせい揃いその間三十分年振りに合う者もあり、今更ら名乗り難く、ヒソヒソと誰れだろうと尋ねて来る。「あーそうか」といって挨拶を交わす珍風景も見られた。取り消しの多いのに予約のバスに問題が起き三〇人乗二台到着、一台キャンセルの一悶着があつて午後三時、一時間遅れで大阪を後に高野山に向つた。一千里の高野山への道は剣わしく、九十九曲りの断崖絶壁をすれすれに交差しつつある時は遠く和歌山をへだて太平洋も望まれ、連なる峯々は初秋の香りさえただよかった。



高野山奥の院で



高野山奥の院で

た。バスの中ではビールやジュースやおつまみを準備されて外の景色をながめ、バスガールの説明に聞きほれたり、奥の院の珍らしい景観に接してさ程お腹も空いていなかったが、食事が隣りに用意してありますと聞くや急にお腹の空くのも当たり前、もう八時を過ぎていた。座席は抽せんで決定し、大阪幹事は末席にそしてその向い側には夫人連がならんだ。宿坊であるからお酌はない。みなアルバイトの学生さんだという。一杯ついで「乾杯」と声を挙げると。空腹にビールがしみ渡って特別うまい。精進料理と思いきやお刺身が出る。アユの塩焼がある。二の膳付きでおすいものが膳からはみ出る

という具合で特別料理の数々で空腹のせいとか特別おいしく感じた。静かな夜で他に客が居っても我々だけの世界である。墓目幹事は中野先生から参加出来ず残念である旨の手紙や幹事宛寄せられたハガキそして、本間誠一君、小野寺佐君の祝電も披露した。自己紹介がはじまる。この自己紹介がまたよかつた。しみじみと過去を語る友人の声には色々な経験一学校を出て三十余年の浮沈や他界せる者への追憶も語られる。藤川君は詩を吟じ、そぞろに満州の野に憶いをはせる感をいだかせ、山口恒四郎君は江差追分で十数分にわたつてのどのよさを披露、彼にこのどがあつたかと唯驚く許りであつた。

夫人同伴者は自己紹介に立つたら片や夫人も起立の事と進藤幹事のお願いがあり斎藤夫人、林崎夫人、酒井誠夫人、令嬢、小池夫人、墓目夫人と起立の止むなきにいたり、拍手

高野山奥の院で



高野山奥の院で

の中に一礼して夫人は着席。自己紹介一順するに大分時間がかつた。その間写真班小池技師のポラロイド撮影はアルコールのせいとか、明度の感覚うすれ、またも失敗、またも失敗、何くそと彼の生来の負けじ魂で撮影すれど満足する結果はとうとう得られなかった。もう十時はとうとう過ぎて十一時にかかるうとするので明朝七時より慰霊修行に入る事を告げて一応部屋に引きとつた。それからさらに痛飲が続いて遂に十二時半。

二日目 朝五時になると二、三足音が廊下を歩いていく、外へ散歩に行く者でもあろうか。山の涼しさは又格別である。空気がうまい。寝床の中で聞く水音さえ川のせせらぎとまごう。六時すぎには全員起床で賑やかさをとり戻した。七時修行の知らせで本堂に揃う。読経がはじまる。数十年を経た本堂はうすくらしい中に明りが燈り、すがすがしい朝の読経は身のしまる思い

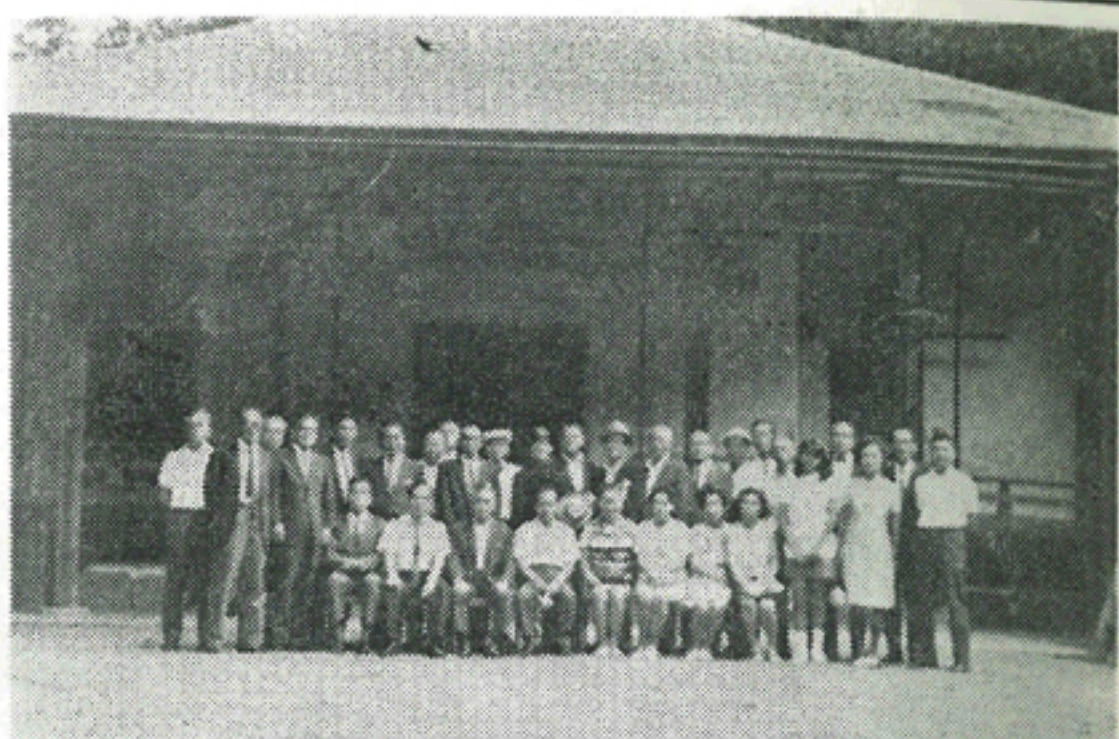
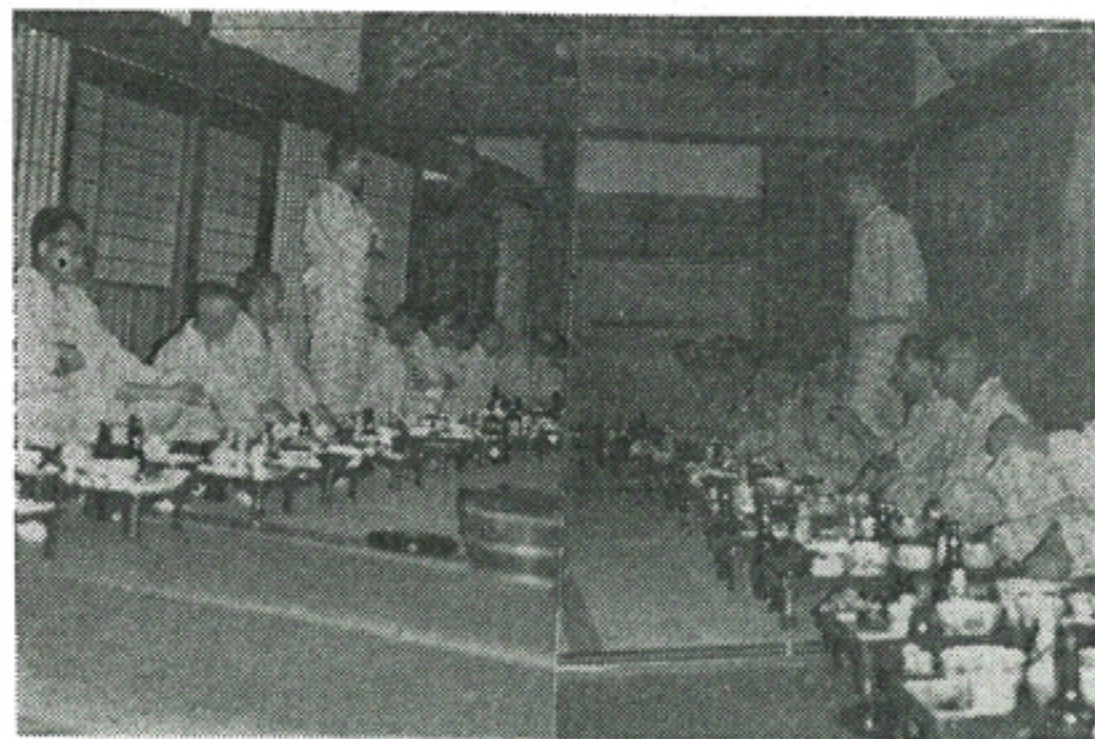
びた玄関からは想像もつかぬ気持のよい新らしさ、幹事進藤君(日産化学の常宿)の努力によるものであつた。

一同広間に集まり進藤君より幹事の不手際を詫び、墓目幹事が続いて名簿作成上の苦心と今後名簿整備のため小島典春君にお願いし度い併せて慶弔のため、集会のため基金を用意する事を提案する。それも一般サラリーマンでは出来ぬので小島典春君はどうだろうという。それに対し本人の承諾もなく小島君に押し付けろのはどうかと動議が塩田君よりあり、結局前者についてのみ小島君の承諾を得る。

札幌支部から借りて来た緑丘戦没者記念塔除幕式の映写にかかる。一同感激の十分が過ぎて会食に入っ



高野山奥の院で



万博の切符も一枚切符が品不足で五人一組の一連式だという。五人のグループが勝手に行動して見学後午後六時ニューミュンヘンに集合してお別れパーティを開く事になっていた。バスの駐車場は幾百台と並び車もまた駐車場からはみ出るといふ状態。万博開始以来最高の人出が予想され、会場内もまたもう数十万人の人が入場している事は容易に考えられる事であった。

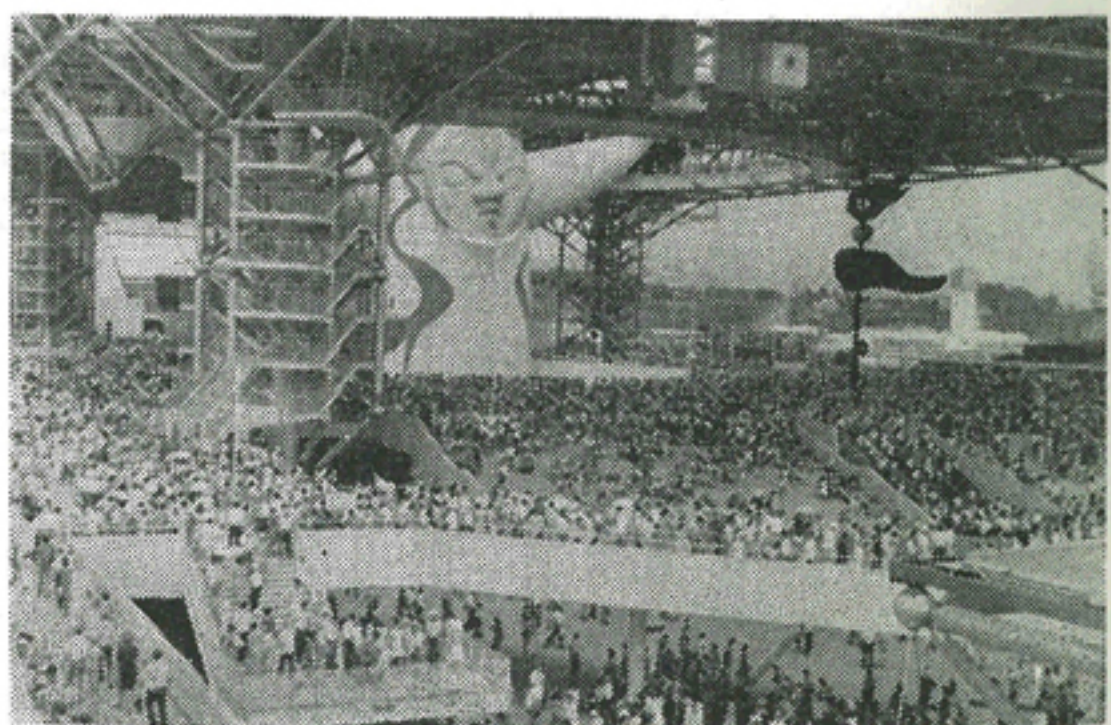
北口からの入場はスムーズにいった。

小林憲、小島典春、浅野潔、山口恒四郎、墓目英三グループは案内役がすでに二回入場して要領を心得ているから、先ずモノレールで一回廻り何が何処にあるかを概観し、希望のパビリオンを見ることをすすめ

た。長い行列に続いてモノレールに乗り一廻り半して中央太陽の塔に向った。お祭り広場では、日本人と外人による明日のリハーサル、黒いタインツの女性が舞台に四、五人、プロデュサーの外人女性が何やら打合せをしていた。そこを通り過ぎて世界美術館に向う。ここも満員。山口(公) 斎藤夫妻に合う。日本民芸館へ案内する。ここはスムーズに見られ、続いてセンイ会館、スイス館(ここでビールを一杯)で休憩して、一応ニューミュンヘンに向う。ニューミュンヘンのマネージャは快よく迎えた上にビールをご馳走になり、さてフジパビリオンを裏口から案内願う事となった。

元気のある者はさらに墓目が案内すると山口(恒) 浅野、中木(途中から入場)の三君と共にチュッコスロパキヤ館へ向う。一グループはこの様な行動をしたものの他のグループはどうなったかと話しながら再びニューミュンヘンに来て見るとすでに殆んどどのメンバーが揃ってビールを飲んでいて。しばらくここで見て来たパビリオンを語り、やっぱり高山山がよかったなアとの話が出る。テーブルを寄せ沢山の観衆の中で思い出の物語りで笑いがたえない。藤川君が現われる。外は大分暗さをまし、パビリオンの明るい、色とりどりの夜景がくっきりと見えてきた。七時半、全員立って校歌を合唱し再会を誓って乾杯した。

終りに今回さむらい会のためお土産をいただいたサッポロビール大阪支店、田中弥商事及び下斗米安蔵君にお礼申し上げます。



当日の万博会場

出席者
塩田正典、進藤彰、酒井誠(夫人、令嬢) 林崎二郎(夫人) 紫竹健津視、中木幾悠、土屋龍郎、小池輝男(夫人) 高橋正敬、向田辰雄、中野孝太郎、山口公平、島崎保信、藤川精三、斎藤利一(夫人) 大田末穂、山口恒四郎、越崎清二、小島和夫、小島典春、武内守次、野沢正一、墓目英三(夫人) 小林憲、栗山秀男、浅野潔。

〈原稿募集〉
同期のニュースはこの緑丘で交流しましょう。
一行十六字で原稿を書いて下さい。



左より 上段 島崎、富尾 下段 酒井、小島 墓目 (千葉歩兵学校で)

事も彼が出発間際に宣伝していた。間もなく万博パビリオンが見えて来た。携行食は冷房の効いたバスの中で済ます方法が最良であるとの衆議一決、おかげで魔法瓶のお茶も役に立った。食事中に万博切符購入へと山口(公)君が走って行った。

がした。物故同級生の名が次々と読み上げられ、記録して永代おまつりする事も告げられた。そして高野山開祖空海の難行苦行の末、弘法大師としての修業の歩みを詳細に説明していただいた。

勸行終って一同朝食をとる。進藤幹事から記念品として魔法瓶にお茶をつめて用意したので一個宛お持ち帰り願いたいとお茶をつめて再び箱に入れ、のし紙をつけて配給した。これから行く万博会場では是非必要な携行品である。食事会場では高価という定評があるので昼食をお世話する。(折詰す)

中野孝太郎君が見当らぬので聞くのと昨夜会社の車で十二時過ぎ下山したとの事。

大田末穂君、塩田正典君二人は今日は急用があるので昼頃の新鮮線で

東京へ向い度いと事である。朝食後は荷物を夫々持って庭に出て記念撮影をした。

今回来てよかったなアと述懐する声の方々に聞かれた。今度また女房を連れて来たいと話合っている声も聞える。

皆く行なわれて当り前という事は常識ではあるが、みんなが喜んでくれ、あの映画を見ていて目頭が熱くなった、その上こんな静かな涼しい山でも一度は見度いと話に聞いていた高野山へ来て幹事に感謝すると洩されるとほんとうにお世話のしがいがあったと思った。

再び昨夜のバスで万博へ向って降りるのであるが記念撮影をしても尚心残り、お互が二、三人寄ってはカメラに収まっていた。

ここにも一つのグループがある。酒井、小島(和)、島崎、墓目の四人の集りであって見習士官時代千葉歩兵学校でこの四人の他富尾君を入れて記念撮影した事がある。小島

君がアルバムから見付けて墓目に送って来たのがつい先月であった。複写して夫々に分配したが病死した富尾を除いて健全なものが再びここに会した記念撮影である。

塩田、大田両君は電車で新大阪へ出るため皆と別れて下山した。

我々のバスも再び来た道を降りていった。いよいよ万博への道をまっしぐらに走る。林崎君はバスガールからマイクをとり万博では涼しくて時間を過ごすのに最適であるから万国美術館を見よとすすめる。墓目は目下バーゲンセール中だから珍らしいものやカリフォルニア館のグループフルーツを買いなさい、とすすめる。バスは高速道路に入り堺の街を通る頃この地区こそは進藤君のフランチヤイズと許り高速道路や街路樹、芝生保存のために日産緑化隊がどれ程力を入れているかと説明した。そういえば日産緑化隊が万博会場の数十万円もする池の鯉に殺虫剤がかからぬ様に日本庭園の手入れに万全を期している

飲む杯はいつもザッパ

★ザッパロビヤホール ニューミュンヘン

NEW ZÜRCHER

本	大阪・梅田	TEL 361-6545
北大使館	梅田・安田信託ビル9F	TEL 312-9151
南大使館	南・法善寺前本通り	TEL 211-7248
神戸大使館	三ノ宮・生田筋	TEL 39-3556



後列 中列 前列
三原堂 中山新 陸田城 川島垣 古谷茂 坪大沼 杉中右 従小西 関渡石 太根木 酒井実 岡西廣 鈴木村 山田人 伊勢野 牧野 佐藤

昭二会大会の記

小西征夫

先が短くなって行くので、毎年合をやらうと語り合ってから何年になるであろう。昨年京都の集りで、今年には北海道と決まり、佐藤、福原両兄が引受けて帰り、本年一月札幌の新年交歓会で同級各位と話し合っ

札幌集合より登別行の旅

七月三日正午、札幌日航ターミナルに集まる。全々解らない顔がある。世話人から渡された名札を見ながら漸く「なんだ、お前か」

その夜の宴会の事

別掲の記念撮影を了えて大会を兼ねた宴会が初まる。実方君が母校学長として学校の現況報告があり乾

盃、一同意気益々盛んである。牧野、広瀬君の名調子に次いで、その道の名取り、中馬、従二君の玄人芸が出る。宴は何時果てるとも知らぬが一応九時宴を閉じたが、各部屋を訪問する者。三々五々集って懐しさのあまりの昔語り、不在の友人の消息に、会談は深夜まで、続いた事であった。

第二日目の旅と母校訪問

明けて七月四日、本日も晴天である。八時朝食をすませた一同は九時出発。人造港苦小牧を見学。緑陰のトンネルに目を輝がやかせながら支笏湖に至り、日曜の事として観光客に賑う湖畔で一時休憩する。すっきり観光地と化したこの神秘の湖に驚いたのは五十年前徒歩で訪れた少年の日を思い出す我々老人である。十一時出発、湖畔を綴って恵庭岳の麓、目下工事中のオリムピック道路を抜けて、札幌郊外を一路銭函・長谷川ガーデンに至り、石狩湾を一望に見下す部屋で、冷風を楽しみながら中食とする。茲で、昨年八月完成を見た母校出身者の二次大戦々没者慰霊塔に於ける慰霊祭の記録テープを聴き、実方学長の名式辞に拍手を送って愈々母校に向った。

すっかり老木化した街路樹をなつかしみながら、地獄坂を上る。亭々たる校門のポプラ、枝を張ったアカシヤの梢につけた白い花が一行を迎えてくれる。新装の管理棟に入り教官会議室にて、日曜日に不拘、中島事務局長や女子事務員より手厚い接待を受け、慰霊塔に参拝。校庭を散

策する。緑のローンを敷きつめた校庭は新しい建物です。昔日の面影はなかったが、丘から見降す小樽の港。午下りの陽に映える石狩湾の遠望は半世紀の風雪に堪えて聳えるポプラの木と共に、昔ながらの風景である。最後に未だ姿のみ残る懐しい木造校舎を訪問、これが見納めかと大きな柱をなで、まだ藪鶯は鳴きますかと問う。尽きぬ名残を惜みつつ、四時半実方学長、中島氏らに見送られ母校に別れ告げて再び札幌に向う。

お別れパーティーで乾杯

石狩湾を左に一路札幌国道を札幌に走り、最後のコース、札幌ビール園に着く、途中帰路の關係で二、三の友人はバスを降りたが、長途のドライブにも元気で一同が、野外のジーンズカン料理をつつき乍ら乾盃。七時明年の再会を約束してお別れパーティーを終る。四十五年振りで来道した旧友近くに居り乍ら疎遠になり勝ちな友との二日間の語らひは、全く筆に現わせない喜びであった。また、不参の友から寄せられた数々の厚意と便り、それにも勝る三十九名の参加を得たこの北海道大会は真に有意義であった。

この拙い紀行文と報告を終るに当り我々のこの友情を思い昭二会全員の健康を祈り、またこの企劃に、後始末に労苦をいとわず骨折られた、佐藤、堂城君初め、世話人各位に深い感謝を捧げます。



千代田火災海上

企業と家庭を守りつづけて72年

- 本店：東京都中央区京橋1-3 (535) 4671
名古屋支店：名古屋市中区上前津町66 (331) 8411
大阪支店：大阪市東区大川町66 (203) 2161
その他支店：全国主要都市

昭二会に出席して

渡辺 祥吉

オフロ峠にはガスが立ちこめていた。咫尺を弁じない程であった。しかしバスが展望台のあたりをすぎ、登別に向って下行を始めると、ガスはぬぐったように晴れていった。そして白樺やタケカンバの樹林は再び目の前にあらわれ、その新緑は目を射るように鮮やかであった。

まるで三文小説の書き出しのよう、で恐縮であるが、これは昭二会の当日、オフロ峠をこえた時の実景で

あった。しかし私がこう書き出したのは、私にとって、こんどの昭二会もこれに似た思いで出席したからである。

今年の昭二会は七月四日登別で開かれることになった。東京、熱海は別として、北海道の大会に出席するのは、私にとっては初めてであったので幹事さんから出席者名簿を送ってもらった時、卒業後初めて会う人も少くないことを知った。坪谷、伊

勢田、山形、小西、牧野、中島、鈴木、の諸兄だった。私はこれらの人達に呼び起こしていたが、中には思い出せない人もあった。しかし洞爺湖でバスに乗りこんでみると、古い記憶をよびおこすに足る顔々であった。温泉につかたり、盃を手にお互い話合っているうちに、その白髪頭や、しわをきざんだ顔の中に、若い日の顔が段々はつきりと現われて来るのだった。それと共に運動部や応援や、外語大会などで活躍した日のそれぞれの思い出までもよみがえって来た。

同窓というものは有難いものだ。四十何年ぶりで会っても、かみしもはいらぬ。すっぱだかになって、おれ、おまえが通じるのだ。これが同窓会というものの特権なのかも知れない。病気で参加できない人も少しはあったようだが、集まった皆はお互いに健康をよるこび合い、もっと長生をして、来る年も来る年も、という思いが湧き上っていたに相違なからう。「毎年開催して最後の二人になるまでやろう」という人もあった。

ところで、今度の大会に出席したものの一人として、特に幹事さんの至れりつくせりの準備と運営については心からの感謝をささげたい。参加者四十人に近いというのも最高であった。欠席者の名簿まで作っておいてくれたことや、大会報告で欠席者の近況報告をも掲載してくれたことも、本当に有難いことであった。選んだ時期もよかった。美しい北海道の新緑、殊にからまつ、白樺等

の美しさは、私ばかりでなく、本州から参加した多くの人が久しぶりで味わったものである。私は私用の関係で途中勝手な行動をとったため皆さんと話合う時間もそれだけ少なかったし、別れのあいさつもおろそかになってしまったことをお詫言しなければならぬ。

皆が母校を訪ねた翌日、私も母校をたずねて、あの地獄坂のアカシヤを見、校庭のポプラを仰いだ。花多いクローバにも坐った「海と丘と白い雲」の丘で、戦没学徒慰霊碑にもぬかずいて来た。旧校舎の最後の姿もカメラにおさめて旅の終りをかざってきた。久しぶりで初夏の北海道をたずねて、私は学園ばかりでなく小樽の近郊も、札幌も歩いてみた。祝津海岸、積丹半島は古平国まで行ってみた。立派になっていった、変っていた。しかしふるさととの自然はみな暖かく迎えてくれた。札幌の発展も旭丘に立って眺めてきた。私は本当にいい旅をしてきたと思う。

最後になったが、こんど学園を訪ねて、よくみせてもらったことにより、実方学長が、母校のため、身も家もかえりみず、献身的に話し合いによる円満解決に努力され、その成果をあげていられるのを知ることが出来た。只々心からの感謝をささげた。これは昭二会員全体の心底の思いであったと思う。併記しておきたい。

大西猪之介教授特集号一冊五〇〇円(送料込) 残部僅少につき品切れの節は悪しからず。



昭和新山にて



滝の家にて

恩師近況

拝啓 たいへんご無沙汰いたしておりましたが、いよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。小生もおかげさまで無事、相変らず学習院大学ほか一・二の大学に出講「経済生活における英語」の勉強に従っております。

なおこの両三年来特殊法人・貿易研修センター(通産省所管・通称貿易大学)の設立に参画し、同大学の外国語とくに英語の教科目設定に關しまして、語学専門部会副部長として部長小川東京外国語大学前学長をたずねて国際ビジネス・マンとして備うべき英語の能力を、聴く・話す・読む・書くという四技能について基準を定めその内容を策定することにお手伝いしてまいりました。その後その具体的な教材開発に専念いたしおよそ国際ビジネス・マン

としてカバーすべき英語のうちまず耳に聴き・口に話されるものについて、若手から中堅あるいは幹部重役のいるまでおおよそ必須と思われるものを具体的なビジネス生活の場に統合し録音のネイティブ・スピーカーの声をもってカセット・テープに吹きこみました。△ダイヤモンド・ビジネス・イングリッシュ・カセットS・S V英文テキストのほかに和文テキストも独立のものとして、語句の解説、文法と慣用をつけ、語学的理解・運用のなかに、国際ビジネスの慣行をミクロ的な個々の取引からマクロ的な世界経済の舞台まで拡大してとりいれました。「若手社員から重役幹部まで」の英語の研修用教材としてお役に立つものではないかとひそかに考えております。

ビジネス英語の勉強に志してより幾歳月、小樽高等商業学校・東京外国語大学に在職中から公私にわたりご教示お引き廻し頂いた学恩に改め

小樽高商 伴房次郎先生を偲んで

原稿 切延長(十月二十日)

伴房次郎先生書簡集をお届けしておりますが、先生を偲んで数々の思い出、エピソードなどを左記に よりお届け下さい。

一、原稿用紙 四〇〇字詰四枚前後(原稿用紙に書かず便箋に書き流して御投稿なきよう願います)

一、締切 十月二十日

一、写真 原稿に關係ある写真は同時に添付下さい。

一、投稿見込 ご投稿の予定がございましたらハガキで何日頃投稿の旨お知らせ下さい。

一、原稿送附先
〒662 西宮市清水町一ノ一六
墓目 英三 宛

某月某日

サッポロビール 顧問

穴釜 升夫

(大一一)

九月〇日(火)

根室市での石川県人会に出席したあと中標津、風連湖、尾岱沼を回って川湯に出る。近ごろは秘境ブームとかで知床を訪れる人は非常に多いらしい。これからはオホーツク沿岸の観光も盛んになるだろうが、それがよいことなのかどうかかわらない。川湯の宿から硫黄山に登ったが、山容は五十年前と少しも変わっていない。めまぐるしい社会の動きとくらべて感慨深かった。

九月〇日(日)

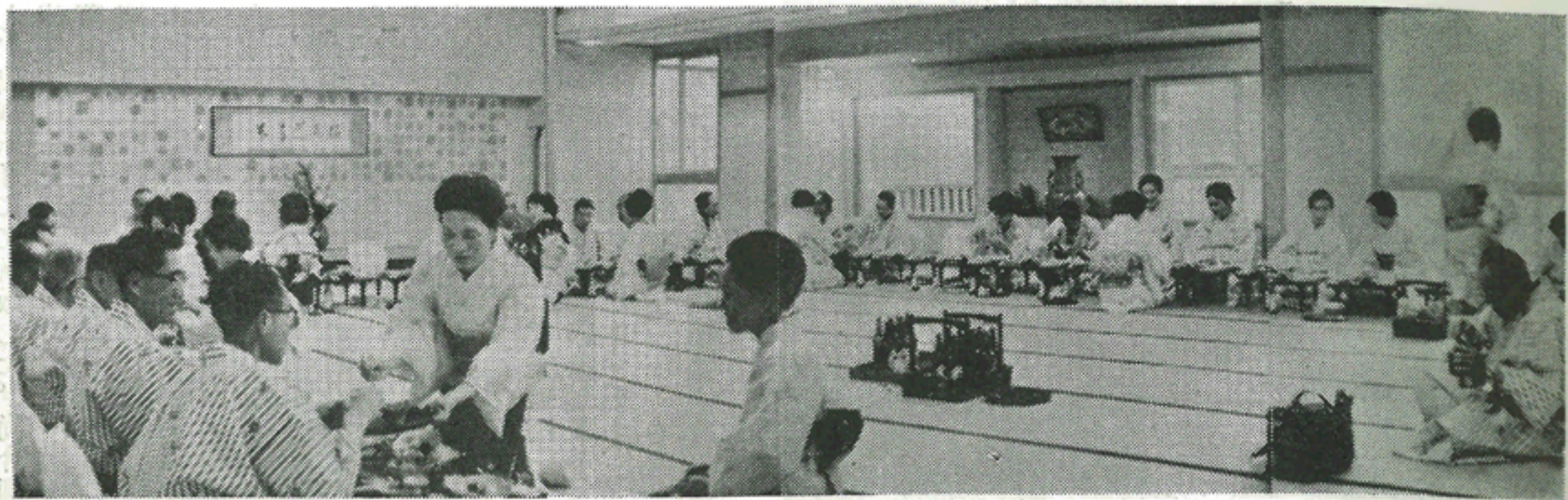
五時半に起床。いつものようにナマコ山の山頂まで散歩、おいしい空気を胸一杯吸う。閑静だった宮の森もトラックの往来が激しくなり、いろいろな会社の寮などが立て込んできたせいか、ゴミ焼きの煙とにおいで空気がよごれてきたように思う。新聞で知人の死亡広告に驚く。前に壇家総代をつとめた家だが葬儀は教会ですという。うちも代々真宗だが、二十八年に三十歳の若さで死んだむすこだけは、なくなる前にキリスト教の洗礼を受けた。「仏教ではどうも物足りない」といっていたが六十八歳になって、なるほどと思うことがある。

トモクの段ボール

東洋木材企業

取締役社長 手取貞夫

東京本社 東京都千代田区丸の内二の十八(内外ビル五階) 電話(212)6811
工場 手稲工場・綱島紙器工場・大阪紙器工場・小牧紙器工場・新潟紙器工場・山形紙器工場
営業所 小樽・釧路・函館・仙台・静岡



会場風景



以来、氏は連絡強化に努力された。経過報告もあって一同チーム作りに熱意をもって、原案に賛意を表した。次いで特別参加の墓目編集長より、伴先生書簡集発刊報告さらに地元幹事より緑丘講読申込の要請。そして近況通信文集発行の計画をすすめたいと思ふと発言。現在解答の意外に少ないことを数字を挙げて促進を要する。

下村氏からの祝電披露(学長、他五氏)で、総会をひとまず終る。暫時休憩のち愈々大広間に於て懇親会に移る。四斗樽と一合榊の山は館主の心づくし。北海道よりはるばる懐かしい香りのスズランと「北の誉」を寄せられたのは野口氏。

下村氏の開会の挨拶があつて乾杯に入る。舞台を前にコノ字にならんだのは白髪を忘れた昔の悪童連と御婦人方。山田館主の心をこめた山海の珍珠が次々と運ばれて来る。四斗樽の酒が一合榊になみなみと盛られ

て、となり同志の歓談に座は一段と賑わつた。

地元美妓による民謡披露、安来節、目鼓舞、関の五本松、因幡の傘踊り次々と繰りひろげる唄と踊りは熱を及ぼす。素朴な情緒に浸つて時のたつのを忘れ、まことに和やかな雰囲気、小樽時代に返つて、学生時代を再現したのはその後である。

湖上をわたる涼風に酔をさます。湖畔で語り合う者、夫婦の姿や、灯に映る静かな夜景もすべて都会を離れたこの静寂の湖のほとりなればこそであろう。明くれば朝の宴会は、長谷川運牛先生の揮毫展示会に初まった。氏は出席の申込みはあったが市長候補のため都合つかず誠に残念。彼独特の放談のうちの揮毫会は流れたが、流石書歴の示す値打ものである。一同に代つてお礼を申し上げます。

お別れ前のバスリクレーションは鳥取砂丘へ、ガイドの名調子に、笑

いと拍手で時を忘れて、風紋に、晶子の「砂丘とは浮べるものにあらずして、ふめば鳴るかよさびしき音に」感激と友情と緑丘スピリットを綾織りにしたクラス会も、いよいよ終宴。来年のクラス会での再会を期



山田館主歓迎の意を表して廻る

神話と伝説のふるさと山陰路に

緑丘 昭九会万博記念クラス会開催



東に鳥取砂丘、西に大山を仰ぐ、風光明媚な東郷湖畔の温泉郷に於いてとき 昭和四五年六月十三日十四日とこ 鳥取県東伯郡東郷温泉 鶴乃湯(昭九 山田善之助 氏経営)

大阪午前八時発特急「まつかぜ」で北海道よりの遠征組と、関西地元の同勢を乗せて、山陰海岸国立公園を窓外に眺め、日本海に沿って西へ五時間。

この恵まれた湖畔に近代的建築の粋を集め、和洋式を巧みにとり入れ設備の行届いたゴージャスなホテル湖底よりこんこんと湧き出る温泉は山陰随一の湯量を誇り、肌にとけこむ泉質の心地よさ、これぞ同級生山田善之助君の経営になる鶴乃湯観光ホテルで、今回のクラス会会場とは一同クラスメートの気安さ、旅の疲れも一瞬にフツ飛んで、先着の関東東京組とヤアアアの歓声のうちに、玄関前での記念撮影と相成る。東より西より相集る同志二十二名。今回は特に平素のサーヴィスの埋め合わせにと、同伴組の圧倒的に多く、いやはや殊勝なことよ。この機会に出雲大社、松江、関の五本松に足を伸ばして、旧婚旅行に、旅へのいざないや憧れに満たされるものを感じて頂けば、一層、昭九会万博記念クラス会も有意義と云うものである。

(臨時総会) 紀野重仁氏の司会で黙禱、ついで地元幹事の業務報告。山田氏へ記念品贈呈(長谷川運牛氏揮毫、及び墓目画伯の百号墨絵)があつて議事に入り、野口誠一郎氏より金吉案の昭九会組織強化について協力を求めた。昨年の三十五周年大会



釣糸をたれて都塵を洗う



野口誠一郎氏挨拶

し、鳥取駅頭にて解散した。尚今回米子の昭三卒山里豊氏、昭一卒の墓目、小池両氏も大阪より参加され昭七卒大隅氏が本社町よりこの会のため清酒を寄贈、学長、大阪支部長の祝電をいただくなど各方面よりの御協力を深謝致します。(藤井記)

(クラス会余韻)

おかげさまで一年分の酒をのんで大あばれ、一年分のたのしみをさせて頂きました。無我夢中の幹事さんの努力、唯々ありがたう。

お孫さんまで加え、家族動員しての歓迎にまったく感激しました。成功、万才、又やっつてほしい。(東京S生)

クラス会のひなびた環境は、静寂そのもので、湖畔を眺め感



概にふけりました。おつむの白いのも、顔のしわも何のその、往年の覇気を取り戻し、歓談に花を咲かせ、酒のうまさも格別、幹事御苦労(名古屋 吉田曠)

夫人連(上)と朝食のとき(下)



雨の中国横断ドライブ

骨董—デンギスカン鍋—温泉の旅

墓目 英三

倉吉で骨董品を
湖畔のいでゆ「鶴乃湯」前で砂丘

昭九 尾崎央男

帰途一人旅かと思っていたら貴君の同乗を得てほんとうに愈屈しないドライブが出来、且つ楽しい思い出が残り何よりと存じます。いわゆるように自動車で田舎の骨董漁りや高原の野草採集はお互の年齢にふさわしい事かもわかりませぬね。

途中数多くの場所へ立寄り、その上湯原温泉とはいわゆるもの町営温泉まで案内しましたので大へんおそくなりました関係で特に湯原—勝山—津山—岡山は一寸小生としてはスピードを出しすぎまして、多少ヒヤヒヤさせたのでしようが兎角貴殿を岡山駅へ無事送り届けることが出来ホットした次第です。

小生も採集の山ツゲ、野生の桜、釣鐘のようなツル草が帰る早々夜、傘をさして植えておきましたので、折柄の降雨で元気に根付いている風に見受けられます。貴殿とのドライブの思い出の糧として骨董品と共に大切にしたいと思います。

行きバスの昭九一同と野口夫妻の車そして尾崎ドライブに私が同乗して三方向に夫々別れていった。

砂丘行きのバスの中から「気を付けて行けよ」「アメリカ帰りのドライブパーしつかりたのむよ」との声を残してバスはお先に門を出た。

六月の梅雨空は今日も曇天であった。助手席に乗った私はチロリアン風の帽子をかぶった尾崎ドライブに目標は何処かと聞いた。彼は眼鏡越しに「関金温泉だ。道路の交差点に倉吉へ行く矢印があるから見てくれ」という。交差点に来たが三叉路になっていて私にはどっちがその方向か判らない。彼は多分こっちだという。その通り倉吉らしい街に入った。「墓目君、骨董は好きか」と私に問いかけた。「好きだな」と答えるなり「そんなら、そっちを注意して見てくれ、俺はこっちを見て行く」勿論骨董店があったら入って見様という事である。なかなかそれらしい店がないまま一軒程走った「あの八百屋で聞いてくれ」といわれるままに降りて女店員に聞くと少し戻ったところに古道具屋があるという。車はバックしてバス会社の車庫にとめ、二人は五六軒先の古道具屋の前に立った。小さな道具屋で下駄箱、古机などにホコリがばい

溜っている。彼は中に入り、私も彼についていった。「何か変わったものはないかな」と道具屋のオヤジに声をかけた。足許には古い徳利がゴロゴロしている。一つを拾い上げてこれいくらだと問う。次々に値段を聞いては天井を見上げたり、左右に目をやったり短時間に掘り出しものを探そうとした。中から家内らしい人も出て来てこれはどうですか、仏像のよいものがありますがとヒヤカシでない事が判ったか、奥からその家の特別値ガサの張るものを出して来た。

結局彼は古い徳利だけを次々と買い漁り、彼の現在の骨董蒐集のネライがつかめた。うしろにいた私もオランダ風の高台盃せんを求め、尾崎さんが指さしたらホコリのかぶった自在鍵を店の奥さんが取り出してくれた、それを二人でしげしげとながめていた。「これは珍しいものですよ二本鉄をたたいてネズリ合せたのれ一寸ないですよ」とすすめる。これどうだと彼は眼鏡越しに私にすすめるのでこれも買求めた。

尾崎さんは大きなパッキングケース二ヶに数個の大型徳利を求め、私



たぬきの傍で(筆者)

はこの他変わった古ノミを一丁求めて再び関金温泉目指して走った。

蒜山そぼ

雨模様になり関金温泉を左に見て大山、蒜山が雨雲でかすかにその裾が見える山中に入った。ここは下蒜山、中蒜山、上蒜山として大山と続く大山隠岐国立公園である。車はほとんど山道を登った。霧雨の様なコマカ雨の中から互にお腹の空いた事に話しが一致した。レジャーで若い青年達がリュックを背負い或はカーで来たのか五、六組が居ったが車の中から見るとドライブインに古バスを利用した屋台ソバ屋があり、そのすぐそばにはタヌキが犬の様にクサリでつながれて、針金の張ってある両点をクサリの輪が動く仕掛けになっており、それを二、三人で取り巻いているのが見える。二人は古バスの中に入って蒜山ソバを注文した。一時過ぎだつたらうか。少憩の後タヌキの傍によつてお互がカメラのシャッターを切り合った。ツツジが所々に咲いて、小鳥のさえずりが聞える。ここが犬狹峠で蒜山高原の東端である。「山ツツジもいいね」というと「うちの山には様々な樹木がある勿論山ツツジも咲いている。これから其処へ行くよ」と八束村に向った。

鷺が鳴く別荘予定地

彼は義理堅い人で、戦友や土地購入でお世話になった人々へ東郷温泉で買い求めたお土産をもって挨拶旁々訪問した。車は県道沿いに走った。トラックがはね返す泥で汚れた小さな旅館の横に車を止め、車のトランクからスコップ、紐、新聞紙を

京阪神・山陽より一泊の旅に最適の観光温泉地

山陰東郷温泉

鳥取県立公園 湖畔のいでゆ

国際観光旅館・日本観光旅館

露天風呂 鶴の湯

TEL 松崎 (08583) 2-0311

テレックス 5795-693

山田善之助(昭九卒)

大阪直営案内所

大阪市南区難波新地3千日デパート5階
TEL 633-8876・631-3131 内線208

札幌昭九会開催

日時 七月十五日
場所 札幌テレビ塔

先般鳥取、東郷温泉鶴乃湯ホテルで開催された集会模様について、野口誠一郎氏の報告会と長谷川運牛氏の渡欧土産話を聞くための会合が七月十五日、札幌テレビ塔で開いた。十四名の参加者で野口氏は当日のスナップ写真を回覧して模様を伝えてくれた。藤井氏の今回の開催への努力に対し深く感謝する。

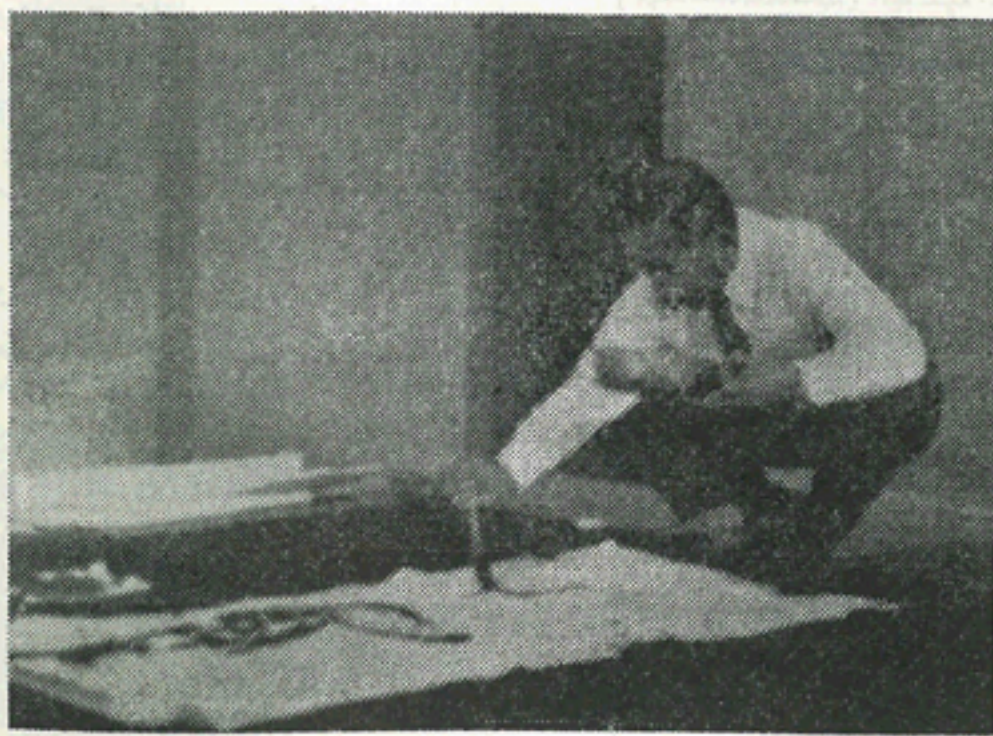


写真 書道実技の公開指導を行う長谷川氏(チエルヌスキ美術館で)

欧の報告をされたが三月のパリ展は日本書道界としても漢字から前衛まであらゆる分野が参加し、しかも席上揮毫を行なったのは珍しいケースで、彼はその席上英語で来観者の質疑応答をやり関心と情熱をかきたて、日本代表者一行三十余名に感謝されたという。近く室蘭市長戦があり社会党を向うに廻して立候補するという。同期生は彼の戦勝を祈るのみ。

HBC製作による「戦没者慰霊碑除幕式」映画を鑑賞して散会した。(クラス会余韻)

山田君の絶大な協賛もさることながら関西支部の諸兄の並々ならぬ企画、準備等の御尽力なくしては、あのような楽しいクラス会は持つことが出来なかったと存じ、改めて敬意を表す。今後もお互いにヒンパンに顔を見せ合い、健在を祝し合おうではありませんか。今年の梅雨は少しも気にならないほど、東郷温泉でのクラス会の楽しい印象が残っています。(横浜 本田正二)

昭和十三年会札幌だより

富永徳君突如札幌へ現わる 九月五日

「ラグビー部の暴れん坊の君が、まさか教育界に入って、校長先生になつてゐるとは思わなかつたよ」と、われわれ札幌の三人の同期生から、幾度も久闊と祝福の握手攻めにされているのは、現・岡山県矢掛商業高校長の富永徳君。



右より 鎌谷、富永、戸谷、佐藤(まりもの店で)

同君は、在校中一年生の時、対北大予科ラグビー戦では、実兄が北大の選手(三年生)で、兄弟が敵味方に分れてプレーしたこと。昭和十一年の天皇陛下小樽高商ご臨幸に際しては、同君が髪を長く伸ばしていたために、学校当局から敬遠されたことや、四寮のことなど思い出話をすれば、所謂「つかんだ」話、恩師のこと、他の三人からも色々の話が出、同期生の誰彼の昔話に花が咲いた。この小宴の最中、偶然に同期の谷口君が現われ、この奇遇にまた一段と旧懐談がはずみ、楽しい、なつかしい一刻を過ぎた。

大西猪之介教授特集号 三十五才で世を去った日本経済学界の巨星大西猪之介教授号(二〇七頁) 大西教授略伝、追憶の記、大西猪之介経済学全集の解説、未発表の裏話など同教授の全貌を網羅す。五〇〇円(五〇円切手一〇枚)で頒布します。

北辰会(北斗寮出身若もの会)

万博記念で大阪に集る

六月五日 於「北京」



北斗寮の歴史左記に始まり次の如く終わる。

一九二二年十二月一日 開寮式
一九六〇年九月二日 廃寮式

これは昨秋十月、北斗寮跡に建てられた碑文の一節である。

まさに北斗寮の歴史は閉じられて既に久しいが、母校を愛し又こよなく北斗寮を愛する人々の間から、一つ万国博を記念して大阪で北辰会をやるうではないかとの声が上がリ、地元大阪の阿部敬作氏(昭17卒)、北海道の野沢悌三氏(昭17年卒)らが發起人となり会開催が提唱された。かくて万国博記念北辰会は六月五日大阪第一ビル「北京」において盛大に行われた。北から、東から、懐かしい顔々が定刻前に続々と集まる、呼びかけの範囲は昭和十六年二十年即ちあの大東亜戦争の緒戦から終戦にかけての苦難に満ちた時代に、同じ

北斗寮で青春の日々を送った寮友である。

或は札幌から、又盛岡から夫人同伴で馳せ参じた面々、又或は卒業以来の顔合せを楽しみにして千里の道も遠しとせずに参会した人々、開会前から楽しい談笑が始まる。午後五時司会者が開会を告げ、地元大阪の阿部敬作先輩(昭17年)が開会の挨拶、続いて来賓の藤井先輩(昭9年)が祝辞、岐阜の中川先輩(昭16前)の熱のこもった挨拶が送られた。田脇先輩(昭16前)の音頭で乾杯、緑丘戦没慰霊碑除幕式の映画に、亡き寮友を偲び、涙をたたへながらの感激的なシーンが続く。

開宴、団欒と時を忘れさせる。各人の自己紹介ならぬ近況報告があり追分けが出る、進軍歌、応援歌が高らかに歌われていよいよ会は最高潮である。とあって中川先輩から感激





戦場ガ原 画 福田政治 (昭12)

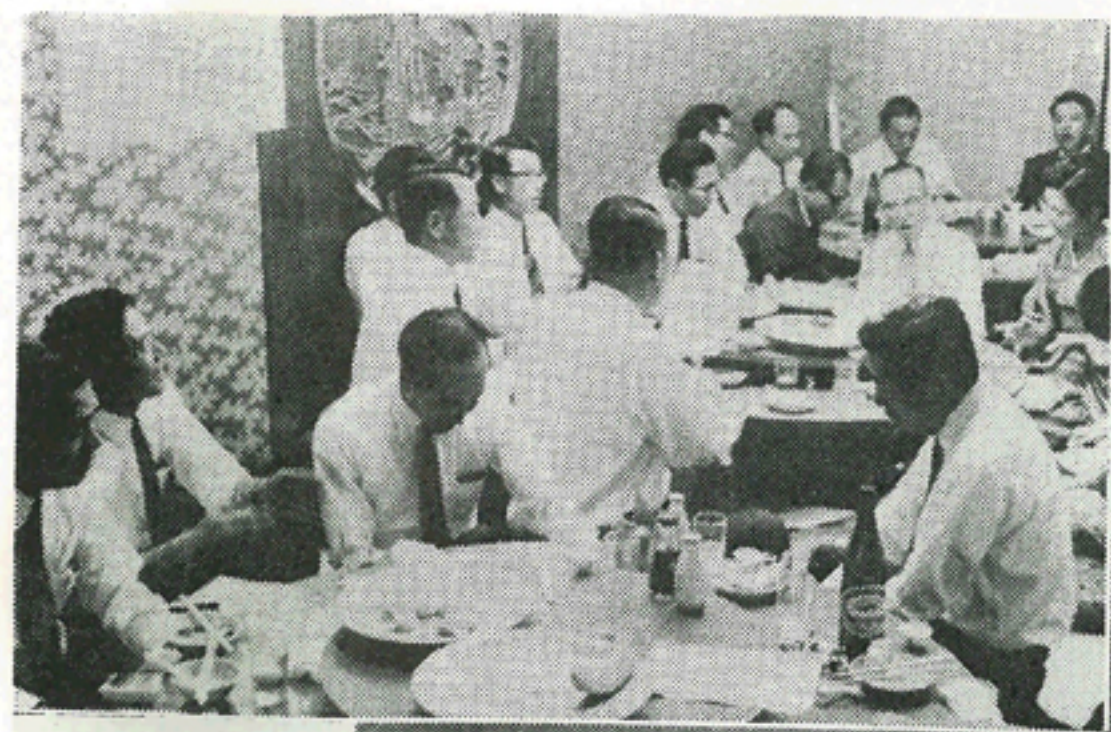
最近の日本人が、エコノミックアニマルなどと呼ばれかけ、無味乾燥化しつつある昨今、私達は矢張り人間らしく、豊かな気持と、より以上の人間形成を、若き日の北辰会と同様、中老年期の北辰会において、授けて頂きたいと切望する次第でございます。

今回のスナップ撮影技師は小川君(昭20年)に活躍して頂き、皆様に思い出の写真をお送りすることが出来、経理は大久保君(昭19)が締めくくり、今後の事務局長には赤津君(昭19)に万場一致で大命降下となり、大阪会合を無事終了致しましたが、その間の運営の粗漏の点は愚生より深くおわび申し上げますとともに、賜はりし皆様の御理解とご協力に衷心より感謝致しつつ、重ねて厚くお礼を申し上げます。

次にお会い致します日迄皆様方のご健康とご活躍を切にお祈り申し上げます。

参加者は次の二四氏であった。
来賓 藤目英三(昭11 大阪副支部長) 藤井幸男(昭9)

昭十六前 中川和行、田脇由夫
昭十六後 広瀬哲郎
昭十七年 阿部敬作、神田敬治、野沢悌三、大塚英雄、越智直行、清水淳、関口善三郎、津島正雄、山田鳳蔵、富田良智
昭十八年 今西浩二、野中雅夫、七戸真次
昭十九年 赤津俊樹、岩本寿雄、橋本康一、大久保勇
昭二十年 長家建一、小川裕
東北・北海道三名 関東六名
中部五名 近畿八名
(赤津記)



← 北辰会々場風景



→ 立って唄う北斗寮歌

この会を全国的に発展させ度いと述べた。会終了後、発起人を代表して参加者に送られた阿部先輩の情熱溢れる挨拶の一文程よく会の情景を伝へ且つ一察を愛する者の魂のこもった感動的なものはない。ここに掲載する所以である。

参加者への挨拶状

昭17年卒阿部敬作
「今般の北辰会大阪会合の世話人の一人として、借越ながら一言お礼やお詫びを兼ねてご挨拶申し上げます。皆様方には今や夫々の重要な地位にお立ちになり、お仕事を寸暇も留

守に出来ない貴重な日々をお過しの中を、地元のみならず、遙々ご遠方よりご来阪を賜はり、盛大な会合を開き得ましたことは、全く皆様方の昔変らぬ情熱と友情の賜と信じます。……にも拘らず、世話人として諸事万端不行届な点だらけで、今となっては後悔の思いと恥かしさで一杯であります。どうかご容赦の程を切にお願ひ申し上げます。会場やスケジュールにおいても色々反省を致しています。

兎角私達が卒業する頃は「若し万一にも命があれば、また会うべ」と言い交すのが精一杯の言葉であつたと思います。この夢が実現出来たことはお互が健在であつたこと、そして北斗寮の飯をたらふく食べていたことに外ならないと思ひます。共に学び、語り、愛し、泣き助け合いながら同期はもとより良き先輩に指導され、良き後輩にバトンタッチをして行った北斗寮の姿が、約三十年後の

EXPO'70六月五日、大阪の地に於て北辰会を開かせ、寮舎は消えるとも、北斗寮精神の血の継がりは今もって脈々と鼓動していたことを立証したと同時に、私達人生絵巻きの一頁になつたと思ひます。

然し乍ら、あの慰霊碑の映画を拝見して、胸が込み上げて参り、眼に涙が溢れ、感慨無量の極に達しました。亡き友に今からの一夜の料理を食べさせてやり度い気持で「一緒に食べるべ」と呼びかけどもその姿はなく、それは心で箸を持って行つて上げるより仕方ない友でした。この様な淋しく、暗い気持を何処かで、埋合せてほしいと念願して来た私達の気持が、慰霊碑の完成によりホッとしたのですが、現実にあの映画を見せて頂き「良かった、良かった、やれやれだ、友も草場の蔭でニコリしているだろう」と安堵感と喜びがその後には沸いた次第です。そしてよく振り返つてみると在学中も、卒業後も何かやると云えば、常に北斗寮から立役者が出て、それに皆すぐ一致協力して何事も見事に仕上げた参つた事実も照して、同じ緑丘人としても私達はほんとうに幸せな人生への充実感を覚える昨今です。野沢君や竹山君の地元北海道での大活躍とご努力に心から感謝すると共に今回の会合の為にわざわざ重いフィルムを遠方より大阪迄ご持参頂き厚くお礼を申し上げます。

「虚心坦懐」「雄大剛健」のモットーが三十年後の今でもハッキリ浮び上つていますが、お手許にお送り致しました貴殿のスナップ写真です。入寮式から始まってストームの嵐や

試験になれば先輩の「ノート」の払い下げ、掴んだとか低空とかのヒヤヒヤ物語、夜ともなれば誘惑の青い灯、赤い灯、浮気心の公園デート、対寮マッチ勝利の感激や残念会、小包が到着すれば、蟻の様にたかつての慢談、ヤミ時代の物資集収の苦心談……そして歌に唄われた懐しい文句の「高商出てから十余年、今じゃ……」はとつと過ぎて三十年、今じゃお互が禿茶瓶か胡麻塩頭、黒くて房々しているのは一寸あやしい奴。そしてやれ生産性だの、人の管理と使い方は……とか、うちの次期計画は……、嫁取り、嫁入りの候補者を世話しろよとか……何処へ住宅を建築とか今昔の物語に花が咲きました。それも平素職場では大ッピラに口にも出来ず、話し相手にも気を使う立場になつてしまつていたので。ところがこの場だけは天下御免、隠す方が笑われるも。昔に返つてのリラックスなパライスです。友は何時まで経つても良いものだね。友と云つても単なる学友は別だ。

次に中川先輩のご提案を逐次準備強化して、北辰会の全国組織を作り次第に減りこそすれ増えることのない北辰会員、又次第に老い行く私達の人生行路に立って少しでも多くの潤の雨を降らす北辰会に持つて行くことは誰もが念願して居られることと思ひます。

皆様共々にその方向に進めて頂くべく存じます。そして墓目先輩の話されました如く、人生、真の幸福か否かは最後の灯明とお線香の上り具合にある様であり、その平素の在り方を教えて頂いたと思つていきます。

●医薬の発展につくす

現代病に挑戦し 今日と明日の健康をつくる日本新薬

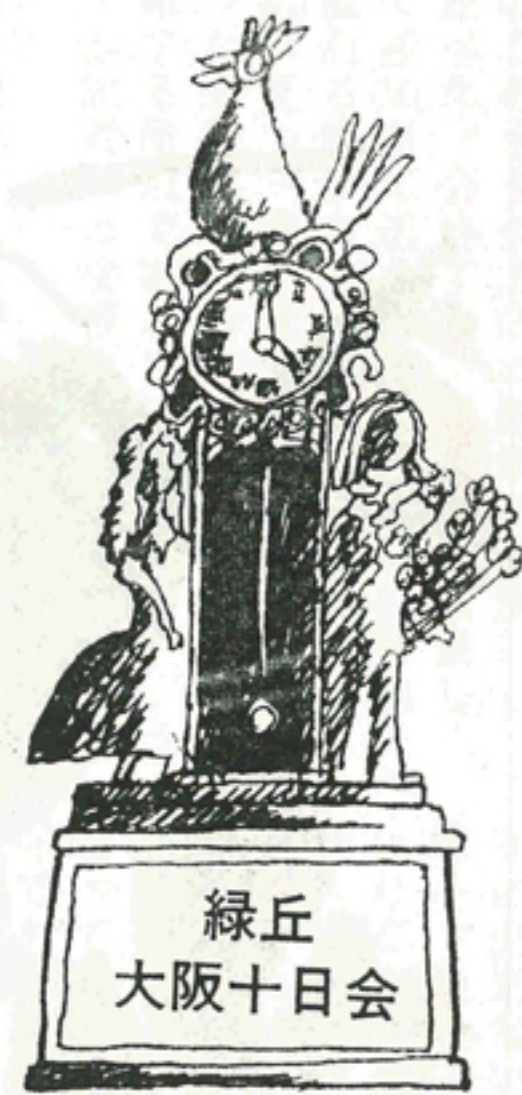
健康こそ何よりもまさる幸せと考える私どもは脳卒中、心臓病、交通傷害など社会の進歩とともにふえる病気にとりくみ、すぐれた治療薬を開発みなさまの健康でゆたかな暮らしづくりにご奉仕しています。健康メーカー、《日本新薬》のこれからにご期待ください。



現代病に挑戦する

日本新薬KK

日本新薬株式会社 本社/ (901) 京都市南区西大路通八条



緑丘
大阪十日会

七月例会

七月十日、サッポロビール会議室で開催。去る四日昭和二年会が卒業四十三年目の集いを札幌―小樽で開催。バスツアーで定山溪、洞爺湖、登別そして支笏湖を通って小樽に入った豪華なスケジュールに感激の面持ちで、石田大阪支部長(昭二)は語る。

引き続き「国際経済協力時代に於ける労使関係」と題して昭九藤井幸男氏が日頃研究しているところを発表し、蘊蓄の深さに耳を傾けた。(要旨)

国際協力の意義、目的から解き、その発展を貿易の自由化、資本の自

由化、開発途上国への経済援助問題に及び、後進国援助費、特惠関税、援助費の内容と国内事情そして特惠供与と国内産業の圧迫について特に児童手当などの例など挙げる。

国際協力としての技術の交流に及ぶと日本の技術導入方針を説いて、技術導入による産業の大型化を日本の大型産業と中小企業の占める多と賃金比較を挙げて説明する。

産業再編成による構造変化と労組のあり方では次の三つに分けて解説した。即ち①企業内合理化の推進。②競争激化による合理化に対処する労組の方針。③総評、同盟、並に経営者団体の対応策。

結論として七〇年の労働組合運動の戦線統一論に「総評四原則」を例にとつてその波紋と今後の動きを見ようというものであった。

(出席者)
推名先生、四谷(大一一)大竹(

大一一)石田(昭二)樋山(昭三)三浦(昭五)養目(昭一一)若山(昭一三)市橋(昭一四)岡部(昭三三)川口(昭)

編集後記

☆四十五年度第二号未刊で、三号四号合併号をお届けします。第一号は伴先生書簡集(五〇頁と平常号四〇頁)計九〇頁。そしてこの号は六〇頁両者合わせて一五〇頁。全く昨年からの連続体事なく伴先生書簡集に取り組み、表紙は書簡集(上)(中)(下)と一回に三冊分印刷しました関係上、第一号で合併号と表記が出来ませんでした。一方原稿は溜る許りで書簡集(下)即ち四十五年度第二号が後になった次第です。何卒この点お許し願います。

朝里のサクランボ

朝里の海を見晴らす丘の上で久々の小樽訪問の途中、ひと休みしたが、桜桃の樹が沢山あり子供が登って採っている。ひと休みのレストランで、そのサクランボを沢山出してくれた。ナポレオン種、美味この上なし。

表紙絵について

那河捷(昭二)



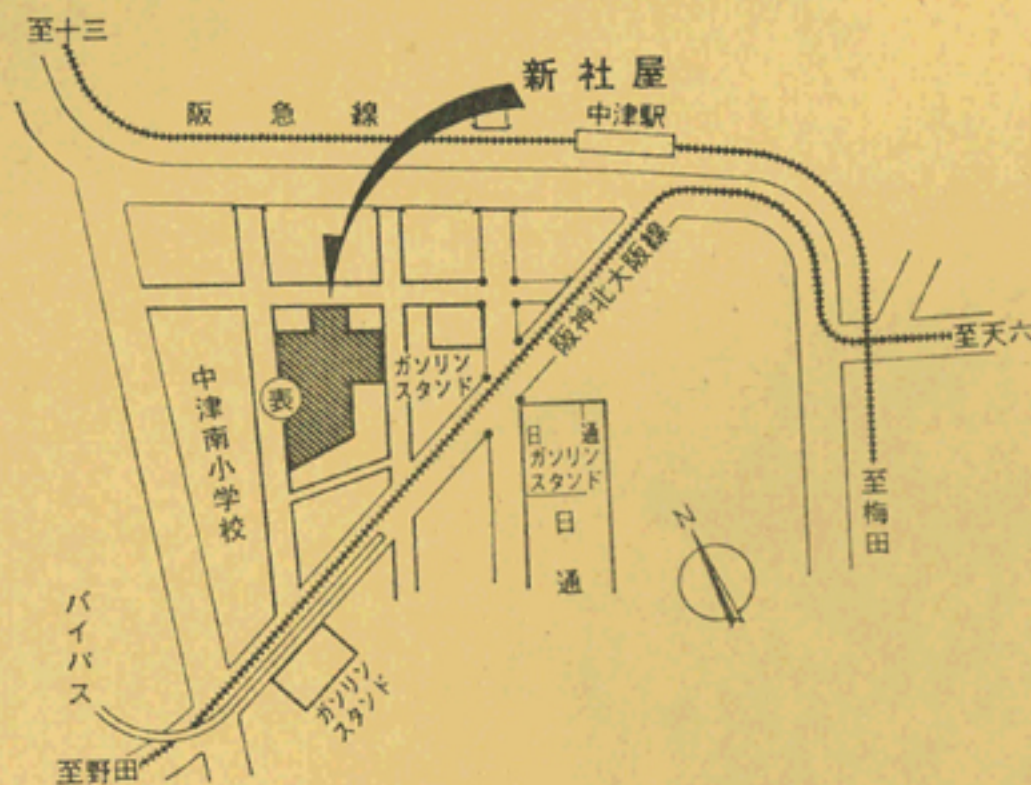
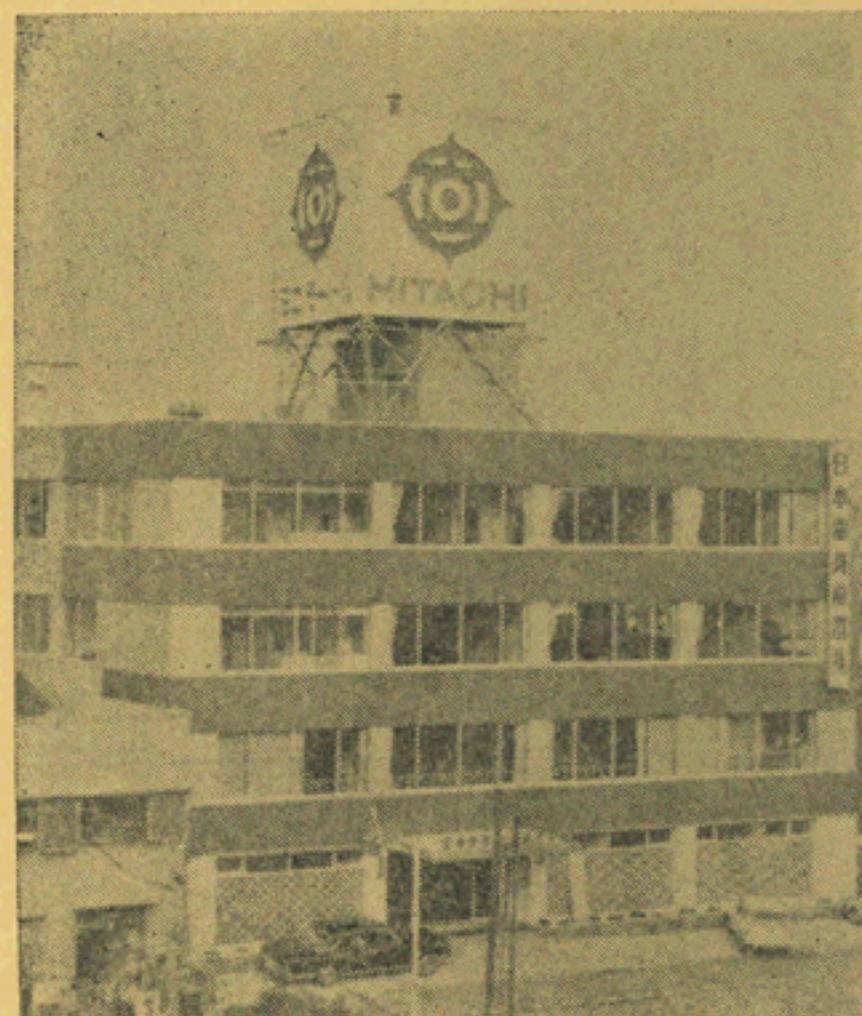
今年度の表紙絵を描きます。結局小樽の学校についてのもの

となりましようが、私の目の中の残像は薄れ、かすみ、その為に、近頃の同窓諸君から、これは違う、違う、と言われるかも知れません。私はプロ画かきの中では、プロ扱いをされていますが、アマの間では、アマであります。



営業品目

- | 日立商品 | 日立汎用機 | 日立冷凍機 | 電気工事 |
|-----------------------------------|-----------------------------------|--|--|
| 各種電機器具
各種動力機
各種電動機
各種動力機 | 各種搬送機械
各種ポンプ
各種排風機
各種圧縮機 | 各種冷蔵庫
各種冷凍機
各種除湿機
各種ショーケース
各種冷機応用品 | 各種工事設計施工
高圧受配電設備
低圧配電設備
冷暖房設備
電気配電相談 |



日本電気機器株式会社

取締役社長 天野雅司 (大正15年)

- 本社 ☎531 大阪市大淀区中津南通4丁目7-5 TEL大阪(452)1271(大代表)
夜間(452)1371~5
1270
- 神戸営業所 ☎652 神戸市兵庫区三川口町3丁目12-4 TEL神戸(55)3393~5
- 鹿島出張所 ☎314 茨城県鹿島郡鹿島町大字宮中2459 TEL鹿島(0325)1244



マックスファクター

北海道販売株式会社

社長 石崎 静 夫 (昭和8年卒)

本社 札幌市北6条東3丁目 電話大代表(72)1161番
営業所 札幌・函館・室蘭・旭川・帯広・釧路・北見・苫小牧・小樽